

CSR 情報

- 会社紹介
- 投資家のみなさまへ
- 採用情報
- CSR 情報
- 環境への取り組み
- 研究開発活動
- 資材調達基本方針



CSR報告 2012

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT 2012



トップコミットメント



CSRレポートダイジェスト版



ダイアログ



CSR達成像

CSRニュース

- 2012/08/01 CSR報告2012掲載
- 2012/08/01 CSR報告2012ダイジェスト発行
- 2012/07/23 「九州豪雨」で被災した計測器の復旧支援のお知らせ
- 2012/07/20 アンリツ産機システム株式会社が「第15回日食優秀食品機械賞」を受賞

[▶ もっと見る](#)

マネジメント


- 経営理念・経営ビジョン・経営方針
- コーポレート・ガバナンス
- アンリツグループ企業行動憲章
- アンリツグループ行動規範
- CSRマネジメント

アンリツの成長戦略とダイアログ

- 事業概要
- アンリツの成長とGLP2014
- ステークホルダーダイアログ
- 2011年度の実績、2012年度の目標
- 第三者意見、第三者意見を受けて
- 編集方針

【達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献】


- お客さまへのサービス
- 企業ブランドの確立
- 社会的課題への積極的対応



■ ダイジェスト版PDF (P.11-12)

【達成像2 グローバル経済社会との調和】


- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進
- サプライチェーンマネジメント
- 人権の尊重と多様性の推進
- 人財育成
- 労働安全衛生
- 社会貢献活動の推進



■ ダイジェスト版PDF (P.13-14)

【達成像3 地球環境保護の推進】


- エコマネジメント、エコマインド
- エコオフィス、エコファクトリー
- エコプロダクト開発
- サプライチェーンマネジメントの推進
- アンリツグループ環境負荷マスマバランス (2011年度)
- サイト別環境データ集 (2011年度)
- 環境会計 (2011年度の実績)
- 環境管理活動の歴史



■ ダイジェスト版PDF (P.15-16)

【達成像4 コミュニケーションの推進】

- ステークホルダーとのコミュニケーション



■ ダイジェスト版PDF (P.17)

CSR報告2012

CSR報告2012 ダイジェスト版 (PDF)

- 日本語 (12.3MB)
- 英語 (12.2MB)
- 中国語 (12.7MB)

CSR報告2012 詳細版 (PDF)

- 日本語 (7.5MB)



※こちらのPDFは「CSR報告2012」ウェブサイトを一括して印刷する為のデータとして掲載しています。

ライブラリ

CSR報告2011 ダイジェスト版 (PDF)

- 日本語 (4.3MB)
- 英語 (3.6MB)
- 中国語 (3.6MB)

CSR報告2011 詳細版 (PDF)

- 日本語 (20.5MB)
- 英語 (3.6MB)

[▶ もっと見る](#)

事業概要

CSR ニュース

事業概要

[トップコミットメント](#)

[アンリツの成長とGLP2014](#)

[アンリツのCSR達成像](#)

[CSRマネジメント](#)

[ステークホルダーダイアログ](#)

[達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献](#)

[達成像2 グローバル経済社会との調和](#)

[達成像3 地球環境保護の推進](#)

[達成像4 コミュニケーションの推進](#)

[2011年度の実績、2012年度の目標](#)

[第三者意見・第三者意見を受けて](#)

[CSRライブラリ](#)

[編集方針](#)

事業概要

アンリツは、進化を続ける情報通信の分野で、各種通信システムやサービス・アプリケーションの開発、品質保証に欠かせない計測器を提供しています。
 110年を超える歴史を通して蓄積してきたソリューションは、スマートフォン・携帯端末からのWebアクセスや音楽ダウンロード、テレビ会議や動画配信、デジタル放送などさまざまなサービスを支援しています。
 また、IP通信機器や食品・医薬品用異物検出機や重量選別機、携帯電話、デジタルカメラなど各種デジタル製品用精密計測機器なども提供。幅広い分野で、安全・安心で快適な社会づくりを支援しています。

毎日の生活につながるアンリツグループ

つなげる・みまもる・みつける。
 アンリツは、情報通信・映像監視・食品・医薬品などのさまざまな分野で、皆さまの暮らしやビジネスを支援、安全・安心で快適な社会づくりに貢献しています。

あなたの暮らしをより便利に、快適に。

— モバイル/ワイヤレスの情報通信サービスを支える。計測ソリューション —



あなたの暮らしに安心を。

— 食の安全、安全監視、映像検査などで暮らしを支える。各種ソリューション —



アンリツが提供するソリューションで安全・安心な社会へ

暮らしのインフラを支える。

— プロトバンドネットワークを支える。計測ソリューション —



[図を拡大する \(PDF\)](#)

トップコミットメント

CSR ニュース

事業概要

トップコミットメント

アンリツの成長とGLP2014

アンリツのCSR達成像

CSRマネジメント

ステークホルダーダイアログ

達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2 グローバル経済社会との調和

達成像3 地球環境保護の推進

達成像4 コミュニケーションの推進

2011年度の実績、2012年度の目標

第三者意見・第三者意見を受けて

CSRライブラリ

編集方針



本業を通じた社会価値の提供こそ、アンリツらしいCSR経営の実践

■ 経営ビジョンに引き継がれるアンリツのDNA

アンリツグループにとっての1990年代からの20年間は、企業存続のために多くのエネルギーを割かなければならない厳しい時代でした。とりわけ2000年代の、ITバブルの崩壊、リーマンショックなどの大きな環境の変化の前に、会社の存続も危うい経営状況を経験しました。

一方でアンリツグループは、研究開発投資や企業買収など積極的な経営施策も同時に展開してきました。どんなにつらい時でも、アンリツの存在価値を失わないために前向きに投資する努力こそ、私たちのDNAです。それはアンリツらしさを失わないための最低限の企業努力です。このアンリツの粘りと強みをさらに社会の向上発展に活かすために、私たちはもっともっと足腰を強くしなくてはなりません。

私は2010年の社長就任と同時に、その想いを組織全員の共通の想いにすべく、経営ビジョン「利益ある持続的成長を目指す」を打ち出しました。さらにそれを発展させて、2020年までに到達したい姿を「Anritsu2020VISION」として描き、その実現に向けて新たな第一歩を踏み出しました。

■ 安全・安心な社会の実現に社業を通じて貢献する

東日本大震災から1年余が過ぎました。アンリツグループは自らの本業を活かして被災地の復旧、復興をサポートしてきました。

通信インフラの復旧に欠かせない計測器や地元の水産業の復興に必要な産業機器の修理や代替品の提供はもとより、今なお原発被害に苦しむ福島県郡山市では、PTAの皆さまの不安を払拭し適切な行動をとって頂くための放射能勉強会などの開催にも努めました。さらに昨年9月の大きな被害をもたらした台風9号の襲来時には、不眠不休で水道設備の遠隔監視システムの復旧にもあたりました。

アンリツグループは、災害多発国の企業として、安全・安心な社会の実現に、より強い社会的使命感を持つものです。またその事業を担う社員も社会貢献を誇りとしています。東北地方の復興には、まだまだ多くの時間と社会支援が必要です。アンリツは被災地の皆さまに寄り添い、アンリツらしさで復興を支援してまいります。

■ 117年が証明する誠実な企業活動

本2012年は、情報通信業界において記念碑的な年となります。世界初の実用無線電話機であるTYK式無線電話機が発明されてから100年の節目にあたるからです。「元祖ケータイ」と称されるTYK式無線電話機は、アンリツの前身、安中電機製作所によって製作されました。

以来、当社は一貫して情報通信のフィールドで事業を展開し、計測事業をはじめ、重量選別、異物検出、帯域制御、光デバイスなど、さまざまな事業へと発展させています。創業当初からすると、アンリツグループの事業は様変わりです。

しかし、その根底には、経営理念で掲げる「誠と和と意欲」、「オリジナル&ハイレベル」を一貫して誠実に、紡ぎ、繋ぎ、宿し、磨いてきたからこそ、117年の歴史を刻むことができたと確信します。

■ 本業にこだわる。これこそがアンリツが信条とするCSR経営

「本業を通じた社会貢献」。これは、私のCSR経営における変わらぬ信条です。現在、情報通信業界では、スマートフォン・タブレット端末の急激な普及に伴う、モバイルデータトラフィックの急増への対処が課題となっています。

また、国内では東日本大震災からの復興、災害に強い国づくりが急務であることに加え、環境・エネルギー問題、高齢化社会、医療・教育格差などが国際社会共通の課題となっています。情報通信技術を核に、さまざまな社会・公共システムがシームレスにつながり、「より賢く」、「より機敏に」そして、「より人と環境に調和したものへ」と進化してこそ、こうした課題や矛盾の克服が可能となるのではないのでしょうか。

情報通信ネットワークや食品・医薬品の品質保証技術、遠隔監視技術などを有する企業集団として、いかに振舞うか。その判断の機軸は、社会に役立つか、否かです。アンリツグループはこれからも、コア・コンピタンスの先進性を高め、適応力を磨き、より良い社会づくりの輪に加わってまいります。

■ 経営理念・経営ビジョン・経営方針

アンリツは、経営理念、経営ビジョン、経営方針が掲げる基本原則を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示す国連グローバル・コンパクト、および具体的な価値観・行動指針を示すアンリツグループ企業行動憲章を守ることを通して、CSR活動を推進しています。



(図をクリックすると拡大します)

■ 国連グローバル・コンパクト (United Nations Global Compact)



アンリツは、国連グローバル・コンパクトの活動に賛同し、2006年3月に参加を表明しました。

※国連グローバル・コンパクト：人権、労働基準、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・アナン前国連事務総長が提唱し、2000年7月ニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

▲ページ先頭へ戻る

アンリツの成長とGLP2014

CSR ニュース

- 事業概要
- トップコミットメント

アンリツの成長とGLP2014

- アンリツのCSR達成像
- CSRマネジメント
- ステークホルダーダイアログ
- 達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2 グローバル経済社会との調和
- 達成像3 地球環境保護の推進
- 達成像4 コミュニケーションの推進

2011年度の実績、2012年度の目標

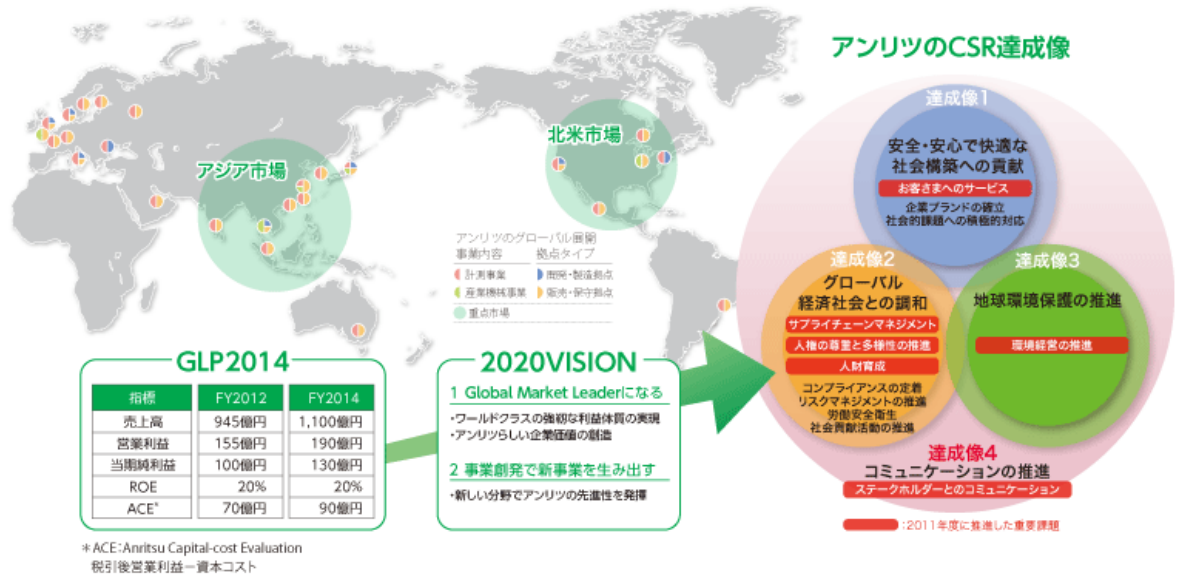
第三者意見・第三者意見を受けて

CSRライブラリ

編集方針

アンリツの成長戦略と連動した取り組みで達成像の実現へ

アンリツグループは、経営理念である「誠と和と意欲をもって、「オリジナル&ハイレベル」な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する」のもと、事業を通じて社会の持続的成長の実現に向けた取り組みを行っています。

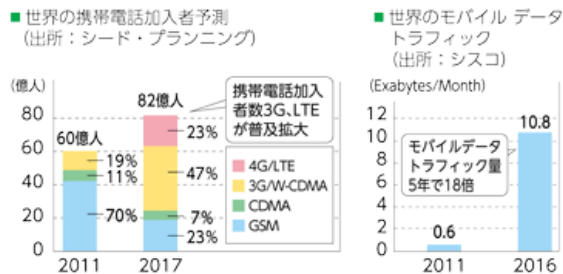


「2020VISION」に向けたGLP2014

アンリツは今、「2020VISION」の達成に向け、全社をあげて活動しています。経営ビジョンである「衆知を集めたイノベーションで“利益ある持続的成長”を実現する」を軸とし、110年を超える歴史を通じて蓄積してきたオリジナル&ハイレベルな技術、グローバルなサポート力をさらに磨き、アンリツらしい有形・無形の企業価値を創造していきます。この「2020VISION」のマイルストーンとなる次期中期経営計画として、GLP2014を発表しました。

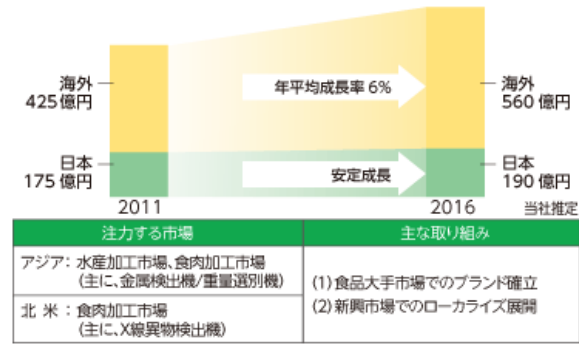
スマートフォン・タブレット端末の加速度的な普及に伴い、通信トラフィックは今後5年で18倍に増大すると試算されており、マーケットは年率3~5%で成長すると見込まれていますが、主力の計測事業のGLP2014では、それを超える年7%以上の売上成長率を目指します。

成長ドライバーは「モバイル・ブロードバンド・サービス」の益々の発展と普及であり、アジア市場を軸に競争力の強化に努めます。この大きなトレンドのもと、既存のソリューションの進化に加え、計測事業以外の分野においても、アンリツグループのコア・コンピタンスと先進性を生かした事業創発に取り組めます。



また産業機械事業では、先進の日本市場で築いたトップサプライヤーとしての地位を活かし、アジア及び北米市場での存在感を増すことで、年7%以上の売上成長率を目指します。

食品薬品関連の品質保証市場規模



事業戦略と連動したグローバルCSR

これらの事業を推進するにあたっては、アンリツグループの経営理念、経営ビジョン、経営方針が掲げる基本指針を実践するとともに、グローバル企業として行動すべき原則を示す国連グローバル・コンパクト、および企業の行動理念を示すアンリツグループ企業行動憲章の実践を通して、社会的責任を果たしていきます。

アンリツグループは、2006年に自らの将来における、あるべき姿を4つの達成像として設定しました。事業のグローバル展開に連動したCSR経営の基盤をつくりグローバル・マーケットリーダーを目指します。

達成像 1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

アンリツの姿	アンリツは、オリジナル&ハイレベルな技術によって、皆さまの安全と安心を守るために貢献している。
社員の姿	社員一人ひとりが、お客さまの声を聞き、市場の期待を上回る品質の商品・サービスと迅速なサポートを提供している。
社会からの評価	そして、アンリツの技術に対する一定の評価をいただきつづけて、アンリツブランドの信頼を築いている。

達成像 2

グローバル経済社会との調和

アンリツの姿	アンリツは、グローバル展開において、各地域の文化や特性と調和した事業活動を行い、サプライチェーン全体で社会的責任を果たしている。
社員の姿	社員一人ひとりが、コンプライアンスを意識し人権を尊重し、多様な属性・文化・価値観のもとで生き生きと働き、成長している。
社会からの評価	そして、地域に密着した社会貢献活動により、地域・社会との信頼関係を構築している。

達成像 3

地球環境保護の推進

アンリツの姿	アンリツは、環境理念のもと、製品ライフサイクル全体を通じて、地球温暖化防止、循環型社会の形成、地球のクリーン化に取り組む環境経営が定着している。
社員の姿	社員一人ひとりが、エコマインドを高め、自身の業務に密着した環境活動を自立して実践している。
社会からの評価	そして、グローバル環境経営を推進し、地球環境保護に積極的に貢献する企業として社会から認知されている。

達成像 4

コミュニケーションの推進

アンリツの姿	アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、パートナーシップを構築している。
社員の姿	社員一人ひとりが、ステークホルダーからの期待に耳を傾け、積極的なコミュニケーションを行い、相互理解を醸成している。
社会からの評価	そして、ステークホルダーに対してアンリツの姿を正しく伝え、アンリツに対する評価と信頼を築いている。

▲ ページ先頭へ戻る

アンリツのCSR達成像

CSR ニュース

- 事業概要
- トップコミットメント
- アンリツの成長とGLP2014
- アンリツのCSR達成像

CSRマネジメント

- ステークホルダーダイアログ
- 達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2 グローバル経済社会との調和
- 達成像3 地球環境保護の推進
- 達成像4 コミュニケーションの推進
- 2011年度の実績、2012年度の目標
- 第三者意見・第三者意見を受けて
- CSRライブラリ
- 編集方針

■ アンリツのCSR達成像

アンリツは2008年度に、CSR活動の方向性をより明確化、具体化するための長期的な目標として、4つの「CSR達成像」を定めて活動してきました。

達成像1から達成像4は、それぞれCSRの課題を分かりやすい言葉で表現しています。また、社内の業務に関わる重要課題12項目を定め、達成像1から達成像4の最適なグループに振り分けています。

さらに、4つの達成像には将来の目指すべき「あるべき姿」を「アンリツの姿」、「社員の姿」、「社会からの評価」として表現しています。



【達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献】

- アンリツの姿
アンリツは、オリジナル&ハイレベルな技術によって、皆さまの安全と安心を守るために貢献している。
- 社員の姿
社員一人ひとりが、お客さまの声を聞き、市場の期待を上回る品質の商品・サービスと迅速なサポートを提供している。
- 社会からの評価
そして、アンリツの技術に対する一定の評価をいただきつけ、アンリツブランドの信頼を築いている。

【重要課題】

- お客さまへのサービス
- 企業ブランドの確立
- 社会的課題への積極的対応

【達成像2 グローバル経済社会との調和】

- アンリツの姿
アンリツは、グローバル展開において、各地域の文化や特性と調和した事業活動を行い、サプライチェーン全体で社会的責任を果たしている。
- 社員の姿
社員一人ひとりが、コンプライアンスを意識し人権を尊重し、多様な属性・文化・価値観のもとで生き生きと働き、成長している。
- 社会からの評価
そして、地域に密着した社会貢献活動により、地域・社会との信頼関係を構築している。

【重要課題】

- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進
- サプライチェーンマネジメント
- 人権の尊重と多様性の推進
- 人材育成
- 労働安全衛生
- 社会貢献活動の推進

【達成像3 地球環境保護の推進】

- アンリツの姿
アンリツは、環境理念のもと、製品ライフサイクル全体を通じて、地球温暖化防止、循環型社会の形成、地球のクリーン化に取り組む環境経営が定着している。

- 社員の姿
社員一人ひとりが、エコマインドを高め、自身の業務に密着した環境活動を自立して実践している。

- 社会からの評価
そして、グローバル環境経営を推進し、地球環境保護に積極的に貢献する企業として社会から認知されている。

【重要課題】

- [環境経営の推進](#)

【達成像4 コミュニケーションの推進】

- アンリツの姿
アンリツは、事業活動全体を通して、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、パートナーシップを構築している。

- 社員の姿
社員一人ひとりが、ステークホルダーからの期待に耳を傾け、積極的なコミュニケーションを行い、相互理解を醸成している。

- 社会からの評価
そして、ステークホルダーに対してアンリツの姿を正しく伝え、アンリツに対する評価と信頼を築いている。

【重要課題】

- [ステークホルダーとのコミュニケーション](#)

CSRマネジメント

CSR ニュース

- 事業概要
- トップコミットメント
- アンリツの成長とGLP2014
- アンリツのCSR達成像

CSRマネジメント

- ステークホルダーダイアログ
- 達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2 グローバル経済社会との調和
- 達成像3 地球環境保護の推進
- 達成像4 コミュニケーションの推進
- 2011年度の実績、2012年度の目標
- 第三者意見・第三者意見を受けて
- CSRライブラリ
- 編集方針

■ 事業活動によるCSR

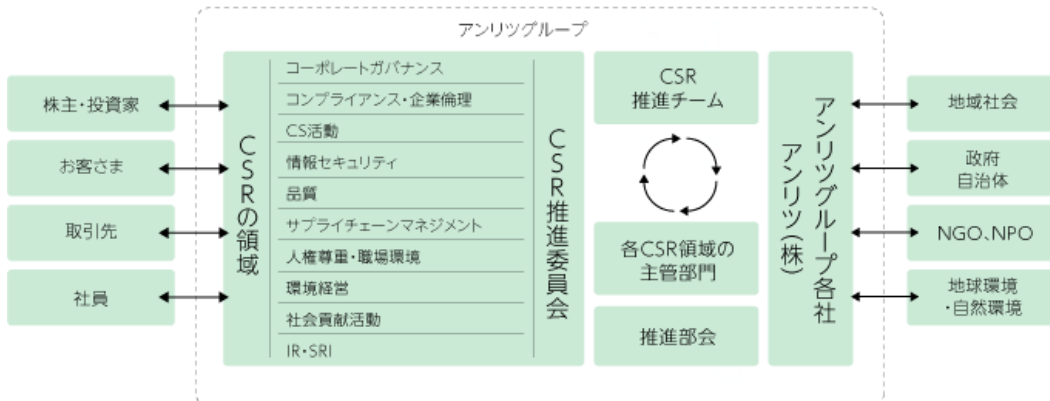
アンリツグループは、『誠と和と意欲』を掲げた経営理念のもと、法令・倫理・社会規範の遵守をベースに、事業活動によるCSRを通して経済・社会・環境面の企業責任を果たします。また、コミュニケーションによってステークホルダーの皆さまとのより良い関係を構築し、企業価値およびブランド価値の向上を目指します。



■ CSRの推進体制

2004年11月に発足したCSR推進委員会では、社長が委員長を務め、経営トップ自らがCSR推進を牽引しています。また、多岐にわたる部門の活動を統一的に推進するために、専従部門としてCSR推進室を組織しました。現在はコーポレートコミュニケーション部CSR推進チームとなり、CSR推進委員会の事務局を務めCSR推進委員会の方針のもとアンリツのCSR活動を推進しています。CSRは一部門、一組織だけで実現できるものではなく、アンリツ全部門、グループ会社の協力なくして成功はありません。そこで、実効ある活動を進めるために、CS・品質、人権、社会貢献など、CSRの各領域を主管するアンリツ（株）の担当部門を中心に、グループ会社と横断的な連携をとり、CSR推進チームが事務局となって活動を推進しています。各領域についてCSRの視点で現状を把握・分析し、今後アンリツとして充実すべき課題の解決に取り組んでいます。

CSR推進体制



[▲ ページ先頭へ戻る](#)

ステークホルダーダイアログ

CSR ニュース

- 事業概要
- トップコミットメント
- アンリツの成長とGLP2014
- アンリツのCSR達成像
- CSRマネジメント
- ステークホルダーダイアログ

達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2 グローバル経済社会との調和

達成像3 地球環境保護の推進

達成像4 コミュニケーションの推進

2011年度の実績、2012年度の目標

第三者意見・第三者意見を受けて

CSRライブラリ

編集方針



ステークホルダーダイアログ

ファシリテーター: サステナビリティ会計事務所 福島隆史

テーマ: グローバル展開するアンリツグループに期待するCSR

アンリツでは「コミュニケーションの推進」を4つの達成像の一つとして重要視し、CSR経営の全体を支える基本的な姿勢と位置づけています。これまでにアンリツグループと関わりのある有識者3名にご参集いただき、中期経営計画「GLP2014」を踏まえたこれからのアンリツに期待するCSRを検討しました。

ダイアログ参加者（有識者）プロフィール



山口俊宗様

経済人コー円卓会議日本委員会
ディレクター

2007～2008年に12の重要課題を抽出した重要性測定でアンリツをご支援いただきました。



赤羽 真紀子様

CSRアジア 東京事務所
日本代表

外部の勉強会の機会を通じて、最近のアンリツCSR活動へのコメントをいただきました。



後藤 大介様

株式会社アイディアシップ

2007年までの3年間、達成像の策定や情報開示のあり方をご支援いただきました。

ダイアログ参加者（アンリツ）プロフィール



谷合 俊澄

取締役 執行役員
環境統括



川辺 哲雄

執行役員
経営企画室長



土肥 正彦

CSR推進チーム
部長

アンリツのCSRへの期待や課題

福島

まず土肥様より、アンリツグループのCSRの取り組みをご紹介いただき、参加者の皆さまからはアンリツの中期経営計画GLP2014を踏まえたこれからのアンリツのCSRへの期待や課題をおうかがいしたいと思います。

土肥

アンリツのCSR経営は「五方よし」を根幹としながら、自らの将来におけるあるべき姿である4つの達成像を目指して取り組みを進めてきました。今年度策定した中期経営計画GLP2014では、2020VISIONである「グローバル・マーケットリーダーになる」および「事業創発で新事業を生み出す」の達成に向かう過程として、市場成長率を超える売上7%以上、営業利益率20%以上の成長を目指してグローバル、特にアジアへの事業展開を打ち出しました。

本日はこのGLP2014を踏まえ、これからのアンリツのCSRへの期待や課題をおうかがいしたいと思います。

山口

アンリツの経営成績はROEが20%を超え、営業利益率でも世界の競合と同レベルを狙える状況にあります。モバイル通信分野で最先端技術を持つ優位性を生かして、国際標準規格の策定段階から入り込む勝ちパターンは日本企業でも珍しいものです。その大きな成果としてのGLP2012の前倒し達成を含む好業績と理解しています。まさにイノベーションが成功の源泉と言えるでしょう。

今後の取り組みにおいて重要なことは、「お客さまの役に立つ」イコール「サステナビリティ」ではないということです。「お客さまニーズの追求」だけでなく、多様な価値観を前提とした社会的課題解決にどう貢献するのか観点でグローバル企業としてのCSRビジョンを示し、プロセスに落とし込むことを期待します。



アンリツギャラリーでの製品紹介

赤羽

中期経営計画GLP2014のご説明でも「グローバル・マーケットリーダーを目指す」と明言し、具体的にどのように進めていくかが示されており、誠実で意欲的だと感じました。アジアで事業を展開している日系の企業に関してよく感じるのですが、権限移譲がうまく進んでいないようです。権限移譲を上手くやっていくことがグローバル企業のCSRを進める上で課題になるでしょう。

後藤

最近のアンリツのCSR報告書やアニュアルレポートを拝見すると、以前よりも用語が洗練され、短い言葉で語られているようです。ただ、アンリツのCSRを説明する言葉の中で「サステナビリティ」はじめ、「イノベーション」「グローバル化」など社内で十分に消化されていない言葉もあるような印象を受けています。社内でも人によって、少し違うニュアンスで使われているような気がします。アンリツ社内でしっかりと議論し、定義を固め、社内外に向けてブレのないメッセージの発信を行っていくことが必要です。それが、活動としての「サステナビリティ」「イノベーション」につながると考えます。

これからのサステナビリティ経営

福島

山口様からも、後藤様からも「サステナビリティ」がキーワードとして出ました。「サステナビリティ」を語る際に注意すべき点や、これからのサステナビリティ経営のポイントについて、ご意見いただけますでしょうか。

山口

最近では、社会的なニーズや課題とテクノロジーのつながりや関係が見えにくくなっていると言えます。例えば、明治時代や戦後は人の役に立つことが、社会的課題に直接つながっていました。現在は「利便性」が追求されるあまり行き詰まりを見せており、その中で「持続性」が注目されてきているのです。「利便性」だけではない、それを超えた概念として、「サステナビリティ」があり、国連グローバル・コンパクトやミレニアム開発、国連持続可能な開発会議（通称：リオ+20）が開催される状況となっています。

企業としては、例えば人権問題に対して、自社がどんな影響を及ぼしているのかを把握し、あるべき姿からバックキャスト的に分析して、何をすべきかを考える必要があるでしょう。日本のように責任と考えると「やらないといけないからやる」のではなく、競争力の源泉と捉えて戦略的に進めることが重要です。その意味で、海外の先進企業の進め方は参考になるでしょう。

福島

山口様から、顧客ニーズを捕まえるだけではなく、持続可能性に貢献するため、何をすべきかを考えて行動すべきというご意見をいただきました。これに対してアンリツとしては、どのように捉えていらっしゃいますでしょうか？

川辺

今の事業での成功が今後も続くとは限りません。いずれはモバイル関連の顧客ニーズも変わってくるでしょう。そのために、新しいビジネスを仕込んでいかなければなりません。

今回発表した2020VISIONは、グローバル・マーケットリーダーと事業創発という2つの大きな柱で構成されています。まさに今、並行して新しいビジネスの検討を始めているところです。社会インフラ、エネルギー、食品の安全性などの様々なテーマについてグローバルに捉え、10年後あるいは更に先の社会的課題を見据えて新しいビジネスの創造を検討しています。



ダイアログの様子

イノベーションはアンリツの経営ビジョンにも経営方針にも含まれる言葉であり、さまざまな局面で起こり得るものです。高速データ通信のない社会インフラは考えられない現代において、アンリツの持つコア・コンピタンスからの発想と、医療や教育などのメガトレンドからのアプローチを軸に、2020VISIONで掲げた「事業創発で新事業を開拓する」という目標にチャレンジします。

山口

ありがとうございます。アンリツの製品である計測器が、エンドユーザーの携帯電話市場を掘り起こす、というわけではないため、直接的に市場に影響を及ぼす企業とはまた、「サステナビリティ」に寄与する施策も違ってくると思います。

一方で、バリューチェーンやその周辺の技術的ルール、社会システムを抑えているという特徴は日本企業がなかなかできていないところでもあり、アンリツの特徴を活かすことができるポイントだと思えます。

グローバルでのCSR課題

福島

続いて、GLP2014でも成長ドライバとされているアジア市場での競争力の強化についてうかがいたと思います。グローバル全体のニーズとアジアニーズとの調整や、製品・サービスのアジア市場へのローカライズなど、現地化戦略を教えてください。

そしてもう一つ。イノベーションを競争力の源泉とするアンリツではやはり人財が重要ですので、アジアにおける人事戦略をお聞かせください。

谷合

現状、主力の計測事業では開発・製造拠点を日本、アメリカ、ヨーロッパに配置し、アジア地域のお客さまに対しては販売・保守を担当する複数のグループ会社が、アンリツの製品・サービスを提供しています。製品モデルによっては今後、現地生産・現地販売を検討していきます。

このようなマーケットのグローバル化に対して、我々の組織も多様性を高める必要があると認識しており、人財採用や人財育成におけるグローバル化を今後、進めていきます。

赤羽

業界を問わず、中国・インド・インドネシアは大きな市場として注目されています。これらの地域には多くの海外企業が参入し、優秀な人財の獲得競争は激しく、売り手市場が続いています。スキルや能力の高い人財はSNSで情報を交換するので、企業の評判はすぐに伝わります。

アンリツの場合、今後はアジアでの携帯電話の第2世代から第3世代への移行において存在感が増してくると考えられますし、販売拠点だけではなく、タイには産業機械の工場もあります。

CSRアジアの調査では、日本企業だけではなく各社で人権や人財育成において悩みが多いことが分かっています。

日本の本社から現地法人の高いポジションで配置され、2年ほどで日本に戻る人事異動をローカルスタッフはよく見えています。そういった企業では自分たちが十分に活躍できるとは考えないため、優秀な人財を維持しなければ注意が必要です。

谷合

アンリツの海外グループ会社では現地の人財がトップを担っています。グループ・グローバルの本社として、行動規範の更なる浸透と統制が今後の課題と考えています。そのための体制づくりを継続して進めていきます。

赤羽

現地の人財がトップの場合、やはり求心力が違います。優秀な人財が集まり、社員満足度も高い傾向にあります。アンリツにおいてもポリシーステートメントを明確に示し、これを各国に展開しながら、ローカルへの権限移譲を上手く進めて欲しいと考えます。

後藤

類似する議論として、コンプライアンスや労働安全衛生などがあります。これらは会社単位で行う課題とされ、海外グループ会社まで含めてグループ・グローバルに管理されているケースは少ないのが実態です。

それに対して、アンリツのグローバル対応ではグループ企業行動憲章と各国の行動規範を網羅した行動規範（Code of Conduct）の策定などが進んでおり、この点を評価したいと思っています。海外の優良企業と比較すると弱いかも知れませんが、日本的な経営スタイルの良さも保ちながら、グローバル化の成功モデルを作りたいと考えています。

土肥

赤羽様がおっしゃったポリシーステートメントを策定して展開することはグローバル企業として、最低限必要なことだと認識しています。

後藤様から紹介いただきましたが、当社では2010年に橋本社長が就任した後、経営ビジョンを改訂し、コンプライアンスの重要性を伝えるとともに「アンリツグループ企業行動憲章」及び「アンリツグループ行動規範」も改訂しました。

「アンリツグループ行動規範」の周知のため、これを英語・中国語にも翻訳し、「アンリツグループの一員としての心得」を作成し、各カントリーマネージャーを通じて国内外のグループ全社員に配布・浸透させました。



事前の生産現場見学

地域別課題の把握と全体マネジメント

山口

アンリツは全世界でバランスよく展開していらっしゃいますが、CSRの観点で見た場合、例えば人権のように、各地域で何が課題になっているのか、その把握状況はいかがでしょうか？

谷合

なかなか100%把握できている、とは言えないですね。



ダイアログの様子

山口

「グローバルでの調和を図る」と言っても、自然に調和することは期待できません。例えば人権に対する考え方はまだまだ各国でも統一できていません。人財の多様性、多様な価値観を認めながら、上位レベルで方針を示し、合意を取って進めていく必要がありますが、これは現地に権限移譲しないと実現することはできません。海外の各地でテーマを決め、そこに各国の情報を収集させて、本社で決定するというスタイルで進めているという事例があります。このようにCSRマネジメントをローカルとグローバルで戦略的に進めるべきでしょう。

福島

グローバルビジネスで人権が課題になることは多いようですが、実際のところ、大上段に構えて人権を扱っている日本企業は少ないのではないのでしょうか？

赤羽

そうですね。ただ別に日本企業が特に遅れているというわけではありません。歴史的な背景により、多様性の問題に対応してきた中国やマレーシアでは柔軟な思考回路を持つ人財が豊富ではあるものの、これらの国でも人権は大きな課題となっています。

アジアの経営者77人へのアンケートでも「人権」と「サプライチェーン」が悩みとなっています。人権の課題はサプライチェーンから手を付けるのがよいでしょう。チェックリストを送付して監査を実施するのではなく、取引先を訪問し、インタビューも行うなど、地道な活動を通じて課題を把握していくことをおすすめします。

地球環境保護やコミュニケーションの推進

福島

ここまで、達成像1：安全・安心で快適な社会構築への貢献、達成像2：グローバル経済社会との調和について、ご意見をいただきました。続く、達成像3：地球環境保護の推進、や達成像4：コミュニケーションの推進についてもコメントをいただけますでしょうか。

後藤

達成像3の環境については外部アンケートでも頻繁に問われるところかと思います。企業としてはグループ・グローバルでの、また製品ではライフサイクル全体でのCO₂をはじめとする環境影響の把握が必要です。

アニュアルレポートで示される資本効率のKPIだけではなく、経営効率を図る指標として、営業利益とCO₂を関連付けたKPIも検討いただければと考えます。



ダイアログの様子

赤羽

厚木地区での自主的な土壌調査で確認された土壌汚染の情報がホームページで開示されていました。こういったネガティブ情報のタイムリーな開示はとても素晴らしいものです。環境のKPIとして、研究開発費に占めるエコプロダクツの割合、1人あたりの研修時間などを開示するとよいでしょう。企業のエコプロダクツや人財に対する本気度が見えてきます。また、代替エネルギーの使用についても注目が高まっています。

それから、エクセレントエコ製品の研究開発について、どれだけ費用をかけたかを開示することが求められます。これは、会社として環境配慮製品にどれだけ取り組んでいるか、という企業の姿勢が問われているとお考えください。

山口

環境についてはグローバルでのコンセンサスが進んでおり、アンリツの取り組みも評価が高いと言えます。将来的なリスクとして、水と生態系への依存度合いも注視した方がよいでしょう。

福島

達成像4のコミュニケーションについてはいかがでしょうか。

赤羽

アンリツはCSRレポートのダイジェスト版を英語や、中国語でも発行されており、その点は評価が高いと言えます。

ただ、今年のレポートが特殊だったのかも知れませんが、東日本大震災での被災に対する言及がそのまま英語や中国語に翻訳されると、誰に向けて発信しているメッセージなのか分からなくなってしまうので注意が必要です。東北で被災した外国人に対するメッセージとも受け取られかねません。

山口

今、企業にはさまざまな指標での情報開示が求められています。それらの情報でステークホルダーが企業を評価します。アンリツのCSR経営の根幹にある「五方よし」の「よし」は今やステークホルダーが判断するのです。



事前の生産現場見学

赤羽

たとえば、人に関する情報開示としては、グローバルでの社員の育成や、労働安全の研修に何時間費やしたか、などのKPIを開示している海外企業が増えてきました。これらのデータを開示することで、企業が人財育成にどれほど本気で取り組んでいるかが分かります。

後藤

以前は達成像1：安全・安心で快適な社会構築への貢献でCS（顧客満足）を扱っていたようですが、今はお客さまとのコミュニケーションということでも取り上げ、達成像4でも語られています。

また、2010年の時点では達成像1でイノベーションというキーワードは出てきていませんでした。これらの点から、アンリツのコミュニケーションが次のレベルに進んだという印象を受けています。

イノベーションがどのようにして起こるのか、どうやって起こしていくか。

マーケットドリブンやカスタマーフォーカスよりも、広い考え方でイノベーションを捉え、言葉の定義をしっかりと議論すべきだと思います。

異質なものがぶつかったり、交差したりしながらコミュニケーションが生まれ、達成像1と4が上手く関連づけられるとさらにレベルが高まると考えます。

ご意見を受けて

川辺

中期経営計画GLP2014と並行して、CSRの中期経営計画を策定しているところで、そこには人権への取り組みなども含まれます。CSRのいろいろな項目で地域マトリクスを作成したところ、実は網羅的に把握していないことが分かります。

グローバルに考えると、さまざまな地域でリスクがあり、今はそのリスクが顕在化しないよう、予防的アプローチを使ってチェックを行っているところです。

谷合

海外の人事については権限移譲しているので、その点ではグローバルではあるものの、一方で統制が十分とは言えません。

今後はグループ・グローバルにおける本社の役割を明確にし、本社からの統制とローカルへの権限移譲のバランスを取って事業戦略と連動したグローバルCSRを進めていきたいと思っています。

土肥

本日は貴重な意見をたくさんいただき、ありがとうございました。

GLP2014と関連したCSRの中期経営計画を策定しており、事業計画に沿った課題を取り上げ活動を推進します。

今日いただいたご意見を参考にして今後の施策を検討していきます。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献

CSR ニュース

- 事業概要
- トップコミットメント
- アンリツの成長とGLP2014
- アンリツのCSR達成像
- CSRマネジメント
- ステークホルダーダイアログ

達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2 グローバル経済社会との調和

達成像3 地球環境保護の推進

達成像4 コミュニケーションの推進

2011年度の実績、2012年度の目標

第三者意見・第三者意見を受けて

CSRライブラリ

編集方針



達成像
1

安全・安心で快適な社会構築への貢献

アンリツは、「オリジナル&ハイレベル」な商品とサービスによって皆さまの安全と安心を守り、事業活動を通じて社会的な課題へ積極的に対応します。

執行役員 グローバル営業総括 永田 修



米州、EMEA、アジアに展開する19の現地法人を通じ、お客さまからの期待を超える「感動」をお届けすることがグローバル営業統括としての私のミッションです。コミュニケーションの幅が広がり、個人と世界がダイレクトかつリアルタイムにつながる現代において、アンリツの計測事業ではより早くクリアで安全な通信環境を支える、オリジナリティのあるハイレベルな商品やサービスを提供しています。

これと並行して、お客さまからの将来の期待や夢をお聞きし商品開発に生かすよう、マーケティング、開発部門などに生の声を届け、イノベーションを喚起しています。50年後の未来を想像し夢を実現するには、毎日の業務にイノベーションを意識して取り組む姿勢が大切です。グローバル化がさらに進み、宇宙におけるあるべき姿を描く日もそう遠くはありません。引き続き、「つながる」という側面から、より魅力的で持続可能な社会の実現に貢献していきます。



経済人コー円卓会議日本委員会 ディレクター
山口 俊宗様

有識者からのコメント

「お客さまの役に立つ」イコール「サステナビリティ」ではありません。アンリツには、先進性あるイノベーションで、社会的課題の解決に貢献することを期待します。

■ [ステークホルダーダイアログ](#)

お客さまへのサービス

お客さまに対するテクニカルサポートやクレームなどへの迅速な対応を重視するとともに、サポート体制および情報共有体制の構築を推進し、安全と安心のご提供を目指します。

社会的課題への積極的対応

アンリツはグローバルな社会の要請に対して、事業を通じて積極的に対応していくことを重視しています。

企業ブランドの確立

アンリツは、「オリジナル&ハイレベル」な商品とサービスによって皆さまの安全と安心を守り、事業活動を通じて社会的な課題へ積極的に対応します。

お客さまへのサービス

お客さまへのサービス

- 企業ブランドの確立
- 社会的課題への積極的対応

お客さまへのサービス

■ 基本的な考え方

アンリツは、「お客さまから厚く信頼される企業になろう」という行動指針のもと、社員一人ひとりが「お客さまは何を求め、何に困っているか」をいつも念頭に置いて、誠心誠意お客さまに尽くし、お客さまとのコミュニケーションを密にし、お客さまのご要望にお応えしていくことが重要だと考えています。お客さまとのWin-Winの関係を構築し、お客さまにご満足いただけるような新たな価値をご提案していきます。

また、お客さまと直接お会いする社員の意識付けも重要な課題と捉え、啓発や教育、表彰制度などにも力を入れています。

CS推進体制

国内アンリツグループでは、グループ各社より選任されたメンバーで構成されたCS推進部を中心にCS活動を推進しています。3年ごとに中期計画を策定し、それに基づき改善活動を実施しています。

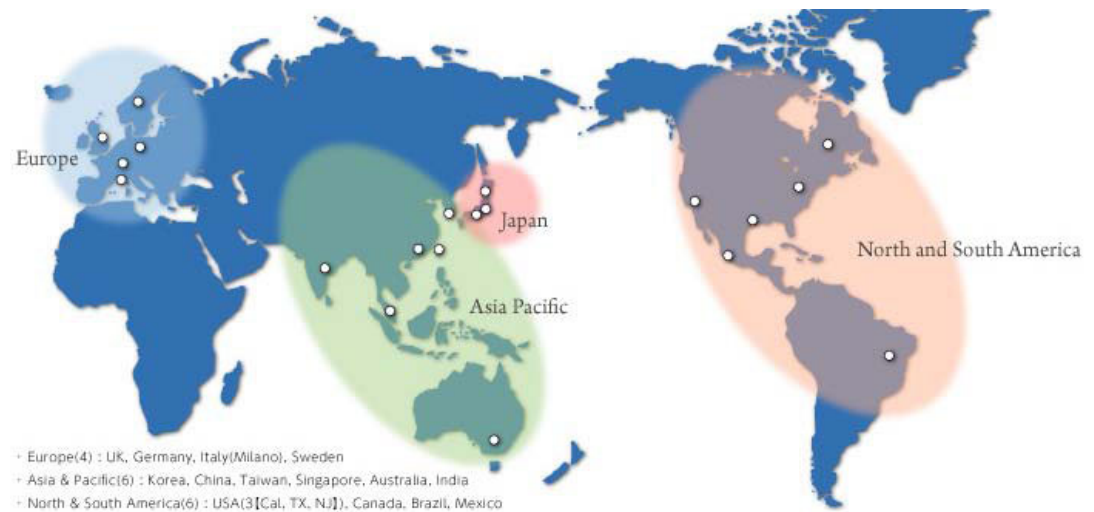
2012年度までの中期計画は「お客さまのアクセシビリティの向上」を目標としており、2011年度はお問い合わせ窓口の整備を行い「利用しやすい窓口」を目指しました。

また、各国で個別に実施しているCS推進活動を共有するために、2011年度は中国のCS推進活動の現状をヒアリングし意識合わせを行いました。

グローバルサービス

アンリツ計測器カスタムサービス（株）は、電子計測器の校正や修理といった「保守サービス」、EMCなどの「試験サービス」、国内のお客さま向けのテクニカルサポートや海外サービス拠点を支援する「サポートサービス」の3つのサービスを柱に事業展開しています。「サポートサービス」ではグローバルサービスとして14カ国18箇所にあるアンリツ製品のサービスセンター向けに、計測器の保守用部品や校正自動化ソフトなどを提供するなど、さまざまな技術的なサポートを行っています。

グローバルなお客さまに同一のサービスを提供するために、CS調査を各国で同時に実施し、お客さまの声を改善活動に反映させています。2011年度は、いただいたご要望やご不満に対応し、ウェブを利用したサービスの依頼システムや物流システムを改善しました。



また、アンリツ産機システム（株）の保守ネットワークは現在約40カ国におよび、グローバルにビジネスを展開するお客さまにも安心の保守サービスを提供しています。

グローバルウェブの改善

2010年度は全世界のお客さまに同一のサービスやサポートを提供できるよう、ウェブサイトの言語を多言語表記とし、デザインや操作性を統一しました。2011年度はより良い環境でウェブサイトを利用できるよう操作性を改善するとともに、国内グループ会社のデザイン統一を推進しました。

また、動画配信システムとして「AnritsuTV」を構築し、直感的でわかりやすいビデオコンテンツを提供しています。今後もアンリツはグローバルなお客さまに満足していただくよう、より迅速な情報発信やサービス向上に努め、十分なコミュニケーションを通じて、「お客さまから厚く信頼される企業」を目指します。



CS表彰制度

お客さま満足度の向上に貢献した社員を表彰する制度「CS Award」を2008年度に導入しましたが、現在ではその制度がグループ会社も含め社員に認知されるようになりました。社員の業務は、お客さまだけでなく協力会社のみならず、各種外部団体、行政、金融などの取引関係、地域の皆さまなど、アンリツをとりまく多くの皆さまと何らかの形でつながっていることが意識されるようになりました。皆さまからいただいたお褒めの言葉や改善要望は、社員の日々の業務の力となり糧となります。定量的に評価することが難しい業務でも、お褒めをいただいた社員に対して「CS Award」で表彰し、皆さまのご要望を超える満足が提供できるよう支援する体制を作っています。

2011年度は新たに「CS推進部特別賞」を設け、東日本大震災でお客さまや東北各拠点への支援活動に尽力した社員を労いました。

社員への啓発活動

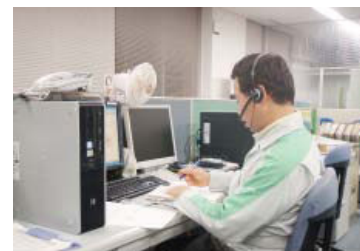
2010年度に引き続き、「お客さまとともに」と題して、アンリツグループのCS推進活動を毎月社内報に掲載しました。2011年度はアンリツグループのCS推進活動やCSに関するコラムを掲載し意識の高揚を図っています。東日本大震災のお客さま支援活動も紙面で紹介しています。また2011年度は担当者に加え新任マネージャへのCS教育も実施しました。引き続き集合教育、職場教育、ウェブ教育などお客さまにご満足いただけるようなCS企業へと意識の高揚を図っていきます。

グループ各社の活動

アンリツグループでは、お客さまの声をCSアンケートやお客さま窓口、営業活動などから収集しています。たくさんのご意見やご要望はCS推進部や関連部門で検討し、改善活動につなげています。

■ 顧客サポートセンター本稼働

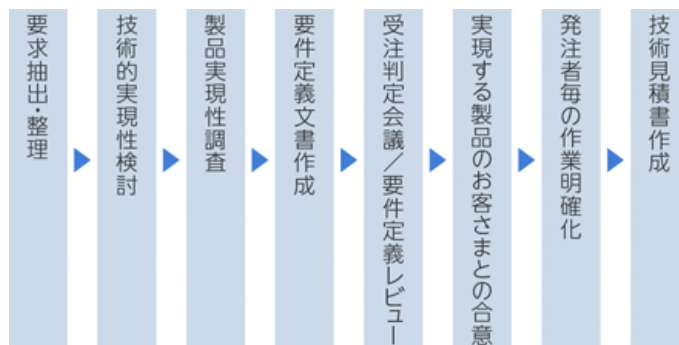
アンリツ産機システム（株）では、いつでも保守技術者と連絡がとれる体制を実現するため、24時間365日対応の「顧客サポートセンター」を2011年に開設しました。さらにお客さまの現場に最短で訪問するための「保守支援システム（コールセンター・保守モバイルシステム）や、予防保全とダウンタイムを最短化するための仕組みを検討しており、質の高い保守サービスの実現を目指しています。



顧客サポートセンター

■ 要件定義プロセスの運用で「もれ」、「ずれ」、「あいまいさ」を排除

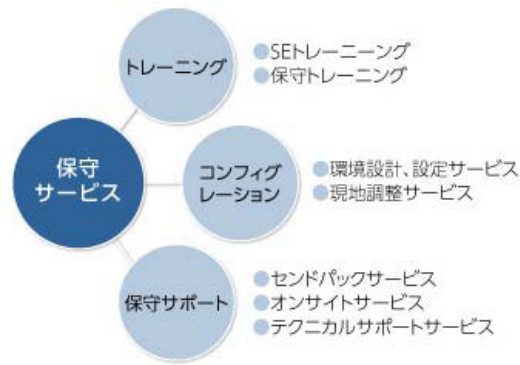
アンリツエンジニアリング（株）では、要件定義プロセスを制定し運用しています。お客さまの要望と実現する製品との間に「もれ」、「ずれ」、「あいまいさ」がないよう綿密な調査、レビューを行い、お客さまと合意した上で作業を実施します。本プロセスでは、技術部、営業部、品質管理部がタイムリーに情報を共有し、常にお客さまにご満足いただける製品およびサービスの提供に向け、検討を進めています。



要件定義プロセス

■ さまざまなテクニカルサポート

アンリツネットワークス（株）では、製品の納入設置から機器システムの取り扱い、および修理にいたるまで、さまざまなテクニカルサポートをお客さまに提供します。テクニカルサポートの窓口では、あらゆる機器に関するメールや電話による問い合わせに対して、1営業日以内の回答を実施しています。機器やシステムの持てる機能を十分に発揮させ、お客さまの業務を支えることを念頭におき、活動しています。



国際物流のさらなる円滑化と国際安全保障の実現

グローバル企業として、責任を果たすとともに、円滑な輸出を行うためにも、輸出管理体制のさらなるブラッシュアップを図っています。今年度は、横浜税関殿が来訪され、新たに制定されたAEOシンボルマーク入りの、「特定輸出者承認通知書」の更新交付をいただきました。この通知書の写しは、本社・郡山事業所およびテクノオフィスに掲示され、来訪者へのPRに一役かっています。（名刺にもAEOシンボルマークの利用が許可されました）また、これまでの米国・カナダ・EU・ニュージーランドに加えて、韓国・シンガポールとも相互承認が実施され、輸出入の円滑に役立っています。

さらに、3月には、アンリツ（株）に加えてアンリツ産機システム（株）も経済産業省から「一般包括輸出許可」などを取得しました。これらは、アンリツグループの輸出管理体制の優秀さの証でもあり、円滑な輸出入の実現という実益も得ています。

今後もコンプライアンス・プログラム、リスクマネジメントの継続的な改善・強化を図り、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献します。



品質管理

■ 基本的な考え方

アンリツは、経営理念「誠と和と意欲をもって、“オリジナル&ハイレベル”な商品とサービスを提供し、安全・安心で豊かなグローバル社会の発展に貢献する」のもと、お客さまと社会に満足される商品とサービスを提供するために、品質方針および行動指針を定め徹底を図っています。

<品質方針>

顧客と社会に満足される製品を誠と和と意欲をもって造る

<品質方針に関する行動指針>

- 不具合品を出さぬよう、仕事に精神誠意取り組む
- 後工程はお客さま、全体の調和を配慮し行動する
- 意欲をもって、改善提案する

■ 品質管理の推進

アンリツは、品質マネジメントの国際規格であるISO9001に基づく品質保証体制のもと、製品の設計・開発から製造・サービス・保守に至るまでの一貫した体制をグローバルに展開しています。改善サイクルを適切に回し、継続的改善を推進しています。

[▲ ページ先頭へ戻る](#)

企業ブランドの確立

お客さまへのサービス

企業ブランドの確立

社会的課題への積極的対応

企業ブランドの確立

■ 基本的な考え方

アンリツは、オリジナル&ハイレベルな商品とサービスによって皆さまの安全と安心を守り、事業活動を通じて社会的な課題へ積極的に対応します。

LTE計測ソリューションにより、急増するモバイルデータトラフィック問題の解決を支援

スマートフォン・タブレット端末の登場により、いつでもどこでも、映像・動画などのリッチコンテンツを利用できる時代になりました。その一方、社会的課題として急浮上しているのが、モバイルデータトラフィックの急増による回線容量の逼迫です。この解決策となっているのが、高速移動通信システムLTEの導入です。

LTE端末の商用化では、プラットフォーム開発から規格適合性検証、異なる通信方式間の相互接続性検証、事業者受入検証、量産と各ステップで計測器が使用されます。

アンリツは、これら一連のテストサイクルに加えLTEネットワークの建設・保守、サービス品質の保証までカバーした計測ソリューションを提供し、快適につながるモバイル・ブロードバンド・サービスの実現を支えています。

■ 快適につながるモバイルコミュニケーションを支えるアンリツ



(図をクリックすると拡大します)

アンリツのLTE計測ソリューションの詳細は[こちら](#)

ソフトウェア・ハードウェア開発を支える信号発生器と信号解析器

LTE端末の初期開発で必要とされるのが、試験信号を発生できる信号発生器とLTE端末が受信した試験信号の品質を解析できる計測器（スペクトラムアナライザ/シグナルアナライザ）です。

■ ベクトル信号発生器MG3710A

MG3710Aは開発中のLTE端末に対してさまざまな試験信号を送信できます。



MG3710A

■ シグナルアナライザMS2690A

MS2690Aは、LTE端末が試験信号を正常に受信できているかどうかを解析できます。



MS2690A

LTE 端末の相互接続性実現を支える基地局シミュレータ

LTE 端末の開発では、基地局との相互接続性検証が実施されます。しかし、この段階では実際のLTE基地局も開発中です。そこで必要とされるのが、LTEに対応した基地局シミュレータです。

■ シグナリングテストMD8430A

MD8430Aは、LTEの基地局シミュレータとして動作します。擬似的にLTEネットワークを構築でき、LTE端末の接続検証が行えます。

正常な通信手順での確認に加え、実際の基地局との接続状態では試験することが困難な動作の発生も可能であり、さまざまな条件のもとで、LTE端末を検証できます。



MD8430A

LTE 端末の規格適合認証を支えるテストシステム

LTEシステムは、通信方式や技術仕様などに関して国際標準規格が定められており、LTE端末の商用化に際してはこの規格に適合しているかどうかを確認する必要があります。

この規格適合試験で利用される計測システムは、GCFという国際的な通信団体から、測定項目が試験基準に合致していることの認証を取得することを要求されています。

以下にご紹介するME7873LとME7832Lは、GCFから業界最多のテストケース（測定項目）認証を獲得しています。

■ LTE RFコンFORMANCEテストシステムME7873L

LTE 端末の送信特性や受信特性、パフォーマンスなどが、国際標準規格に適合していることを確認するためのテストシステムです。



ME7873L

■ プロトコルコンFORMANCEテストシステムME7832L

LTE 端末と基地局間の通信手順が、3GPP規格に適合していることを確認するためのテストシステムです。



ME7832L

アプリケーション開発・通信事業者受入試験を支えるテストシステム

LTE 端末では公衆インターネット接続、メール、通話などさまざまなアプリケーションが搭載されています。また、通信事業者ごとにLTEを運用する周波数帯域がことなることに加え、既存の第3世代/第2世代携帯電話基地局とも接続できるマルチモードとなっており、LTEの商用端末開発では、総合的な動作検証が必要です。

■ シグナリングテストMD8475A

MD8475Aは、LTEに加え、第3世代/第2世代であるW-CDMA/HSPA、GSM/GPRS/EGPRS、CDMA2000@ 1x/1x EVDO方式に対応した擬似基地局として動作することに加え、各種アプリケーション検証用擬似サーバとしても利用できることから、さまざまな接続検証が、1台で行えます。



MD8475A

■ モバイルテストプラットフォームME7834

ME7834は、マルチモードLTE携帯端末の通信手順試験に加え、通信事業者固有の受け入れ試験で実施される異なる通信システムとの接続検証、通信速度試験などが自動で行える測定システムです。



ME7834

マルチモードLTE端末の大量生産を支えるワンボックステスト

LTE端末の生産ラインでは、最終的な品質確認を行うための計測器が必要です。

■ ラジオコミュニケーションアナライザMT8820C

MT8820Cは、生産試験に必要な信号発生機能、信号解析機能、擬似基地局機能を1台に搭載した計測器です。

LTEに加え、既存の第3世代/第2世代携帯電話規格にも対応していることからマルチモードLTE端末の可否判定が行えます。

特に擬似地局機能を用いた試験機能はMT8820Cのみであり、世界各国の端末メーカー、EMS企業で多数採用されています。



MT8820C

LTEネットワークの建設・保守を支えるハンドヘルド計測器

LTEネットワークの建設・保守は、通信エリアを整備・拡充するために重要な作業です。この計測作業では、アンテナやケーブルの品質確認から空中を飛び交う電波の解析まで多様な計測器が必要となっています。

また、屋外での作業となることから容易に持ち運べるサイズであることが要求されています。

■ サイトマスタシリーズ

アンリツが業界で初めて開発した小型・軽量のフィールド計測器です。アンテナ・ケーブルの品質確認が行えます。

また、最新のサイトマスタは、この分野利用される計測器では世界最長となる8時間のバッテリー動作を実現しました。

■ コンパクトスペクトラムアナライザシリーズ

LTEで使用される電波の品質を解析できる小型・軽量・バッテリー動作のフィールド計測器です。

技術革新により、フィールド計測器では業界で初めてLTE信号の解析を可能としました。

■ エリアテストML8780A/ML8781A

ML8780A/ML8781Aは、LTE基地局エリアで伝播する信号の高精度な測定が可能であり、LTE基地局の配備数や設置場所を最適化できます。



ML8780A



ML8781A

競合に先駆け、LTE-Advanced計測技術を公開

LTEの導入が世界各国で進展しているなか、情報通信業界ではLTEをさらに高速化したLTE-Advancedの研究・開発が始まっています。

LTE-Advancedでは、300Mbpsの通信速度が規格化されていますが、将来的には1Gbpsが目標となっています。

この高速通信を実現するための要素技術が、複数の周波数帯を1つの帯域として利用するキャリアアグリゲーション機能です。

アンリツはすでにLTE Advanced計測技術の開発に取り組んでおり、キャリアアグリゲーション機能に対応した基地局シミュレータ（擬似基地局）を試作し、ドイツのシグナリオンの端末シミュレータ（擬似端末）を使用して実証実験を実施しました。

その結果、競合各社に先駆けて、キャリアアグリゲーション機能の評価で要求されている300Mbpsでの相互接続に成功しました。

この計測技術は、スペイン・バルセロナで開催されたMobile World Congressで展示され、来場者から高く評価されました。



LTE-Advanced計測技術



Mobile World Congress

世界で初めて成功した100ギガビットイーサネットの実証実験に参画

スマートフォンやタブレット端末の普及に伴い、ネットワーク上を伝送するデータ量が急増しています。このため世界各国の通信事業者は、100ギガビット級のイーサネットの開発が活発化しています。

この市場動向を捉え、アンリツと富士通株式会社と日本電気株式会社は、100ギガビットイーサネットの相互接続実証実験を実施しました。

この実験では、アンリツの40/100Gアナライザが、富士通株式会社と日本電気株式会社の伝送装置に100ギガビットイーサネットの信号を発生させ、その相互接続性を評価しました。

その結果、100%の効率で伝送したことが確認され、異なるメーカーの装置を用いた複数の光ネットワークを結んで100ギガビットイーサネット信号の伝送が可能になることを世界で初めて実証しました。



40/100Gアナライザ



100ギガビットイーサネットサーバ

米国のLTE公衆安全ネットワーク建設計画をサポート

米国で推進されているLTE公衆安全ネットワークの建設計画「Project Cornerstone」の実証実験において、ハンドヘルド計測器が使用されました。

「Project Cornerstone」は、事件・事故が発生した際の緊急連絡網として、サンフランシスコ・ベイエリアにLTEを用いた公衆安全ブロードバンドネットワークを建設するものです。

実証実験は、都市部や郊外で頻発している事件・事故を想定し、警察、消防、救急医療など公衆安全に携わる職員の緊急連絡網の有効性を判断するため行われました。

この試験で、アンリツのLMRマスタS412E、BTSマスタMT8222Bなど3種類のハンドヘルド計測器を採用され、当社の米国現地法人であるAnritsu Companyの技術者が、LTE公衆安全ネットワーク上を流れるデータ通信量、通信品質を測定しました。



ハンドヘルド計測器の利用



LMRマスタS412E



BTSマスタMT8222B

パンアメリカン競技大会で通信インフラの円滑な運用をサポート

南北アメリカの国々が参加しているパンアメリカン競技大会は、オリンピックに次ぐ規模の国際総合スポーツ大会であり、4年ごとに開催されています。

第14回目となった大会は、2011年10月にメキシコ・グアダハラで開催されました。事前の販売チケット数が100万枚以上に達していたことから、大会期間中通信ネットワークに多大な負荷が発生することが予想されていました。この課題解決を支援したのが、デนมマークのAnritsu A/Sです。

同社は、メキシコの移动通信サービス大手2社と緊密に連携し、開催前から通信ネットワークのパフォーマンスを評価し、トラフィックが増大した際の影響、問題点、その対処法を検討しました。

さらに大会開始後は、通信ネットワークの使用状況を監視し、音声およびデータ通信の品質と信頼性の確保に貢献しました。



パンアメリカン競技大会

家庭や企業向けブロードバンド回線の普及に貢献

データ通信サービスの利用拡大にともない、家庭や企業でもギガビットイーサネットを利用したブロードバンド回線が普及しています。
このため通信業界では、ギガビットイーサネットの開通・保守作業の効率化が課題となっており、電気通信の国際標準規格を策定しているITU-Tでは、複数のユーザー回線の品質を同時に測定できるY.1564を規格化しました。

アンリツはITU-Tの一員としてこの活動に参画し、規格づくりの過程で蓄積した儀技術を基盤に、最大32ユーザーのギガビットイーサネット回線の各種品質を同時に測定できる技術を開発しました。

この技術を搭載したネットワークマスターMT9090シリーズは、従来の計測器に比べ、測定時間を約1/4に短縮でき、ギガビットイーサネット回線の開通・保守作業の大幅な生産性向上に貢献しています。



ネットワークマスターMT9090



家庭でのギガビットイーサネット利用



企業でのギガビットイーサネット利用

新開発の異物検出技術で食品のさらなる安全と安心に貢献

アンリツ産機システム（株）は、食品の生産工程で紛れ込む異物をX線で検出できるソリューションを提供しています。X線異物検出機で求められていることは、検出感度の向上です。

2011年に販売を開始した最新の機種では、新開発のデュアルエナジーセンサーを搭載しています。

デュアルエナジーセンサーは1回の撮影で輝度値の違う二つの画像を取得できます。この画像に特別な処理を施すことで、食品が重なり合っている部分や撮影画像の輝度が濃い部分の影響を抑制でき、検出感度が向上し、厚さ40mmの鶏肉の場合、1mm厚の骨を検出できるという業界最高水準の性能を実現しています。

この技術は高く評価され、日本食糧新聞社が主催している『第15回日食優秀食品機械賞』を受賞しました。



第15回日食優秀食品機械賞

[▲ページ先頭へ戻る](#)

社会的課題への積極的対応

- お客さまへのサービス
- 企業ブランドの確立
- 社会的課題への積極的対応

社会的課題への積極的対応

アンリツはグローバルな社会の要請に対して、事業を通じて積極的に対応していくことを重視しています。

1) 国連グローバル・コンパクトへの賛同

2006年3月、アンリツは「国連グローバル・コンパクト（GC）」の掲げる10原則に賛同し実践しています。その10原則をグループ全体の活動の中でグローバルに定着させるために、CSR活動と結びつけ推進していきます。

■ グローバル・コンパクト（GC）の原則と関連記事の対照表

アンリツが、2011年度に実施したCSR活動を国連グローバル・コンパクトが掲げる10原則に照らして整理すると、以下のようになります。なお、2007年に行ったアンリツのGCへの報告は、「Notable COP（特筆すべき活動報告）」に選定されました。



※グローバル・コンパクト（Global Compact）：人権、労働基準、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・アナン前国連事務総長が提唱し、2000年7月にニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

グローバル・コンパクト10原則			2011年度の主な取り組み	該当ページ
共通		グローバル・コンパクト10原則全体	<ul style="list-style-type: none"> ● 昨年度に引き続き財務報告にかかわる内部統制システムの有効性を確認しました。 ● コンプライアンス推進施策として、[1]アンリツ行動規範の周知徹底、[2]階層別教育をはじめとする社内教育・啓発、[3]倫理アンケートを通じたさまざまなリスクの回避、[4]社内外のヘルプラインによる社内の倫理法令違反の防止とより働きやすい職場環境をめざしています。 	リスクマネジメントの推進 コンプライアンスの定着
人権	原則1	企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重し、	<ul style="list-style-type: none"> ● 職場における労働安全衛生を確保する活動を実施しました。 ● 取引先さまに対して人権保護の法令遵守を依頼しました。 	労働安全衛生 サプライチェーンマネジメント
	原則2	自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ● 社員に対し倫理アンケートを通してハラスメントの実態を調査しました。 ● 取引先さまに対して人権侵害に加担しないように依頼しました。 	コンプライアンスの定着 サプライチェーンマネジメント
労働基準	原則3	企業は、組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な承認を支持し、	<ul style="list-style-type: none"> ● ワークライフバランスを図るため、社員の要請に基づき労働環境の整備に努めています。 	人権の尊重と多様性の推進
	原則4	あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、	<ul style="list-style-type: none"> ● 取引先さまに対して強制労働への加担禁止を依頼しました。 	サプライチェーンマネジメント
	原則5	児童労働の実効的な廃止を支持し、	<ul style="list-style-type: none"> ● 取引先さまに対して児童労働への加担禁止を依頼しました。 	サプライチェーンマネジメント
	原則6	雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。	<ul style="list-style-type: none"> ● 採用のボーダレス化を進めました。 	人権の尊重と多様性の推進

環境	原則7	企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、	<ul style="list-style-type: none"> エコファクトリーおよびエコオフィスの活動を推進しました。 環境会計を継続的に実施しました。 	エコオフィス、エコファクトリー 環境会計（2011年度）
	原則8	環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、	<ul style="list-style-type: none"> 環境経営についてコミットしました。 エコマインドの活動を推進しました。 地球温暖化防止の取り組みを推進しました。 	エコマネジメント、エコマインド エコマネジメント、エコマインド
				エコオフィス、エコファクトリー
	原則9	環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである。	<ul style="list-style-type: none"> 環境配慮型製品の開発を促進しました。 	エコプロダクツ開発
腐敗防止	原則10	企業は、強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである。	<ul style="list-style-type: none"> 「アンリツグループ贈賄防止方針」を制定しました。 ケーススタディシート発行により、社員を啓発しました。 取引先さまへの「お願い事項」に“反社会勢力との取引の禁止”を明記し周知・徹底を図りました。 	コンプライアンスの定着 サプライチェーンマネジメント

2) 東日本地震への対応

アンリツは東日本地震に対しても、本業を通じてその復興に寄与する取り組みを推進しています。

[東日本大震災復興支援（社会貢献）](#)

[▲ページ先頭へ戻る](#)

達成像2 グローバル経済社会との調和

CSR ニュース

- 事業概要
- トップコミットメント
- アンリツの成長とGLP2014
- アンリツのCSR達成像
- CSRマネジメント
- ステークホルダーダイアログ
- 達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2 グローバル経済社会との調和
- 達成像3 地球環境保護の推進
- 達成像4 コミュニケーションの推進
- 2011年度の実績、2012年度の目標
- 第三者意見・第三者意見を受けて
- CSRライブラリ
- 編集方針

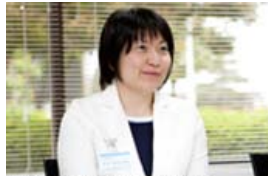


執行役員 SCM本部長 郡山事業所長 服部 司

サプライチェーンの統括が私の担当です。郡山事業所は計測器を中心としたアンリツグループの最大生産拠点です。取引先さまは世界全体に広がるため、当社の調達担当もグローバルに配置されています。取引先さまへは強いパートナーシップを構築するために、「資材調達基本方針」および「お願い事項」を定めて協力をお願いします。品質やコストだけではなく人権、コンプライアンス、労働安全衛生や環境の監査項目を含むチェックリストで取引先さまを訪問した監査を行っています。その評価結果に基づき、取引を見直すケースもあります。

また昨年の東日本大震災の教訓を受け、今まで実施してきたBCPを基に、よりスピーディーな情報収集と意思決定を行うために、現場に合わせた実践的なBCPへと内容を修正しました。例えば、異常事態発生時に各担当がやるべきことがわかるように、緊急時の行動を明文化し、防災ヘルメットとともにいつでも携帯できるようにしてあります。

今後も不慮の事故や災害時においても事業を継続し、サプライチェーン全体で高品質な製品を確実にお届けできるよう体制を強化していきます。



CSRアジア 東京事務所 日本代表
赤羽 真紀子様

有識者からのコメント

アジアの経営者77人へのアンケートでも「人権」と「サプライチェーン」が悩み。取引先を訪問した地道な活動が重要です。

■ [ステークホルダーダイアログ](#)

コンプライアンスの定着

倫理・法令を遵守した健全な企業行動推進のため、企業倫理・コンプライアンス推進体制を構築・整備し、倫理意識の向上を促進するさまざまな施策を継続的に実施しています。

人財育成

社員が成長実感を得られる組織になっていくことが重要と考え、社員が仕事を通じて成長できる環境づくりを継続的に進めています。

リスクマネジメントの推進

リスクごとのリスク管理責任者の明確化、リスク分析評価の実施、規則・ガイドラインの制定、教育研修などリスク管理レベルの向上と事業の継続発展を確保しています。

労働安全衛生

社員尊重の立場から『安全第一』と『健康保持増進』を安全衛生活動の基本理念とし、快適職場の維持に努めています。

サプライチェーンマネジメント

取引先さまとの信頼関係を強化し、お互いの成長につなげていくことが重要と考え、サプライチェーン全体で社会の期待・要請に応えていくことを重視しています。

社会貢献活動の推進

『青少年教育との連携』、『地域社会への貢献』、『環境推進活動』の3つを柱とした地域密着型の社会貢献活動を軸に、社員が主体的に参画できる活動を継続的に展開しています。

人権の尊重と多様性の推進

人財の採用や組織内のコミュニケーション活性化の観点からも、多様な人材が働きやすい制度・職場環境の整備を重視しています。

コンプライアンスの定着

コンプライアンスの定着

- リスクマネジメントの推進
- サプライチェーンマネジメント
- 人権の尊重と多様性の推進
- 人財育成
- 労働安全衛生
- 社会貢献活動の推進

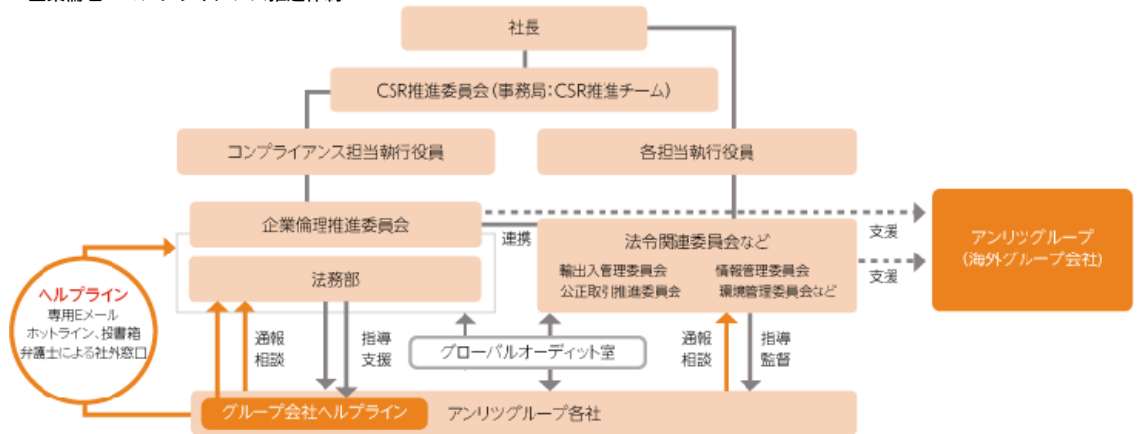
コンプライアンスの定着

■ 基本的な考え方

アンリツは倫理・法令遵守はもちろん、社会要請に適応した健全で誠実な企業行動を推進するため、企業倫理・コンプライアンス推進体制を構築・整備し、社員などの倫理意識を向上させるためのさまざまな施策を継続的に実施しています。

コンプライアンス推進体制

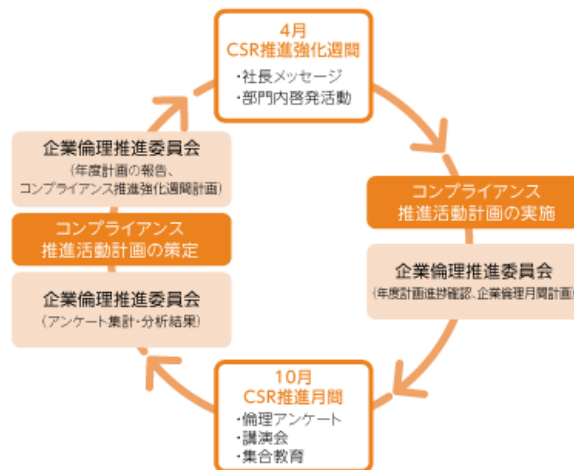
■ 企業倫理・コンプライアンス推進体制



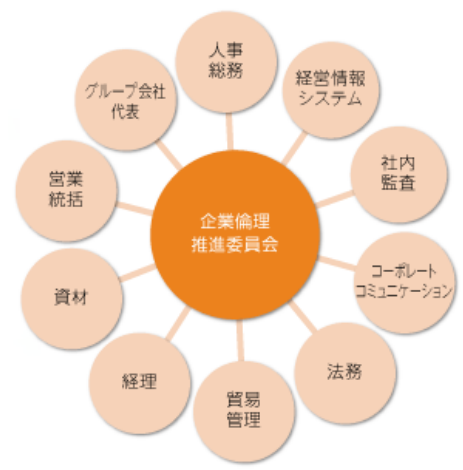
■ 企業倫理推進委員会と継続的な改善活動（年間活動）

国内アンリツグループでは、コンプライアンス推進体制として各企業倫理関係部門とグループ会社の代表で構成される企業倫理推進委員会を設置し、国内アンリツグループのコンプライアンス推進活動を企画・支援・実施しています。特に、10月の「CSR推進月間」に実施する企業倫理アンケート結果を分析・考察し、各組織が年間の活動計画を策定、計画の実施確認、アンケートによる効果の確認を一年周期で行い、コンプライアンス活動の継続的な改善を図っています。

コンプライアンス推進活動



企業倫理推進委員会構成部門



コンプライアンス推進活動

■ 二つの推進イベント

4月上旬に「CSR推進強化週間」を設定、10月を「CSR推進月間」に設定し、有識者による講演会、企業倫理推進委員部門による研修や専門教育、国内アンリツグループの社員、派遣社員などを対象にした倫理アンケートなどを実施しています。

- ・ 階層別教育（新入社員・新任幹部職など）
- ・ 各委員会・部門による個別・専門教育
- ・ 外部講師による講演会（年1～2回）
- ・ ビデオ・DVDの貸出
- ・ 企業倫理アンケート ※注



有識者による講演会

集合教育

※注：コンプライアンス推進活動の有効性の確認や、各組織での課題を抽出し改善していくため、国内アンリツグループの社員、派遣社員、協力会社社員、取引先さまなど社内外を対象にした企業倫理アンケートを実施しています。アンケートから分析・考察・検討された結果は、各組織の執行役員や経営者へフィードバックされ、今後のコンプライアンス推進活動計画の策定などに活かされます。

■ 贈賄防止方針・ケーススタディシートの発行

・ 贈賄防止方針

近時、贈賄防止が世界的な流れになっています。特に米国や英国で贈賄防止に関する法律が制定されたことにより、自国内にとどまらず世界的な監視網から贈収賄に対する規制が厳しくなっています。ビジネスをグローバルに展開にするアンリツグループにとって、贈賄などはコンプライアンス上の大きなリスクであり、絶対に起こしてはならないものと考えています。アンリツグループは既に行動規範の中で、贈賄の禁止を謳っていますが、一層の徹底と意識を定着させるために、国内外のアンリツグループ内へ禁止の周知徹底を行い、2012年4月には「アンリツグループ贈賄防止方針」を制定しました。

・ ケーススタディシート（事例集）

日頃の生活や業務のなかで発生した、あるいは発生する可能性のある具体的事例を、毎月2テーマ選び、注意すべきポイントや解説を簡潔に記したケーススタディシート（事例集）を発行しています。イントラネットへの掲載と社内へのポスター掲示を行い、各組織の教育啓発ツールとして活用しています。2012年3月現在で132例を発行済みです。

■ 独占禁止法などの遵守状況と内部監査

公正で自由な営業活動および取引が行われていることを確認するため、営業部門（地方拠点含む）を対象に営業活動状況・受注販売プロセスの内部監査（年1回）を実施しています。監査と同時に、コンプライアンス教育（独占禁止法、下請法、輸出入管理など）も実施しています。

■ ヘルプライン

社内の倫理法令違反の未然防止、より働きやすい職場環境づくりを目指して、内部からの報告・通報・相談を受け付ける『ヘルプライン』と、社外窓口（弁護士・カウンセラー）を設けています。また、社内の問題だけでなく、生活全般の相談を受け付ける法律相談日（月2回）を設けています。

[▲ ページ先頭へ戻る](#)

リスクマネジメントの推進

- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進
- サプライチェーンマネジメント
- 人権の尊重と多様性の推進
- 人財育成
- 労働安全衛生
- 社会貢献活動の推進

リスクマネジメントの推進

■ 基本的な考え方

アンリツは、主要リスクを (1) 経営の意思決定と業務の執行にかかわるリスク、(2) 法令違反リスク、(3) 環境保全リスク、(4) 製品・サービスの品質リスク、(5) 輸出入管理リスク、(6) 情報セキュリティリスク、(7) 災害リスクであると認識しています。リスクごとに管理責任者を明確にし、リスクの分析評価を行うとともに、規則・ガイドラインの制定、教育研修の実施などリスク管理レベルの向上と事業の継続発展を確保しています。

内部統制を通じた企業価値の向上

■ 基本方針

アンリツは、事業をグローバルに展開していくうえで、目標達成の阻害要因（リスク）を適切にコントロールし、競争優位の源泉に変えていくことが重要と考えています。このため、内部統制システムの整備により確立した国内外のグループ会社との連携をさらに強化し、リスクマネジメントシステムを高度化することで、企業価値の向上につながる取り組みへとステップアップさせていくことを目指しています。

■ 活動体制・マネジメント体制

アンリツは、内部統制システム基本規程を制定し、社長が任命した執行役員（リスクマネジメント総括）を委員長とした内部統制委員会を置き、アンリツおよびアンリツグループ各社の財務報告に係る内部統制の整備と運用の推進活動を統括しています。また、グローバルオーディット室がそれらの有効性監査およびリスクマネジメントの推進活動を行っています。

■ 2011年度の具体的な活動・トピック

2011年度は、全社挙げてのリスクマネジメントシステム（Enterprise Risk Management）の強化を目指し、本社部門長および国内グループ会社社長を対象にリスクマネジメントの実施状況のヒアリング調査を行うとともに、リスクマネジメント講演会の開催および国内グループ会社を含めた部門長を対象にしたセッション形式の研修を行いました。また、内部統制評価プロセスにおいて発見された不備は適切な改善措置を行い、2012年3月期の全社的な経営理念や倫理観、会計方針や手続きの統制、IT基盤の統制、財務報告に関連する業務プロセスにおける統制について、国内外のグループ会社も含めたアンリツグループの統制状況は、前年度に引き続き有効との評価を監査法人から得ました。

情報セキュリティ管理

■ 基本的な考え方

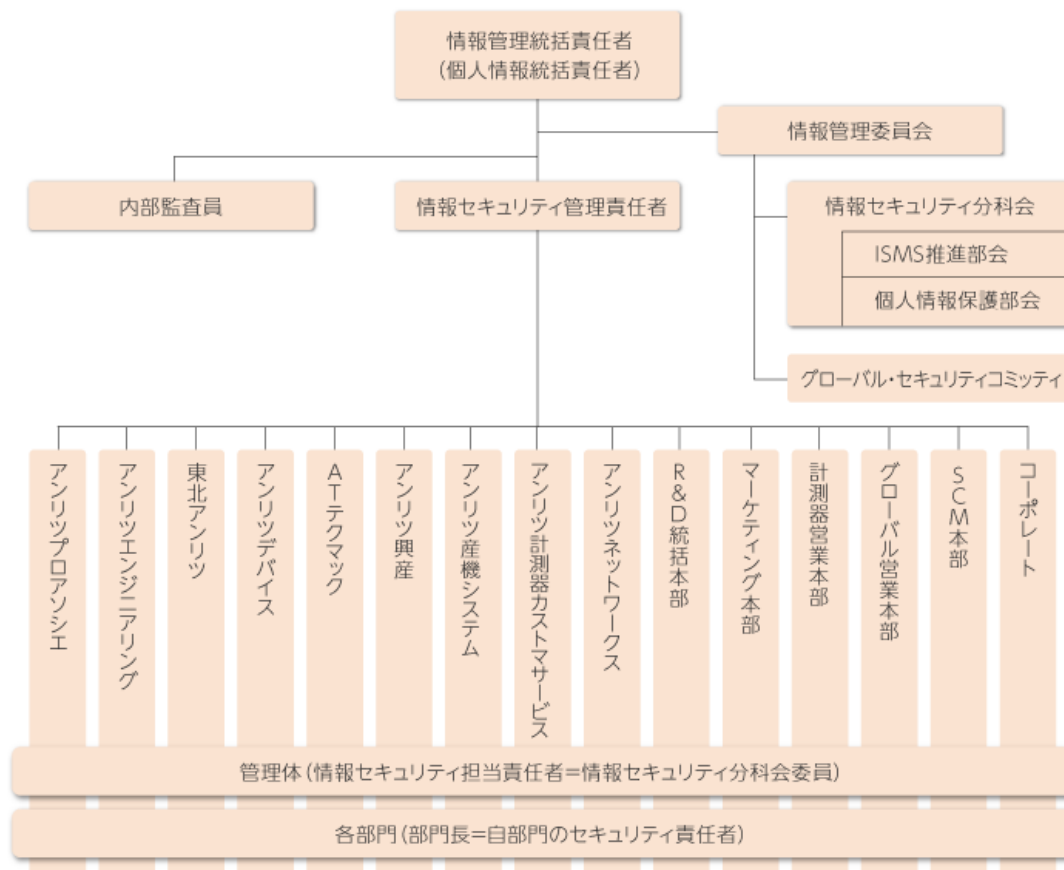
アンリツは、事業活動を行ううえで、すべての関係者の情報を適切に保護することが社会的責務であると考えています。さらに、情報資産がアンリツおよびすべての関係者にとって重要な財産であるとの認識のもと情報管理基本方針を定め、情報セキュリティの維持・向上への取り組みを継続的に実施しています。

情報管理基本方針

アンリツグループ（以下「アンリツ」といいます。）は、誠と和と意欲をもって、「オリジナル&ハイレベル」な商品とサービスを提供する事業活動を行ううえで、顧客、株主・投資家、取引先、従業員などすべての関係者の情報を適切に保護することが社会的責務であり、また情報資産がアンリツおよびすべての関係者にとって重要な財産であると認識しています。アンリツは、ここに情報管理基本方針を定め、情報資産を適切に取扱い、その保護に万全を尽くすことを宣言します。

1. 情報資産、情報管理に関する法令その他社会的規範を遵守します。
2. 情報管理体制を構築し、情報資産の適切な管理に努めます。
3. 情報管理の具体的な手続・ルールを示す社内諸規程を整備・実施します。
4. 情報管理を周知徹底させるため、役員・従業員等に対し、必要な教育・啓発を行います。
5. 情報資産を保護するために、適切な人的・組織的・物理的・技術的施策を講じます。
6. 情報資産の保護に関する不測の事態に対し、被害を最小限にとどめるよう迅速に対応します。
7. 以上の情報管理活動を定期的、継続的に見直し、改善に努めます。

管理体制



■ 2011年度主な活動実績

1. 情報管理マネジメントの実践

アンリツでは1年サイクルの活動を通して情報管理のマネジメントを実施しています。

1) ITシステムのリスクアセスメントの実施と対策

内外部のビジネスやITの環境変化に伴いITシステムにおける脅威も変化します。その変化に対応するために毎年リスクアセスメントを実施し、変化したリスクの対応を行っています。本年度はアセスメントの結果、以下の2点に関する対策を実施しました。

・ 標的型攻撃への対応（外部環境変化に伴うリスク）

近年、特定の組織の機密情報や個人情報を狙ったサイバー攻撃事件が増加しており、情報漏えいなどの被害の発生原因となっています。昨年、防衛産業に携わる企業において実際の情報漏えい被害が発生したことが報道されました。標的型攻撃の特徴は悪質なメールをユーザに送信し、PCをウイルスに感染させたあとに企業内のサーバなどに不正にアクセスして秘密情報をインターネットの特定サイトに送信する攻撃です。この攻撃は密かに行われるため長期間におよび情報が漏洩する場合があります。アンリツでは情報漏えいを発生させるような不正なアクセスが存在していないか、専門ベンダーに依頼して調査を行いました。問題となるような不正なアクセスは発見されませんでした。ウェブのアクセスには一部、問題があることが判明しました。この問題に対して将来的にウイルスなどにより攻撃されるリスクがあるため、来年度は、ウェブフィルタリング機能などを導入しインターネットアクセスの管理を強化することにします。

・ 社外顧客や取引先との情報共有（内部環境変化に伴うリスク）

お客さまあるいは協力会社さまとの間で情報の授受を行う際、多くのケースでは電子メールを利用しています。電子メールは利便性が高い反面、情報漏えいなどのリスクも高く、また大量のデータの送受信には向いていません。最近では大量のデータをやり取りするケースが増えており、リスクも高まっている状況です。

そこで外部の方々と情報共有を安全に行うためのサイトを社内に構築しました。このサイトはRights Managementの機能を持っており、データが他の場所に不用意にコピーされてもアクセスできないように保護しています。

利用を開始してから半年で100ユーザを越え、サイトの使い勝手もよく外部の方々から好評をいただいております。

2) 社員教育・啓発活動の推進

毎年、部門毎に社員全員に対し、ドラマ仕立てのビデオの閲覧と話し合いを通してセキュリティに対する啓発活動を行っています。また新入社員に対しては社内ITを利用する前の早い段階で情報セキュリティの教育を実施し、ITの正しい利用方法を習得してもらっています。

3) ISMSおよびIT統制監査の実施

ISMSの内部および外部からの監査とJ-SOXにおけるIT統制の監査をとおして検出された指摘事項の改善を行っています。両監査とも重大な指摘事項はありませんでしたが、軽微な事象に関する改善要望があり、対策を実施しています。

2.BCPへの対応

昨年、発生した東日本大震災をうけ、ITシステムにおけるBCPの見直しを実施しました。いままでもBCPの対応は行っていましたが、被災レベルを震度7に引き上げたうえでBCPの再策定を実施しました。
その結果、重要なITシステムは現在の本社地区から引き離し、関西地区のデータセンターに移設することに決定し、一部のシステムの移設を実施しました。来年度も引き続き移設を行い、7月末までにすべての重要サーバを移設します。これにより、関東地区の大震災発生時においても、弊社の郡山工場で製造・出荷ができる体制が整います。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

サプライチェーンマネジメント

[コンプライアンスの定着
リスクマネジメントの推進](#)[サプライチェーンマネジメント](#)[人権の尊重と多様性の推進](#)[人財育成](#)[労働安全衛生](#)[社会貢献活動の推進](#)

サプライチェーンマネジメント

■ 基本的な考え方

アンリツは取引先さまとの信頼関係を強化し、お互いの成長につなげていくことが重要と考えています。取引先さまにさまざまな活動に参画いただき、より強固なパートナーシップを構築していくこと、さらにサプライチェーン全体で社会の期待・要請に応えていくことを重視しています。

アンリツ資材調達基本方針および取引先さまへのお願い事項

アンリツでは、今後、社会的責任を果たしていくには、グループ内だけでなく取引先さまも含めたサプライチェーン全体で活動を展開する必要があると考え、「資材調達基本方針」、および「お願い事項」を制定し、常に変化する経営環境に合わせた改訂を行い、予算説明会や担当執行役員名でのお願い通知などを通じ、取引先さまに周知し理解いただくことに努めています。

資材調達基本方針

1. 取引先さまの選定

公平かつ公正な考え方で、国内外を問わず常に新しい取引先さまに広く門戸を開放し、品質・価格・納期、環境対応などを重点に、適正な基準でかつ客観的な立場で取引先さまを選定します。

2. パートナーシップ

すべての取引先さまとは健全な取引を通じて相互に利益のある協力的な関係を築くことを前提としています。

3. 法遵守、機密保持

取引にあたっては、関係する諸法規を遵守します。また取引を通じて、取引先さまから得た情報を、承諾なしに第三者に公開いたしません。

4. 倫理概念に基づいた行動

調達業務にあたる者は、取引先さまと個人的な利害関係を持つことなく常に公明正大な業務の遂行を図り、取引先さまとの健全な関係を維持続けることを基本としています。

5. 人権と労働への配慮

当社は人権を尊重し、労働衛生と安全確保に取り組んでおります。取引先さまにもご賛同いただき、サプライチェーンとして、推進します。若年労働者の使用や人種、性別による差別など人権上の問題があれば、取引を見直すこともあります。

6. 環境への配慮

当社は「グリーン調達ガイドライン」を定め、環境に配慮された部材や材料を調達するグリーン調達を推進します。

お願い事項

1. 法令・社会規範の遵守

関連法規などの遵守、児童労働、強制労働、低賃金労働の禁止、差別の禁止、反社会勢力との取引の禁止

2. 環境への配慮

弊社グリーン調達ガイドライン、環境要求伝達事項などに沿った環境対応の実現

3. 優良な品質の確保、適正価格での提供、確実な納期遵守

4. 機密情報の漏洩防止および知的財産の尊重

5. 不測の事態への迅速な対応とタイムリーかつ的確な情報開示

CSR（企業の社会的責任）調達の推進

アンリツでは、2010年度に「資材調達基本方針」をより具体化した「CSR調達ガイドライン」を制定し、取引先さまに理解をしていただくために周知しました。さらに、2011年度には「CSR調達ガイドライン」を基本にした、アンケートによるセルフチェックを実施しました。

今後、この結果を分析し、取引先さまと情報の共有を行いサプライチェーン全体でのCSR調達の推進に努めます。

また、今後「紛争鉱物規制」への対応が新たなCSRの課題となります。

アンリツでは、基本となる米国の法制化の動向について確認を進めるとともに、取引先さまに対して説明会を開催し、漏れのない対応に努めています。

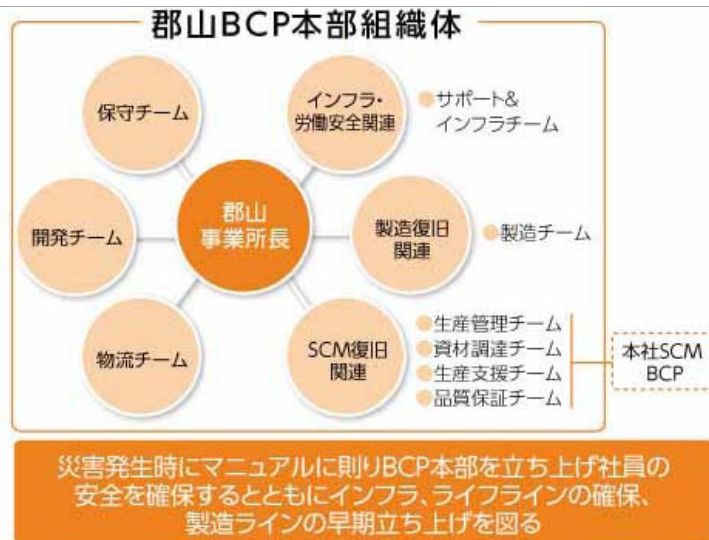
BCP（事業継続計画）への取り組み

ものづくり企業にとって、生産資材の安定調達
はBCPの根幹です。当社グループの製造拠

点である東北アンリツ・郡山事業所では、東
日本大震災前から重要なリスクの一つとし
て、地震などの自然災害を想定し、実際に発
生した場合のBCPを策定しています。こ
のBCPでは、震災発生後にすべきことを具
体的にプロセスごとに明確化しています。

また、取引先さまの拠点状況をデータベース
化し、災害発生直後からリスクの特定と最小
化を図り、さらにこれらの情報を社内でも共有
できるしくみも構築しています。さらに、あ
らゆるリスクに対応するため、新燃岳噴火・
中東情勢不安などでトライアルを行い、そ
こで得た経験を加味するなど、改善・強化に努
めています。

東日本大震災ではこうした取り組みが生き、
生産ライン復旧後も生産資材供給を途絶させ
ることなく、生産を継続しました。今後もリ
スクマネジメントを調達の最重要業務に位置
づけ、東日本大震災で学んだ教訓を踏まえ、
さらにBCPの改善を進めていきます。



CSR調達アンケートの実施

2011年度は計測事業で当社が購入している主な取引先さま77社に対し、CSR調達アンケートを実施し約85%の66社から回答をいただきました。他の取引先さま440社に対してもCSR調達の推進に対して協力いただくことをお願いし、約86%の取引先さまより「同意書」をいただいています。

アンケートの結果は、購入品種により回答に偏りがありましたが、全体的に「社会貢献」と「地域への貢献」が低めの水準である一方、「環境への影響の最小化」「資源・エネルギーの有効活用」などの環境に関する項目においては点数が高く、環境への意識が高まっていることが分かりました。これは10年以上にわたり取引先さまとグリーン調達に取り組んできた成果だと考えています。

このアンケート結果を元に今後もパートナー企業としてより良い職場環境作りを支援し、公平・公正で健全なCSR調達がなされるよう取引先さまとの信頼関係を築いていきます。

【コラム】ベストソリューションパートナーとして



東京エレクトロンデバイス株式会社
東日本第1営業本部
厚木営業所

佐々木 直人 様

アンリツさまとは海外半導体製品を中心に長年のお取引があります。「資材調達基本方針」の改訂をより具体化したCSR調達ガイドラインの制定、さらに環境への配慮が追加され、パートナーの一員として社会の期待、要請に応えていくことの重要性を改めて認識しております。

また、お互いの業務改善につながるパートナーQU制度を通じ、具体的な改善提案を積極的に行っていくことで両社の関係がより深まると確信しています。QU制度は当社、東京エレクトロンデバイスの技術セミナーにも活用しています。

強固なパートナーシップがより強いサプライチェーン構築につながります。東京エレクトロンデバイスは、両社の共存関係がより深まる仕組みづくりを行い社会の持続的、継続的發展のため、今後もアンリツさまのベストソリューションパートナーとしてサービス向上に努めて参ります。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

人権の尊重と多様性の推進

- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進
- サプライチェーンマネジメント
- 人権の尊重と多様性の推進
- 人財育成
- 労働安全衛生
- 社会貢献活動の推進

人権尊重と多様性の推進

■ 基本的な考え方

グローバルな事業展開が急速に進む中、アンリツは国籍・性別・年齢・仕事観において多様な人材が集い、ライフスタイルにあった働き方で個々人が強みを発揮できる制度やしきみを整備し、安心・安全で快適な職場環境を築き上げることを重視しています。

人権啓発活動の状況および今後の予定

人権啓発については、階層別研修などを通じて、日常注意が必要な差別問題、セクハラ・パワハラ問題などに関する社内外の状況を理解し、職場でのコミュニケーションの改善に努める活動を行いました。また、一昨年に発行した「アンリツグループCSR調達ガイドライン」に、“強制的な労働の廃止”、“非人道的な扱いの禁止”、“児童労働の禁止”、“差別の禁止”の項目を掲載し、サプライチェーン全体で人権尊重への取り組みを進めています。

障がい者雇用状況の推移

2011年度は、雇用率が2.25%（2011年12月末）と昨年の率をさらに上回るかたちで、法定雇用率達成を維持することができました。この状況を維持・促進できるよう、2012年度も引き続き地道な採用活動を継続し、障がい者と職場が相互に協力して能力を発揮できる職場を開拓し、障がい者がより働きやすい職場づくりを目指します。

	2008/12	2009/12	2010/12	2011/12
目標雇用率（単体）	1.80%	1.80%	1.80%	1.80%
実績雇用率（単体）	1.59%	1.76%	1.98%	2.25%
参考：実績雇用率（国内連結）	1.44%	1.37%	1.50%	1.56%

社員データ（国内グループ会社）

アンリツ社員データ（国内グループ会社）：各年度とも3月末時点（例：2011年度=2012年3月末時点）

	2009年度	2010年度	2011年度
社員数（国内グループ計）	2,274	2,240	2,206
男性	1,988	1,952	1,927
女性	286	288	279
外国籍	25	20	16
非正規雇用	305	376	463
平均年齢	40.9	40.3	41.5
平均勤続年数	18.1	18.5	18.6
アンリツ単体 障がい者雇用率（%）	1.76	1.98	2.25
アンリツグループ（国内） 障がい者雇用率（%）	1.37	1.50	1.56
法定雇用率（参考）	1.80	1.80	1.80

社員データ（アンリツ（株））

アンリツ（株）社員データ：各年度とも3月末時点（例：2011年度=2012年3月末時点）

		2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
社員数 ()は幹部職数で内数	男性	745 (167)	719 (171)	711 (165)	711 (176)
	女性	128 (5)	112 (5)	114 (4)	113 (4)
	計	873 (172)	831 (176)	825 (169)	824
平均年齢	男性	40.4	40.1	41	40.4
	女性	34.8	35.8	36.4	36.1
	計	39.6	39.5	40.3	39.9
平均勤続年数	男性	16.6	16.4	17.4	16.5
	女性	12	13.3	13.8	13.4
	計	15.9	15.9	16.9	16.1
年間所定労働時間数		1,860.00	1,860.00	1,875.50	1,860.00
平均年次休暇取得日数		14.1	11.2	14.6	15.6
育児休職取得者数		14	11	6	9
雇用延長者数 (定年到達者の継続雇用)	対象者数	30	16	19	18
	延長者数	14	5	11	15

グローバルにみた女性の活躍状況

		日本	米州	EMEA	アジア他	グローバル計
全社員に占める女性社員の比率 (女性社員数/全社員数)	2011年度	14%	31%	26%	27%	23%
	2010年度	14%	32%	23%	29%	23%
男性を100とした女性の幹部職登用率 (女性幹部職数/女性社員数) / (男性幹部職数/男性社員数)	2011年度	14%	59%	60%	54%	48%
	2010年度	12%	64%	64%	44%	48%

両立支援の状況

アンリツ（株）では第2期の4カ年計画（下記参照）を遂行し、不足している制度の充実を図ってきましたが、計画途上に発生した事業環境の悪化に伴い、大半の計画が完了せずに期間が終了しました。引き続き第3期計画を整備し、その完遂に向け努力していきます。

アンリツ（株）第2期次世代育成支援行動計画 計画期間（2008.4.1～2012.3.31）

目標	対策
男女共同参画の観点から、育児休職を希望する社員が、男女ともに安心して育児参画できる環境を整備する。	「育児休職制度の拡充」など
一時的な保育への支援として、育児サービス利用者に対する利用料補助制度を拡充する。	「自治体のファミリーサポートセンター利用者に対する利用料補助の実施」
仕事と育児の両立がより一層図れるように、両立支援関連制度の周知および社員への理解促進を行う。	「育児関連諸制度のガイドブックの作成・配布」など

グローバルな人事施策

■ 採用のボーダレス化

アンリツ（株）と国内グループ会社では、海外における大学主催のジョブフェア*への参加や日本国内における留学生の採用など、国籍にこだわらない採用を推進し、2012年3月末時点で22名の外国籍社員が日本国内の職場で働いています。

また、日本で採用した外国籍社員のうち4名が海外の拠点で活躍しています。

*ジョブフェア：求職者と複数企業の情報交換、相互理解の場

■ 社員とのコミュニケーション活性化

社員満足度調査を通して、会社の方向性への理解、会社の諸制度、職場のコミュニケーション、仕事のやりがいなどを把握しています。

2011年度もアメリカ、アジアパシフィック、日本で実施し、各地域での課題抽出、改善計画の立案・実行を進めています。

この他に、橋本社長が自身の言葉で全グループ社員に発信するコミュニケーションサイト「Web社長室」では、経営に直結する話題以外にも、毎週定期的に身近な話題に関する思いを発信するなど、充実した内容になっています。

また、橋本社長、経営層トップによるアジア、欧州、アメリカ各地のグループ会社訪問が実施され、社員表彰では、社長が現場に出向き表彰を行うなど、経営トップと社員のコミュニケーション活性化を推進しています。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

人財育成

- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進
- サプライチェーンマネジメント
- 人権の尊重と多様性の推進
- 人財育成
- 労働安全衛生
- 社会貢献活動の推進

人財育成

■ 基本的な考え方

アンリツでは、社員が貢献感や成長実感を得ながら、組織の成果に向かって活き活きと活躍できることが重要だと考えています。社員が仕事を通じて組織への貢献や自らの成長を実感できる環境づくりを継続的に進めています。

教育・研修制度

アンリツ（株）は、OJT（On the Job Training: 実務を通じた教育・訓練）を柱に、社員一人ひとりが自分のやりたい仕事、活躍したい分野を考え、その実現を目指した能力開発への取り組みをサポートするしくみを構築しています。新入社員研修、階層別研修、通信教育、語学研修などでは、国内アンリツグループで共通のプログラムを採用し、グループ社員全体のレベルアップを支援しています。

基幹人財育成	職種別専門教育	その他
<p style="text-align: center; background-color: #f9cb9c; margin: 0;">マネージャー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Global Leader Development Program ● マネジメント研修 ● 新任マネージャー研修 	<p style="text-align: center; background-color: #f9cb9c; margin: 0;">技術者教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 電気・電子 ● 光技術 ● 信号処理 ● FPGA ● 通信・ネットワーク ● プロジェクトマネジメント ● 生産・品質 ● プロセス改善 ● 知的財産 	<p style="text-align: center; background-color: #f9cb9c; margin: 0;">自己啓発支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 通信教育 ● E-Learning ● 外国語会話
<p style="text-align: center; background-color: #f9cb9c; margin: 0;">中堅・リーダー</p> <ul style="list-style-type: none"> ● マネージャー養成研修 ● リーダー研修 	<p style="text-align: center; background-color: #f9cb9c; margin: 0;">営業教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ビジネスマナー ● 営業実務 ● 法令関連 ● 顧客対応力向上 ● マーケティング ● 製品知識 ● 営業マネジメント 	<p style="text-align: center; background-color: #f9cb9c; margin: 0;">キャリア形成支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ● キャリアデザイン研修 ● ライフプラン研修 ● 自己申告制度 ● 社内人財公募制度
<p style="text-align: center; background-color: #f9cb9c; margin: 0;">新人</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新入社員フォロー研修 ● 新入社員教育 		<p style="text-align: center; background-color: #f9cb9c; margin: 0;">グローバル人財育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ● Global Employee Exchange Program ● 異文化コミュニケーション

アンリツ(株)教育・研修体系

OJTトレーナー研修

OJTは人財育成の大きな柱となりますが、教える側の思いやスキルの違いにより、トレーニング効果に差が出てしまうという悩みがありました。

そこで、今年度、初の試みとして、新入社員の教育担当者を対象としたOJTトレーナー研修を実施しました。この研修では以下の3点を学ぶことを目的としました。

- ① 新入社員との接し方を学ぶ
- ② 相手を理解することの重要性を学ぶ
- ③ 参加者の指導にかかわる悩みを共有し解決のヒントを学ぶ



OJTトレーナー教育の様子

グローバル人材育成

アンリツは計測事業をはじめとして海外への事業展開を進めています。その海外事業を推進する人材の育成がこれからのアンリツグループの成長にとって最も重要な課題です。

特にグローバル人材育成の基礎となる語学力の底上げが重要と考えています。

また「自ら学ぶ文化」を大切にしたいという思いから、自己啓発グループ支援という制度を設けており、2011年度は「中国語会話」にチャレンジするグループができました。

今後さらに重要となるアジア市場を見据えた、英語以外の語学研修や異文化を理解するための研修など、グローバル人材育成に関する教育研修に力を入れていきます。



中国語会話

[▲ページ先頭へ戻る](#)

労働安全衛生

- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進
- サプライチェーンマネジメント
- 人権の尊重と多様性の推進
- 人財育成
- 労働安全衛生
- 社会貢献活動の推進

労働安全衛生

■ 基本的な考え方

アンリツは、「従業員の尊重」の企業行動憲章のもと、社員一人ひとりが、その資質を最大限に発揮できるように、社員の安全と健康を確保し、快適で働きやすい職場づくりを進めていくことが重要と考えています。

安全衛生・健康管理体制

国内アンリツグループでは、労働安全衛生法に基づく安全衛生管理体制を確立しています。また、アンリツ（株）に設置している健康管理室に所属する産業医、産業カウンセラーを中心とする産業保健スタッフが、グループ社員の健康確保に向けた支援活動を行っています。

安全衛生・健康管理の主な取り組み

- 安全衛生委員会での活動状況の確認や災害防止策の立案
- 機械設備の導入・移動・変更時および化学物質購入時の事前審査による災害リスク低減
- 階層別教育やリスクアセスメントなどの目的別研修を通じた安全衛生意識の高揚
- 作業環境測定や職場巡視による安全・安心で快適な職場づくり
- 健康診断（定期、特殊、雇入時、海外派遣者）の実施とフォローアップ
- 長時間残業者の問診票によるスクリーニングと産業医面談および健康確保措置の実施
- 生活習慣病予防を目的とする産業医講演会などの健康啓発活動
- メンタルヘルスクアを目的とする幹部層向け教育・カウンセリング



安全衛生委員会

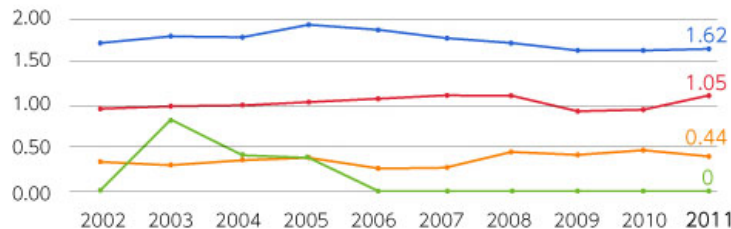


メンタルヘルス講演会

労働災害発生状況

国内アンリツグループでは、2011年度は、2010年度に引き続き休業災害「ゼロ」を達成しました。また、アンリツ（株）厚木地区では2012年3月末で無災害労働時間1,296万時間となり現在も更新中です。

労働災害度数率推移(100万時間当たり)



全産業、製造業、電気機械器具製造業は休業4日以上の度数率、アンリツ(株)は、休業1日以上の度数率



社内研修・講演会

2011年度の国内アンリツグループの通勤途上災害は5件（2010年度8件）と前年度に比べ減少傾向にあるものの、前年同様、自転車による通勤中の事故が散発していること、自転車利用者の交通ルール遵守に対する社会的な動向を踏まえ、厚木警察署のご協力のもと、自転車に関連した交通法規と事故防止対策に関する「交通安全研修会」を実施し、事故発生防止に向けた啓発活動を実施しました。また、国内グループ社員の定期健康診断における有所見率は、肝機能、脂質などの生活習慣にかかわる項目を中心に、全国的な統計と同様に年々上昇傾向にあります。2011年度は、健診結果を踏まえ、保健スタッフによる個別の保健指導とともに、生活習慣病の予防と対策に関する産業医講演会の実施などの健康啓発活動を進めてきました。



交通安全研修会



産業医講演会

[▲ページ先頭へ戻る](#)

社会貢献活動の推進

- コンプライアンスの定着
- リスクマネジメントの推進
- サプライチェーンマネジメント
- 人権の尊重と多様性の推進
- 人財育成
- 労働安全衛生
- 社会貢献活動の推進

社会貢献活動の推進

■ 基本的な考え方

アンリツは事業活動を通じて社会に貢献するとともに、地域（コミュニティ）の一員として地域の発展に寄与する活動を推進しています。『青少年教育との連携』、『地域社会への貢献』、『環境推進活動』（生物多様性保全）の3つを柱とした地域密着型の社会貢献活動を軸に、社員が主体的に参画する活動を継続的に展開しています。

青少年教育との連携

■ 大学生向け「特別講座」

アンリツでは、無線通信関連を専攻している大学生に、無線通信計測特別講座を設け実施しました。通信、測定の講義と実際の測定器を用いた実習を行うとともに、当社のEMC測定の基礎的な講義とサイトの見学、その他研究開発部門の応援も得て、座学と実技を兼ねた特別講義を受けてもらい好評を得ました。



特別講義の様子

■ 中学生向け「職場体験学習」

アンリツは、地域の企業や商店で実際に仕事に従事する中学生の「職場体験学習」を受け入れています。今年度は相模原市内の学校からも申し込みがありました。職場体験では、参加した中学生が、アンリツ興産（株）のリサイクルセンターでパソコンの解体を体験するとともに、機器の構成部品を材料別に分別する作業も体験しました。また、リサイクルに関する環境教育も実施しました。



体験学習の様子

■ アンリツ（株）主催：社員親子対象 はんだ付け教室「集まれ！アンリツキッズ」

国内アンリツグループでは、社員のお子さんを対象に、若手エンジニアがボランティアでインストラクターを担当し、はんだ付け教室「集まれアンリツキッズ！」が開催されました。回路基板の模擬品を使い、LEDなど電気部品を基板にはんだ付けし、実際にLEDを点灯させて楽しむ工作教室でした。電気部品を使った模擬製品の制作を体験するとともに、自分の親が働く会社を見学し、理解を深めてもらいました。



はんだ付け教室

■ 厚木市招待少年サッカー大会の後援

アンリツ（株）は、創業100年記念社会貢献事業の一つとして、1995年から毎年2月に開催される厚木市招待少年サッカー大会を後援しています。今年度は初日が雨のため中止になりました。翌日は予選リーグ形式で試合を行い、32チームが熱戦を繰り広げました。



少年サッカー大会

■ 厚木市少年ソフトボール大会の後援

2011年12月10日、11日の両日、「厚木市少年ソフトボール大会アンリツ杯」が開催されました。この大会は、厚木市ソフトボール協会主催の秋季新人戦大会で、今年度からアンリツが後援しています。厚木市内の14の少年ソフトボールチームが参加し熱い戦いを繰り広げました。優勝は本社と同じ地域にある「恩名ソフト」でした。



厚木市少年ソフトボール大会

■ カリフォルニア大デービス校に製品寄贈

アンリツカンパニー（アメリカ）は、カリフォルニア大学デービス校に製品を寄贈しました。近隣地域の教育支援にも力を入れているアンリツカンパニーは、今回もその一環で、米国内外で先行するミリ波研究センターとなることを目指す同校の研究に役立ててもらおうと協力しました。



ハンドヘルドベクトルネットワークアナライザ

■ ドイツの大学で教育支援

アンリツA/S（デンマーク）は、ドイツの大学で教育支援を行いました。支援したのは、電気工学を専攻する博士課程の学生らが実機に触れながら電気やRFマイクロを学ぶ講座で、36名が参加しました。アンリツA/S（デンマーク）では教材として、アンリツカンパニー（アメリカ）が提供しているベクトルネットワークアナライザのオンライン教育を活用したほか、実機としてハンドヘルドベクトルネットワークアナライザを提供するとともに、取り扱いや操作をサポートしました。学生らは、約一週間にわたり実機を用いて電子部品に関するさまざまな測定を体験しました。



ドイツの大学での講座の様子

地域社会への貢献

■ 無線電話発祥の地で、記念交信とラジオ制作教室開催

9月23日から25日まで、アマチュア無線班を主体とする「実用無線電話発明100周年記念局実行委員会」が実用無線電話発祥の地である三重県神島でTYK式無線電話発明100周年を記念したイベントを開催しました。

2012年は世界初の実用無線電話である「TYK式無線電話機」が発明されてから100周年にあたります。そこで、記念アマチュア無線局を開設し、無線電話が世界で初めて実用に供された三重県鳥羽市の神島で運用しました。これに併せて子ども向けのラジオ制作教室を開催しました。



ラジオ制作教室の様子

■ ゴルフツアーの慈善寄付活動に賛同

アンリツカンパニー（アメリカ）がPGAゴルフツアー「2011フライズ・ドット・コム・オープン」の企業スポンサーを務めました。フライズ・ドット・コム・オープンは社会貢献活動にも注力しており、2010年には地元のサンタクララ郡に80万ドルを提供するなど、過去6年間で300万ドル以上を各種慈善団体に寄付しています。今年のトーナメントから上がる収益は、最先端の数学研究を行っているアメリカ数学研究所やアメリカがん学会、サンタクララ郡の著名な慈善団体、北カリフォルニアのスペシャルオリンピックスなどに寄付されます。

■ 地域社会との一体活動

アンリツ（株）本社は、厚木市の尼寺工業団地内にあり、尼寺工業団地協議会の会員です。アンリツは当協議会の環境委員長を務めており、地域会員と一体になり年4回の「尼寺地区一斉清掃」と年2回の「ペットボトルキャップの収集」を行っています。

■ ペットボトルキャップの収集

ポリオ、はしか、結核、ジフテリア、百日咳、破傷風の六大感染症。日本ではなじみの薄い病気ですが、発展途上国ではいまだ脅威の存在です。国内アンリツグループでは、こうした病気から世界の子どもたちを救うための取り組みとして、2010年度よりペットボトルキャップの収集を始めました。収集したキャップは樹脂原料として売却され、その収益で世界の子どもたちにワクチンが届けられます。



尼寺キャップ回収

■ ユニセフ・NPO活動支援：外国コイン、使用済み切手の収集

国内アンリツグループでは、使用済み切手、外国コインを集め、NPOの活動支援を行っています。使用済み切手は（NPO法人）日本国際ボランティアセンター（JVC）を通じ、カンボジアの農村支援に役立てられます。また、外国コインは（財）日本ユニセフ協会を通じ、世界の子どもたちの生命と健康、権利を守るために活用されます。



切手・コイン収集活動

環境推進活動（生物多様性保全）

■ 緑の募金活動

アンリツ（株）本社には、自動販売機での売上金の一部が寄付される「緑の募金」活動を実施しています。2011年度は苗木寄贈本数としてマサキ96本、ソメイヨシノ62本分に相当する募金が集まりました。これは森林整備面積で1,354㎡（累計8,060㎡）、また二酸化炭素吸収量に換算すると457kg（累計2,719kg）になります。

■ 富士山「緑の募金の森」緑化活動

地球温暖化が大きな社会問題となる中、環境保全にかかわる活動として、国内アンリツグループの社員がリコーリース株式会社さまの呼びかけに応じ、富士山「緑の募金の森」緑化活動に参加しました。全体で100名以上の方が参加し、国内アンリツグループからは7名が参加しました。



集合写真



森林教室の写真

■ 地域清掃活動

国内アンリツグループでは、アンリツ（株）本社、東北アンリツ（株）周辺の清掃活動を毎年実施しています。アンリツ（株）本社は、2011年度から始まった尼寺工業団地協議会の尼寺一斉清掃と歩調を合わせ実施。多くの社員が参加し、会社周辺のごみ拾いや雑草の除去などを行いました。また、相模川クリーンキャンペーンなど地域の清掃活動にも参加するなど、地域の環境保全に取り組んでいます。



作業風景



集合写真

東日本大震災復興支援

■ 光通信網の早期復旧支援

光ファイバの故障診断用計測器を無料で、通信事業者や工事に貸し出し、光通信網の早期復旧に貢献しました。

また、アンリツネットワークス（株）は、仙台河川国道事務所の光ファイバ断線調査に協力し、サポートエンジニアを派遣しました。



光ネットワークの復旧に貢献した計測器

■ 被災したアンリツ製品の修理サポート

アンリツ製品（計測器やX線異物検出機、印刷はんだ検査機、光マイクロ、テレメータなど）の無料故障診断、現地での復旧サポートなどを通じて修理支援を実施しました。



被災したX線異物検出機

■ 東北地方の水産業復興を支援

アンリツ産機システム（株）は、従来から東北地方の水産業界に鮮魚用の重量選別機や加工品の異物検出機などを提供しており、多数利用されています。そこで、アンリツ産機システム（株）では、東北地方の水産事業者への優先納入や被災した製品の修理支援、生産ラインの復旧支援、製品の無料貸し出しなどを実施しています。

水産業は東日本大震災からの復興のシンボルとなっています。今後もアンリツ産機システム（株）は、お客さま視点に立った活動を継続し、水産業の復興・発展を支援してまいります。



水産業復興を支えている金属検出機

アンリツ産機システムの支援活動事例

無料故障診断	津波の被災地区向けに無料故障診断チームを編成し、60社を超える水産業者さま、食品メーカーさまに巡回訪問サポートを実施。
製品引き取り・保管	被災したX線異物検出機、金属検出機など約80台および計量機の引き取りや保管代行を実施。
生産ライン構築支援	被災したお客さまに生産ライン構築業者を紹介し、早期復旧支援を実施。
デモ機無料貸し出し	発注製品が納品されるまでデモ機を貸し出し、生産ラインを復旧。

■ 画像回覧装置の貸し出し

画像回覧装置の貸し出しを国土交通省に提案しました。
三陸国道事務所、仙台河川国道事務所に設置され、被災地の状況確認を支援しました。



画像回覧装置

■ 衛星電話の貸し出し

実網試験用に所有していた衛星電話を兵庫県宝塚市に貸し出しました。
給水応援において被災地—宝塚市間の連絡に貢献しました。



衛星電話

■ 救援物資提供

東日本大震災では被災されたお客さま・取引先さまおよび郡山市の被災者へ支援物資を届けました。



郡山市小中学生に送った文具



救援物資

■ PTA向け放射線勉強会

アンリツ（株）社員が郡山市PTA連合会主催の「放射能に関する勉強会」の講師を務め合計8か所の会場で開催し1000人以上の参加者がありました。この活動は地域社会への貢献が認められ、郡山市から表彰されました。



放射線勉強会



表彰式

■ 救援金募金・寄付

2011年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方をはじめとする広域にわたって甚大な被害をもたらしました。アンリツグループでは多くの犠牲者に哀悼の意を表すとともに、被災された方々への一日も早い救援と被災地の早期復興を心から願い、以下の支援活動をしました。

- 被災地支援を行うNPOの活動資金のためジャパンプラットフォームへ寄付
- 郡山事業所、東北アンリツのある自治体、福島県郡山市へのお見舞い金の寄付
- アンリツグループ各社（海外を含む）とその社員の寄付による義援金



台風災害復旧支援

■ 台風12号で被災したテレメータ設備の緊急復旧を支援

2011年9月、日本は台風12号による災害に見舞われました。特に甚大な被害を受けた紀伊半島では、土砂崩れや河川の氾濫が発生し、和歌山県のみなべ町と田辺市、奈良県十津川村の浄水場に設置されたテレメータ設備が水没するという事態が発生しました。

テレメータは、河川から取水した水や地下水などを浄化・消毒し、飲用水として上水道へ供給する浄水場の水量をモニタリングするシステムであり、日常生活に直結する公共インフラです。

そこでアンリツネットワークス（株）の担当者が現地の行政担当者、ポンプ、電気関連の工事事業者と連携し、10数箇所ですべて緊急対応を行い、復旧させました。



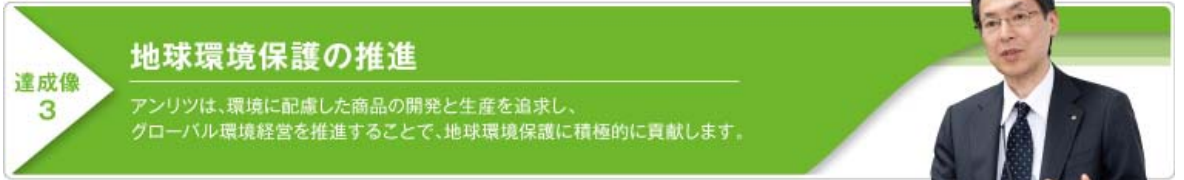
浄水場の水量をモニタリングしているテレメータ

[▲ページ先頭へ戻る](#)

達成像3 地球環境保護の推進

CSR ニュース

- 事業概要
- トップコミットメント
- アンリツの成長とGLP2014
- アンリツのCSR達成像
- CSRマネジメント
- ステークホルダーダイアログ
- 達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2 グローバル経済社会との調和
- 達成像3 地球環境保護の推進
- 達成像4 コミュニケーションの推進
- 2011年度の実績、2012年度の目標
- 第三者意見・第三者意見を受けて
- CSRライブラリ
- 編集方針



達成像
3

地球環境保護の推進

アンリツは、環境に配慮した商品の開発と生産を追求し、グローバル環境経営を推進することで、地球環境保護に積極的に貢献します。

取締役 執行役員 環境統括 谷合 俊澄

当社はお客さまに提供する製品の「ライフサイクル全体での環境影響の低減」が重要と考えています。この考え方に基づきLCA(Life Cycle Assessment)を全製品に展開していくため、これまで蓄積してきたLCAデータと解析経験を下地に、製品のライフサイクルを通じた環境影響を簡易に算出できるツールを作成しました。今後は、このツールをグループ全体に展開し、真に価値ある環境配慮型製品の開発に努めてまいります。

また別の観点として、当社のグローバル全拠点を含むサプライチェーン全体での環境影響の改善も必要と考え、スコープ3と言われる間接的なCO₂排出量の削減にも努めていく予定です。

まだこれからの大きな課題ですが、まずはこの排出量を把握するところからスタートし、改善につなげてまいります。今後もアンリツグループの環境経営を推進し、皆さまの期待に応えてまいります。



株式会社アイディアシップ
後藤 大介様

有識者からのコメント

企業としてはグループ・グローバル全拠点を含み、また製品ではライフサイクル全体でのCO₂を始めとする環境影響の把握が必要です。

■ ステークホルダーダイアログ

<h4>エコマネジメント、エコマインド</h4> <p>グローバルに環境経営を展開し、一人ひとりの『エコマインド』で『エコオフィス』『エコファクトリー』『エコプロダクツ』の実現に向けた取り組みを、さらに進めています。</p>	<h4>アンリツグループ環境負荷マスマランス (2011年度)</h4> <p>事業活動に伴う環境負荷や環境保全活動を貨幣単位・物量単位で数値化し、環境保全活動のさらなる効率化を図っています。</p>
<h4>エコオフィス、エコファクトリー</h4> <p>オフィスや工場から排出するCO₂、廃棄物、有害化学物質の管理・削減をさらに推進し、総合的な環境負荷低減に取り組んでいます。</p>	<h4>サイト別環境データ集 (2011年度)</h4> <p>アンリツグループの各地区のサイト別環境データを報告しています。</p>
<h4>エコプロダクツ開発</h4> <p>ライフサイクルシンキングに基づき、製品ライフサイクル全般にわたり、環境に配慮した取り組みを推進しています。</p>	<h4>環境会計 (2011年度の実績)</h4> <p>環境経営の推進のため、自らの環境保全に関する投資額やその費用を正確に把握して集計・分析を行い、投資効果や費用対効果を経営の意思決定に反映させる「環境会計」に取り組んでいます。</p>
<h4>サプライチェーンマネジメントの推進</h4> <p>「グリーン調達ガイドライン」を定め、環境に配慮された部品や材料を優先的に調達するグリーン調達を全社的に取り組んでいます。</p>	<h4>アンリツ環境管理活動の歴史</h4> <p>アンリツの環境管理活動の歴史についてご紹介します。</p>

エコマネジメント、エコマインド

エコマネジメント、エコマインド

[エコオフィス、エコファクトリー](#)

[エコプロダクツ開発](#)

[サプライチェーンマネジメントの推進](#)

[アンリツグループ環境負荷マスマバランス](#)

[サイト別環境データ集](#)

[環境会計](#)

[環境管理活動の歴史](#)

エコマネジメント、エコマインド



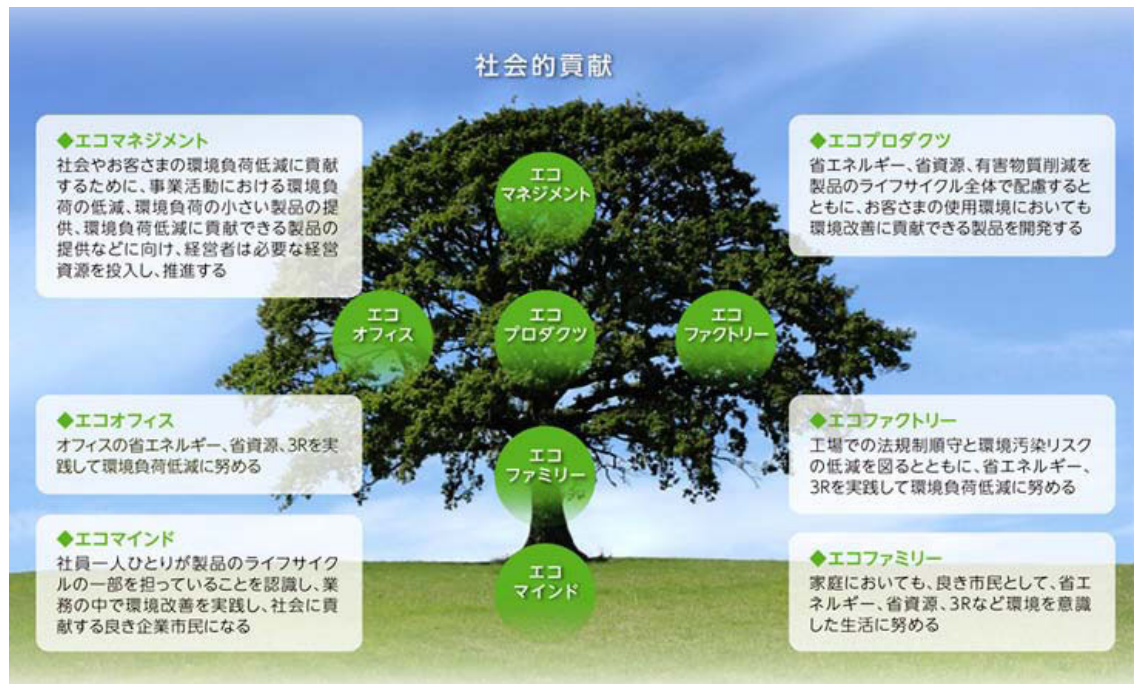
アンリツはグローバルに環境経営を展開し、『エコマネジメント』と、一人ひとりの『エコマインド』で、『エコオフィス』『エコファクトリー』『エコプロダクツ』の実現に向けた取り組みを、さらに進めています。

アンリツグループ環境理念

アンリツは、環境に配慮した製品の開発と生産を追求し、誠と和と意欲をもって、人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。

行動指針

「エコマネジメント」と、一人ひとりの「エコマインド」で、「エコオフィス」「エコファクトリー」「エコプロダクツ」を実現します。

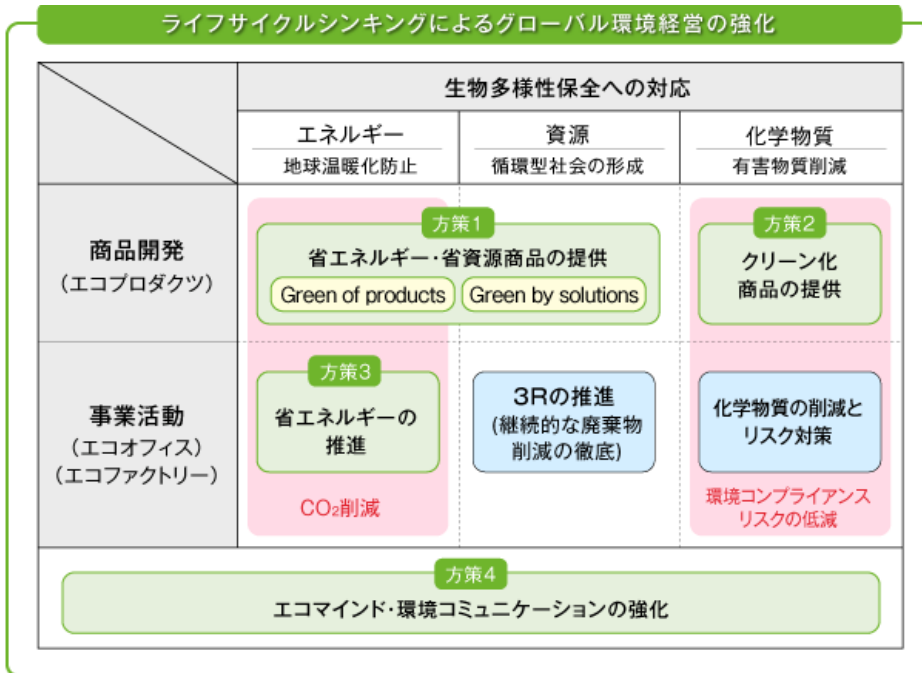


※地球環境保護の報告範囲は、アンリツ（株）および次のグループ会社です。

国内グループ会社：	アンリツ産機システム株式会社 アンリツ計測器カスタムサービス株式会社 アンリツネットワークス株式会社 アンリツ興産株式会社 株式会社アンリツプロアソシエ	東北アンリツ株式会社 アンリツデバイス株式会社 アンリツエンジニアリング株式会社 ATテクマック株式会社
海外グループ会社：	Anritsu Company（アメリカ） Anritsu A/S（デンマーク）	Anritsu Ltd.（イギリス）

アンリツの環境経営

アンリツグループでは、下図のような環境戦略にのっとり、商品のライフサイクル全体を見据えてグローバルに環境経営を推進しています。具体的には、商品開発面で、「省エネルギー・省資源商品の提供」、「クリーン化商品の提供」、事業活動面で、「省エネルギーの推進」、さらにこれらの全体を支えるものとして、「エコマインド・環境コミュニケーションの強化」という4つの主要な方策を軸に取り組んでいます。事業活動における、「3Rの推進」、「化学物質の削減とリスク対策」については、今後も継続的に維持・改善していきます。また、アンリツの事業形態と生物多様性との関係性を考慮し、これらを実践していくことが気候変動抑制および乱獲・汚染による生息地喪失の抑制にもつながっていくことから、生物多様性保全の基本方針としています。



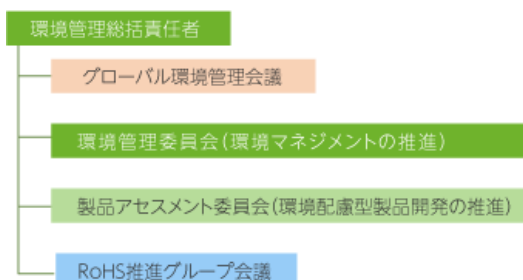
ライフサイクルシンキングによるグローバル環境経営を推進するアンリツグループでは、製品のライフサイクル全体を見据えた環境配慮型製品の開発とグローバル全拠点における環境影響の把握・改善という両面から環境負荷低減を目指しています。

下図では、現時点で把握できている項目については数量を記載し（小数点以下は切り捨て）、把握できない項目については項目名のみ記載しています。



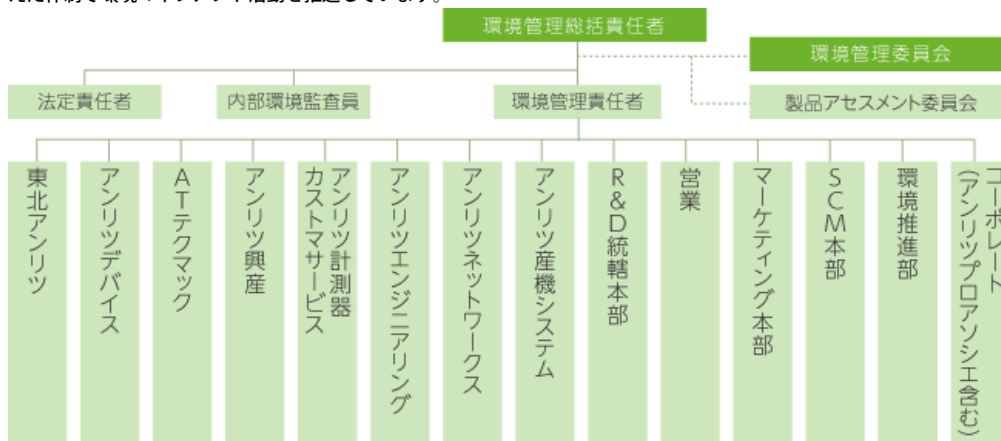
環境経営推進体制

欧州のRoHS指令やお客さまの環境要求への対応など、グローバルな取り組みの必要性が増しているため、環境経営推進体制を2005年度に見直し、環境全般の事項を審議・決定するグローバル環境管理会議を設置しています。日本国内では、環境管理委員会、製品アセスメント委員会およびRoHS推進グループ会議があり、それぞれ環境マネジメントシステムの推進、環境配慮型製品開発の推進、製品の有害物質フリー化の推進を図っています。



■ 環境管理組織（日本）

国内アンリツグループの環境管理組織は、環境管理総括責任者（アンリツ（株）環境総括執行役員）をトップとして、グループ会社を加えた体制で環境マネジメント活動を推進しています。



■ 環境マネジメントシステム

ISO14001登録会社	
<p>アンリツ株式会社</p>  <p>本社</p>	<ul style="list-style-type: none"> アンリツ株式会社（すべての営業拠点を含む） アンリツ産機システム株式会社 アンリツ計測器カスタムサービス株式会社 アンリツネットワークス株式会社 アンリツエンジニアリング株式会社 アンリツ興産株式会社 ATテクマック株式会社 株式会社 アンリツプロアソシエ アンリツデバイス株式会社 東北アンリツ株式会社 <p>認証登録年月：1998年8月 更新：2010年8月 認証機関：JQA/JQA-EM0210 (*) 東北アンリツ株式会社は1999年10月に単独で認証済みでありましたが2003年に統合いたしました。</p>
<p>東北地区</p> 	<p>所在地：490 Jarvis Drive Morgan Hill, CA 95037 認証登録年月：2007年3月 更新：2010年3月 認証機関：NQA/EN12275</p>
<p>Anritsu Company (アメリカ)</p> 	<p>所在地：490 Jarvis Drive Morgan Hill, CA 95037 認証登録年月：2007年3月 更新：2010年3月 認証機関：NQA/EN12275</p>

■ 環境監査

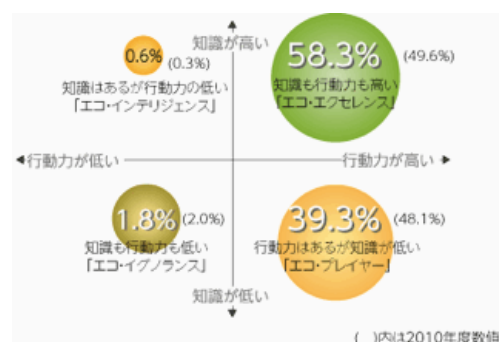
2011年度の外部環境審査は、ISO14001認証機関による定期審査を受けました。その結果、不適合に相当する指摘はありませんでした。また、内部環境監査を年2回実施し、6月には環境マネジメントシステムの適合性、有効性、環境パフォーマンスの確認、11月には法の順守状況の確認を行い、それぞれ31件、3件の指摘がありました。グループの共通課題は、環境管理委員会で水平展開し、改善しています。



ISO14001認証機関による現場パトロール

社員の環境意識調査

エコマインドの浸透度を測るため、国内アンリツグループの全社員を対象に、環境意識調査を実施しました。2011年度は6回目の調査となり、環境用語の把握度と環境行動に関する回答から環境に対する知識レベルと行動力レベルの相関を分析し、前回と比較しました。環境知識が高く行動も環境に配慮できている「エコ・エクセレンス」の割合も、58.3%（2010年度49.6%）と増加しました。分析結果に基づき、回答率および「エコ・エクセレンス」割合の向上のための教育・啓発を実施していきます。



環境コミュニケーションの推進

ステークホルダーの皆さまにアンリツの地球環境保護への取り組みを理解し、関心をもっていただくことが、環境活動を推進する上で不可欠との考えから、さまざまな方法で積極的に社内外に発信することに努めています。

ウェブのCSR報告、環境広告、環境関連ニュースのウェブ発信などはもとより、お客さまへは『環境リーフレット』、社員へは『エコ倶楽部』を発行し、特定のステークホルダーに的を絞った環境情報の提供も実施しています。



お客さま向け
環境リーフレット



社員向けエコ倶楽部

【コラム】お客さまとのコミュニケーションで広げる環境への取り組み



アンリツ株式会社
計測事業グループ
グローバルオペレーションセンター
事業戦略サポートチーム

田中 寛

近年、WEEE指令、RoHS指令、REACH規則の施行や昨年の東日本大震災における電力不足、昨今の高止まりする原油価格の高騰など私たちを取り巻く環境の変化に伴い、弊社お客さまからの製品ニーズも従来の機能・性能ニーズとあわせてグローバルな製品環境規制への対応や環境性能へのご要望が高まっております。

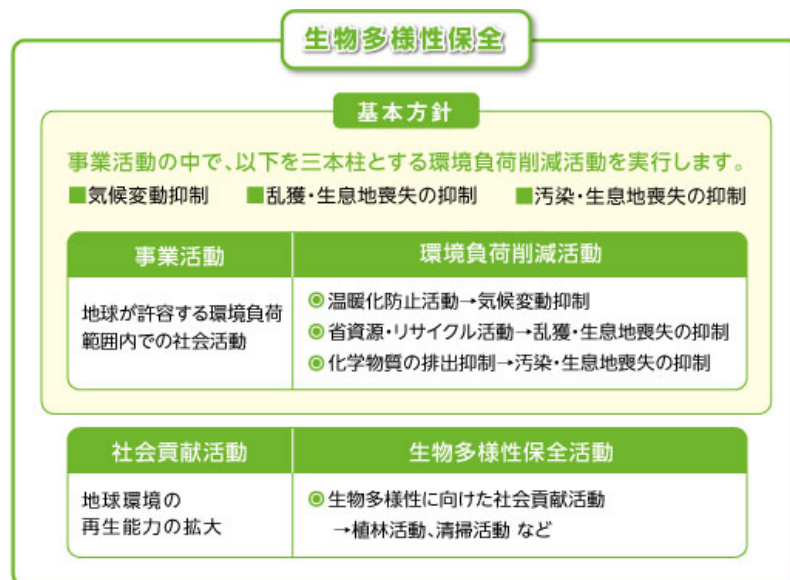
2011年度は、環境経営の柱の一つである環境配慮型製品の開発・ご提供をよりの確に加速させることを目的として、市場の最前線で活動している営業部門の日々の活動報告から環境配慮型製品への市場ニーズの抽出・分析を試みました。その結果、販売中のエクセレントエコ製品のうち、ハンディー型製品に対する小型・軽量・省電力や包装材削減への取り組みである簡易包装輸送（通称：エコ・ロジ輸送）が多くのお客さまよりご評価いただけていることが確認できました。

一方で、さらなる環境性能の向上が期待されている製品も多数あるという課題も顕在化しました。今後も引き続き環境教育や啓発により社員一人ひとりの「エコマインド」の向上を行うことで需要動向をタイムリーにとらえる意識としくみ作りを推進し開発部門へフィードバックすることで、より多くの市場ニーズにマッチした環境配慮型製品のご提供に取り組み、地球環境保護に積極的に貢献する企業を目指します。

生物多様性保全への取り組み

■ 生物多様性保全基本方針

アンリツグループの事業活動は、多様な生物に支えられた生態系の恩恵を受けると同時に影響を与えています。このため、生態系の基盤となる生物多様性の保全は環境経営の重要な課題です。アンリツグループは、事業活動の中で環境負荷削減活動を推進することを基本方針とし、自然環境保護を目的とした社会貢献活動にも取り組むことで、生物多様性保全を実践しています。

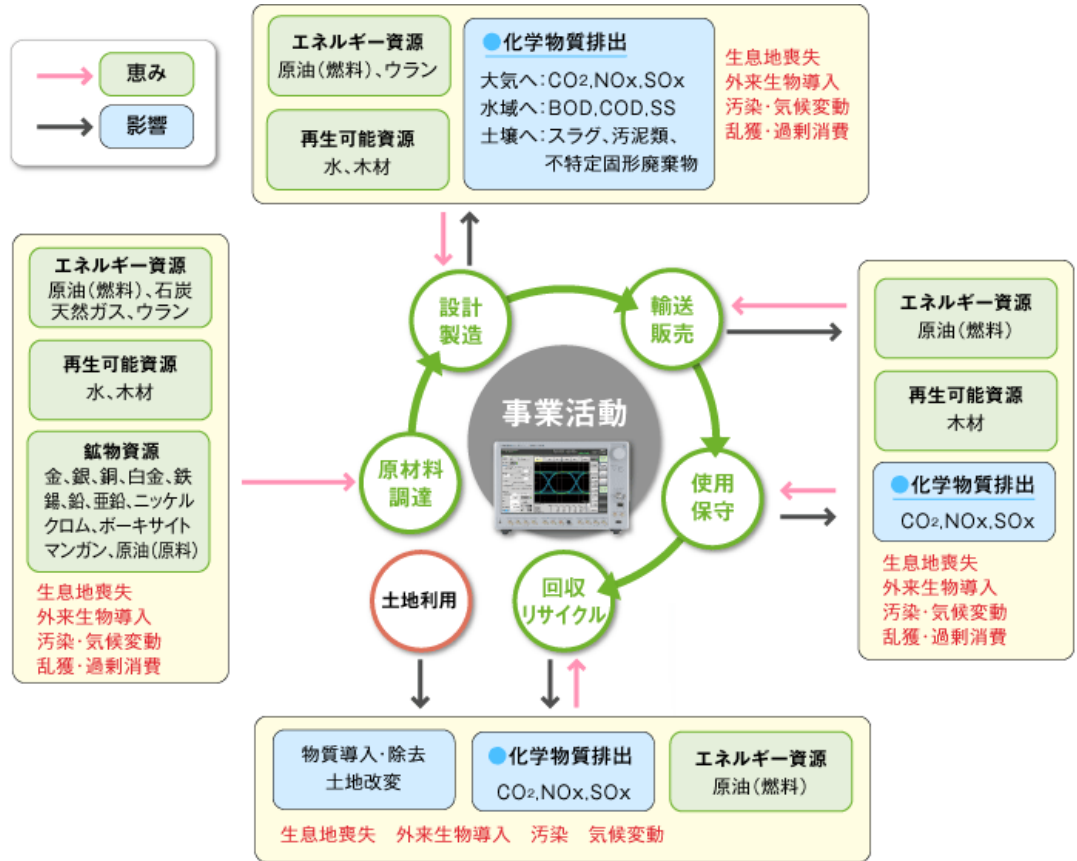


■ 現状認識

私たちは、アンリツグループの事業活動が生物多様性を基盤とした生態系サービスからさまざまな恵みを受けており、また、その事業活動が生物多様性に影響を与えていることを認識し、生物多様性の保全に取り組んでいきます。

■ 関係性マップ

事業活動と生物多様性のかかわりを把握するために、JBIB（企業と生物多様性イニシアティブ）のフォーマットを参考に関係性マップを作成しました。このマップにより、生態系とのかかわりが明確になり、影響の大きい項目を把握できました。この結果は、生物多様性保全基本方針に反映されています。



■ 日本経団連生物多様性宣言への参加

アンリツグループは、日本経団連生物多様性宣言の趣旨に賛同し、生物多様性を育む社会づくりに向けて率先して行動する、『日本経団連生物多様性宣言推進パートナーズ』に参加しています。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

エコオフィス、エコファクトリー

エコマネジメント、エコマイ
 ンド

エコオフィス、エコファクト
 リー

エコプロダクト開発

サプライチェーンマネジメント
 の推進

アンリツグループ環境負荷マス
 バランス

サイト別環境データ集

環境会計

環境管理活動の歴史

エコオフィス、エコファクトリー



オフィスや工場から排出するCO₂、廃棄物、有害化学物質の管理・削減をさらに推進し、総合的な環境負荷低減に取り組んでいます。

工場・オフィスでの省エネルギー活動

省エネルギーはCO₂排出量を削減し地球温暖化防止へ寄与する重要なテーマです。アンリツが消費するエネルギーの約96%（CO₂排出換算比）を占める電力の使用量を削減するため、継続的に省電力に努めています。

これまで氷蓄熱設備の導入、空調設備や照明設備のインバータ化、低損失型変圧器の導入、機器の省エネ機器への更新など設備面での対応や消灯や空調のフィルターの清掃をこまめに実施することなどで無駄な電力を削減し省エネルギーを推進してきました。

2011年度は、厚木地区で高効率空調機の更新、高効率変圧器への更新、壁や窓の断熱化、東北地区で高効率変圧器への更新、インバータ照明の導入などを行いました。例年より寒かった冬や東北地区での生産増加などエネルギー使用量増加の要因はありましたが、2010年度と比較して電気エネルギー使用量は8.1%減少となりました。今後も省エネルギーを環境経営の最重要課題と位置づけて取り組んでまいります。

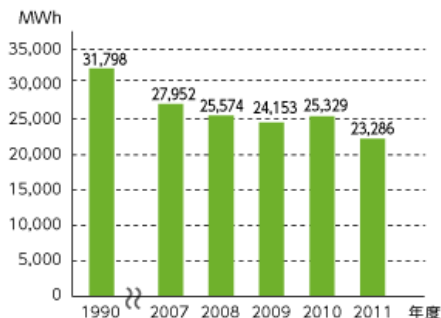
【参考】

全エネルギー使用によるCO₂排出量（厚木地区+棚沢地区+東北地区）は、「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令（2006年3月29日改正公布）の排出係数を用いて算定しました。ただし、電気エネルギーのCO₂排出量は、各年度に電気事業連合会より公表されるCO₂排出係数（t-CO₂/MWh）を用いて算出しています。（2011年度のCO₂排出係数は、2010年度の値を暫定的に使用しています。）

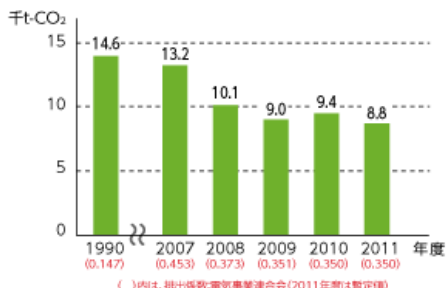
CO₂排出係数は年度によって増減があるので、電気エネルギーは削減していますがCO₂排出量は増加している年度もあります。

（例：2007年度の排出係数は2006年度より10.5%増加）

電気エネルギー使用量推移（国内アンリツグループ）



【参考】全エネルギー使用によるCO₂排出量（国内アンリツグループ）



夏の節電対策

2011年の夏に発動された電気事業法第27条による電気の使用制限に伴い、15%の最大使用電力低減（ピークカット）を行い、4500kW以下を厳守するため、以下の施策を計画・実行しました。

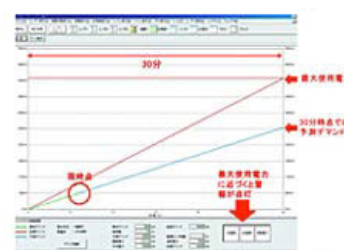
- 建屋ごとの輪番休業（7/16～9/11）
- 非常用発電機のレンタル導入（400kVA、500kVAの2機）
- 電力使用量（デマンド）の常時監視による空調調節
- これまで以上の節電推進
 不要な照明の消灯、一部の自動販売機・給湯器・エレベータの停止、エアコンプレッサーのチェック、ヒートポンプへの日除け設置
- 社員への協力要請
 クールビズ期間の早期スタート、厳格なエアコン温度管理、残業時間の空調停止など
 もしもの空調停止に備えた熱中症対策用品（アイスノン、電解質飲料など）の準備



緑のカーテン



垂れ幕による呼びかけ

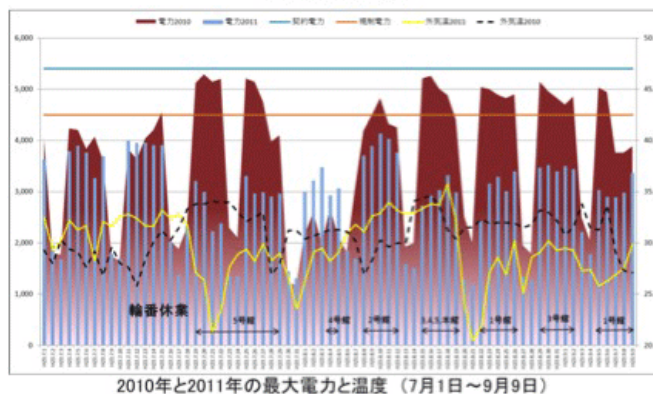


イントラネットによるデマンド状況のライブ公開

（図をクリックすると拡大します）

その結果、15%低減目標を大きく上回る21%の最大使用電力低減を達成し、6月から9月の4か月間の電気使用量でも前年度実績の17%に当たる1,087MWhの節電を果たしました。

電力低減結果



(図をクリックすると拡大します)

※昨年度のデータは、今年の土日と合わせるために1日だけ後ろにずらして調整しています

大気

厚木地区では、2000年に塗装工程を廃止したため、法、条例などの対象となる大気汚染にかかわる施設はありません。東北地区では大気汚染防止法の対象である重油ボイラーがありますが、自主管理基準に基づいた管理のもとに運用し、大気保全に努めています。また、棚沢地区では法、条例などの対象となる大気汚染にかかわる施設はありません。

騒音

設備導入前の事前審査制度、設備の始業時点検をはじめ、定期的な構内パトロールなどにより、異常の早期発見に努めています。また、年に1回定期的に敷地境界線の騒音測定を実施していますが、法、条例はもちろんのこと、自主管理基準の超過もありません。

法順守状況

法や条例で規制があるものは、これより厳しい自主管理基準を設けて法順守に努めています。2011年度は、厚木地区、棚沢地区、東北地区ともに基準に対し低いレベルで推移し、水質・大気・騒音の法違反や事故はありませんでした。また、環境問題に関する訴訟、近隣からの苦情などはありませんでした。今後も定期的な保全活動により、法順守はもちろんのこと環境負荷の低減に努めます。

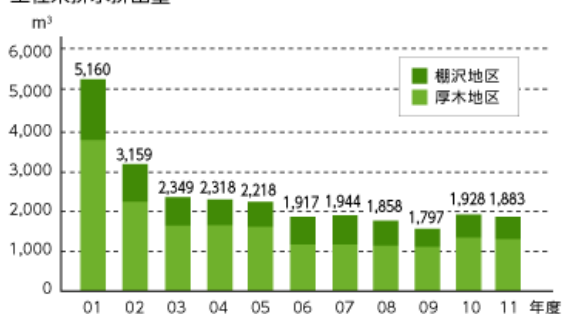
地下水の管理

有機塩素系物質については、1970年にトリクロロエチレンを、1993年に1,1,1-トリクロロエタンの使用を全廃しました。厚木地区および東北地区では、地下水を採取する井戸を保有しているため、有機塩素系物質6物質の分析を定期的の実施し、監視を継続しています。2011年度も、厚木地区の井戸でテトラクロロエチレンに環境基準の超過がみられましたが、他は同基準を下まわっています。テトラクロロエチレンはアンリツでの使用実績がない物質であり、土壌分析でも当社による汚染ではないことが確認されています。今後も引き続き監視をしていきます。東北地区では、いずれも検出限界以下であり環境基準の超過がみられませんでした。今後も定期的な分析監視により、地下水の保全に努めます。

水資源

厚木地区では、過去にプリント板製造、塗装、めっきなどの工程で多量の水を使用していましたが、2002年にはこれらの処理を全廃し、有害物質を含む工程系排水は大幅に削減されました。棚沢地区ではデバイスの製造工程で有害物質を使用していますが、工程管理により水の使用量を抑制しています。また、東北地区では有害物質を使用する特定施設はありません。

工程系排水排出量



リスク対策

厚木地区では、無機系排水排出部門などからの排水を無害化するため、無機系排水処理設備を設置しています。2001年には、地中に埋設した槽が地震発生により壊れて、処理の完了していない水が漏洩し、土壌汚染を起こす可能性があることから、槽を二重槽に改造しました。2002年には、その設備の一つであるクラリファイヤータンク（前工程で生成した重金属を含む沈殿物を重力沈降で除去するタンク）の周辺に防液堤を設置し、地震などでタンクが破損した場合、タンクから漏洩した液が外部に漏洩せずに予備槽に流れ込む構造に変更しました。



クラリファイヤー

棚沢地区では、工程処理水のpHが法規制値を逸脱した場合、放流水の排出を停止させる緊急遮断弁が最終放流槽に設置されています。さらに、2003年には二重安全対策として、最終放流槽の前の槽にもpH警報装置を設置し、その時点で排水ポンプを停止するように改善しました。東北地区では、製造工程から出る水はありません。しかし、地震でボイラーなどから排出する水により、pHが法規制値を逸脱する可能性があることから、2001年にpHの監視装置と放流水の排出を停止する緊急遮断弁を設置し、対策を実施しました。



pH監視装置



緊急遮断弁

また、各地区では、人為的ミスや災害時に化学物質の漏洩事故が発生した場合を想定し、対応手順を作成しました。さらに、定期的な設備点検と訓練を実施し、万一の事故発生時に備えています。



緊急遮断弁の閉止



漏洩物の回収訓練

化学物質管理

国内アンリツグループ会社で使用する化学物質については、事前評価制度による使用可否を決定しています。また、法規制、有害性などから使用禁止・使用抑制物質を定め、オゾン層破壊や地球温暖化の原因となる物質の使用を規制しています。各部門では、3カ月ごとに使用している化学物質の購入量、使用量、廃棄量を端末に入力し、法令ごとの集計や、PRTR法対象物質の集計に利用しています。

アンリツグループ使用規制化学物質

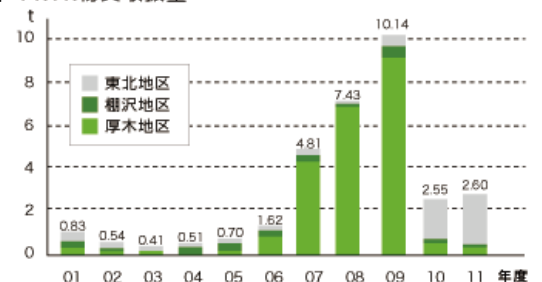
使用禁止物質	CFC (Chlorofluorocarbons), ハロン, 四塩化炭素, 1,1,1-トリクロロエタン, HBFC (Hydrobromofluorocarbons), プロモクロロメタン, 臭化メチルの7物質群
使用抑制物質	HCFC (Hydrochlorofluorocarbons), トリクロロエチレン, テトラクロロエチレン, ジクロロメタン, HFC (Hydrofluorocarbons), PFC (Perfluorocarbons), SF6 (六フッ化硫黄) の7物質群

化学物質オンライン入力画面



PRTR法（特定化学物質の環境への排出量の把握などおよび管理の改善の促進に関する法律）については、2010年の法改正により厚木地区で使用していたエポキシ樹脂の成分であるビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）が対象物質から外れ、東北地区で燃料として使用している重油の添加剤であるメチルナフタレンが対象となったことから、取扱量が大きく変動しています。東北地区においては2010年度と同様に、メチルナフタレンの取扱量が1トンを超えたことから、届出を行いました。なお、メチルナフタレンはボイラ内で燃えるため、外部への排出はほとんどありませんが、今後も引き続き重油の使用量削減に努め、取扱量を減少させていく予定です。

PRTR物質取扱量



PCB管理

厚木地区ではポリ塩化ビフェニル（以下「PCB」）を含有した電気機器コンデンサ、蛍光灯安定器、感圧複写紙を特別管理産業廃棄物の保管基準に従って、厳重に管理しています。毎年、PCB廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法（「PCB特別措置法」）に基づき、県に保管状況を届出していますが、2006年の特高変電設備更新時の分析の結果、大型変圧器2台に微量のPCBを含有していることが確認されました。また、2010年度に実施した変圧器の更新時に老朽化した設備の絶縁油に微量PCBの含有が確認されたため、2011年6月に追加の届出を行いました。

なお、2005年度に日本環境安全事業株式会社に処理の早期登録申込みを行っています。



PCB保管場所



保管状態

弊社厚木本社地区の土壌分析結果およびその対策について

2012年1月から3月にかけて、弊社厚木本社地区において、厚木市のご指導のもと、土壌調査を自主的に実施いたしました。その結果、遺憾ながら一部の土壌から基準値を超える鉛、カドミウム、ほう素が検出されました。詳細につきましては、弊社ホームページにて公開しております。

【調査結果概要】

<http://www.anritsu.com/ja-JP/Media-Room/News-releases/Information/info20120327.aspx>

5月から6月にかけて、汚染土壌を掘削除去し、良質土に入れ換える浄化作業を実施し、無事完了いたしました。

【汚染対策完了報告】

<http://www.anritsu.com/ja-JP/Media-Room/News-releases/Information/info20120628.aspx>

近隣の皆さまには、ご心配、作業に伴う騒音などでご迷惑をおかけいたしましたこととお詫び申し上げます。

リースカーの入れ替え

アンリツでは、有害物質の削減や環境負荷低減への取り組みを行っていますが、資材部でもコストダウンと並行して、従来からグリーン調達を推進しています。複合機やリース車両についても全社を取りまとめ、排出するCO₂や紙資源の低減に取り組んでいます。

2011年度より国内アンリツグループで使用している240台のリース車両を入れ替えることになり、2011年度では、110台を入れ替えました。このうちの61台にハイブリッド車を導入しました。年間のガソリンの削減は約15%と見込んでいます。次年度以降、残り130台の入れ替えを予定しており、同じ割合でハイブリッド車を導入した場合約30%の燃料消費量削減を推定しています。

リース車両はグループ全社のさまざまな部署で使用されており、例えば荷室のユーティリティ、長距離対応、寒冷地対応など、車両の使用場所によって要求される条件が様々ではありません。資材部はこの要求条件を調整したうえで、候補を4車種に絞り込み、ハイブリッド車を基本として推奨しています。ハイブリッド車のリース代は他の車種よりも高いケースがありますが、燃料の無駄遣いを減らしトータルでのコストを削減するとともに環境への影響を減らすよう取り組んでいます。取引先さまからはアンリツの環境への取り組みとして高く評価いただいています。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

エコプロダクツ開発

[エコマネジメント、エコマイルド](#)

[エコオフィス、エコファクトリー](#)

[エコプロダクツ開発](#)

[サプライチェーンマネジメントの推進](#)

[アンリツグループ環境負荷マスタバランス](#)

[サイト別環境データ集](#)

[環境会計](#)

[環境管理活動の歴史](#)

エコプロダクツ開発



アンリツは、ライフサイクルシンキングに基づき、製品設計から部品調達、製造、出荷、お客さまでの使用段階、そしてリサイクルまで、製品ライフサイクル全般にわたり、環境に配慮した取り組みを推進しています。環境経営の柱の一つである環境配慮型製品の提供を加速させるのはもちろんのこと、社会問題として急浮上しているIT機器の消費電力増加に対しても、独自技術を生かした取り組みを意欲的に進めています。さらに、製品環境規制にはグローバルで対応し、すべての開発製品において設計の初期段階から質の高い製品アセスメントを実施しています。

製品環境規制へのグローバル対応

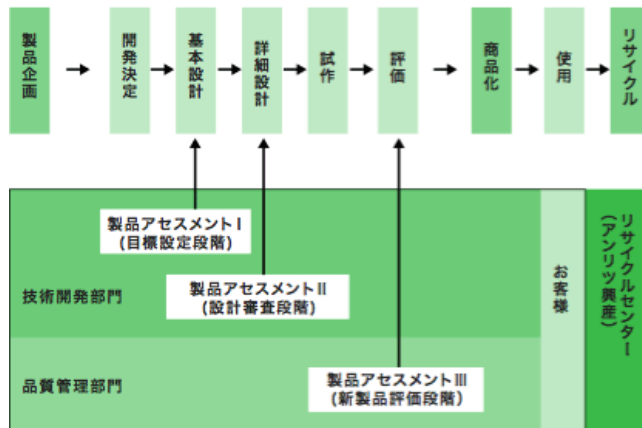
欧州連合（EU）では2005年からWEEE指令、2006年からRoHS指令、2007年からREACH規則が施行されました。製品環境規制への対応は、猶予のない状況となっています。海外グループ会社とは、グローバル環境管理会議などを通じてコミュニケーションを図り、情報を共有するとともに対応の統一化も行っています。また、製品設計段階で考慮しなければならないErP（Energy related Products）指令に対する事前の取り組みとして、グローバルで共通の製品アセスメント基準を作成し、海外拠点での環境配慮型製品の開発を推進しています。

グローバル製品アセスメント実施ガイドライン

環境に配慮した製品の開発は、国内アンリツグループ会社では製品アセスメントとして、アンリツ・カンパニー（アメリカ）ではDfE（Design for Environment）として個別に取り組んでいましたが、アンリツグループ各社がグローバルに同一な基準で環境に配慮した製品開発を展開するために、これらの手法を統合した、グローバル製品アセスメント基準およびグローバル製品アセスメント実施ガイドラインを2008年度に制定しました。現在はこの基準とガイドラインに沿って環境に配慮した製品の開発を実施しています。

■ 運用手順

グローバル製品アセスメントは、製品の開発工程（設計、試作、評価など）に製品アセスメント（目標設定段階、設計審査段階、新製品評価段階）を組み入れ、開発製品の商品化前までに実施します。客観的かつ責任ある製品アセスメントとするため、品質管理部門などによる第三者評価や目標がクリアできない場合のフォローアップを実施します。



※製品アセスメントの各段階では、必要に応じてフォローアップを実施する。

■ 評価項目

グローバル製品アセスメントの評価は、基準製品との比較による体積、質量や消費電力などの改善性を評価する基本項目と省資源、有害物質の削減や製造、物流、使用、廃棄における環境負荷削減の取り組みを評価する評価項目からなります。

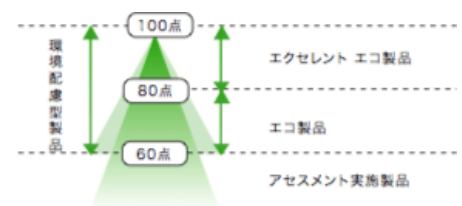
省資源化/製造時負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> 体積、質量の削減 リユースやリサイクル可能な部材の採用 機能拡張性、長寿命化 取扱説明書への再生紙の使用 消耗品の削減 加工困難材の削減 製造時廃棄物の削減
有害物質削減	<ul style="list-style-type: none"> 含有禁止物質の非含有 製造時の使用禁止物質の不使用 RoHS 指令対象物質の削減 その他有害物質の削減
物流負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> 包装箱の体積、質量の削減 包装材のリユースやリサイクル可能な材料の採用 包装材の種類削減 包装用樹脂部品への材料名表示 包装材の有害物質の削減 無包装や通い箱の採用
使用時負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> 動作時消費電力の低減 待機モード時消費電力の低減 使用時の騒音の低減
廃棄時負荷削減	<ul style="list-style-type: none"> 部品点数の削減 リサイクル困難材料の削減 ユニット構造の採用 ねじ本数の削減 一般工具による分離分解 樹脂部品への材料名表示 材料種類の削減、同一材料への統合 電池のリサイクル表示 WEEE 指令対応 中国版RoHS 対応

エコ製品制度

■ 環境配慮型製品

アンリツグループでは、グローバル製品アセスメントの結果から、エクセレント エコ製品とエコ製品を環境配慮型製品と認定しています。

- エクセレント エコ製品：評価点が80点以上で、エクセレント エコ製品の条件を満たした製品
- エコ製品：評価点が60点以上で、エコ製品の条件を満たした製品
- アセスメント実施製品：アセスメント実施製品の条件を満たした製品



■ エクセレント エコ製品の主な環境配慮基準

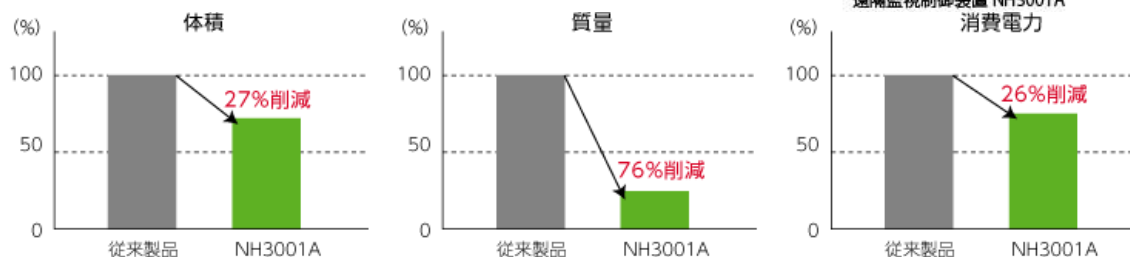
- 業界をリードする環境配慮性がある
- 製品に関する環境情報を開示できる
- 製法アセスメント（製造段階での評価）を実施している
- LCA（Life Cycle Assessment）を用いてCO₂排出量を評価している
- 製品の事業主体および主要生産拠点は、環境マネジメントシステムを構築している

エクセレント エコ製品には、カタログなどにマークと製品に関する環境情報を併記しています。



製品アセスメント事例

2011年度は国内アンリツグループの全開発製品の100%が環境配慮型製品となり、目標の80%以上を達成しました。
遠隔監視制御装置 NH3001Aは、上下水道施設などの維持管理を目的とした遠方監視制御システムにおいて、監視・制御・通信を行う装置です。
従来のユニット型の構造とは異なり、現場施設の稼働状況を監視センターに伝送する遠方監視機能と、監視センターから現場施設へ遠隔制御信号を伝送する遠隔制御機能の両方を1台で備えています。オールインワン製品としたため部品点数を削減することができ、体積・質量を低減できました。また、筐体の主要部材をすべてアルミ材を使用することでさらなる軽量化を図り、低消費電力LSI（マイコンなど）や高効率電源を採用することで消費電力も削減しています。



2011年度に認定されたエクセレント エコ製品

● MD8475A シグナリングテスタ



全通信システムに1台で対応し、省電力・小型・軽量化を実現

MD8475A シグナリングテスタ

アンリツ株式会社
マーケティング本部 プロダクトマーケティング部
プロジェクトチーム2
星野 真司



このMD8475Aは、スマートフォンなどの携帯電話端末と基地局間のプロトコル検証や音声通話、パケットアクセスなどの機能検証を行う基地局シミュレータと呼ばれるテスタです。世界中で展開されているすべてのセルラ通信システムに対応し、携帯端末のサービス・通信機能検証を1台で実現できます。

これから開発が本格化するLTE対応の複数セルラシステムを搭載したスマートフォンの検証が可能であり、LTEの高速通信を生かしたスマートフォンのさまざまなアプリケーション検証を行う、「スマートフォンテスタ」として、世界各国の通信事業者、メーカーで利用されています。

開発コンセプトとして、あらゆる通信システムの検証環境を小型・軽量・低消費電力で実現することを目指しました。排熱効率を維持しながら空間効率を向上させ、機構部品を削減し、ケースの板厚を最小化することで小型・軽量化を図りました。新設計のハードウェア部分では32nm微細プロセスのデバイスを採用するなど、デバイスレベルから低消費電力となる設計としました。

● MG3710A ベクトル信号発生器



高性能、高機能を2台分搭載しながら、小型化、省電力化を実現

MG3710A ベクトル信号発生器

アンリツ株式会社
R&D統轄本部 第1商品開発部
花屋 達郎



この製品は変調として基本であるAM・FM・φMに加え、直交変調器を備えたさまざまなデジタル変調に対応するベクトル信号発生器です。

また、「Dual RF + Quad Baseband」を実現したことで、現在進んでいるスマートフォンなど無線通信の大容量化に伴う次世代無線通信技術に柔軟に対応できる特徴を備えています。さらに、デジタル無線機器や電子部品の開発から製造までの信号源として幅広く使用できる計測器です。

従来の製品2台分の信号発生器を1台で実現するため、デジタル回路などの徹底的な共通化・集積化を行い、さらに信号発生器に必要な高出力、低歪みも実現するためにRF回路を全て見直し、再設計を行いました。その結果、従来製品に同等機能を実装して換算した値の2台分と比較して体積で57%、質量で55%、消費電力で32%の削減を達成しています。

<関連ページ>

[アンリツのエクセレント エコ製品](#)

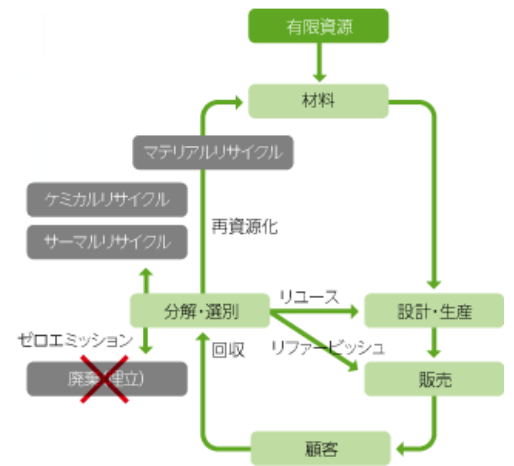
使用済み製品のリサイクル

■ リサイクルセンター

アンリツ（株）は、計測器業界に先駆けて2000年にグループ会社のアンリツ興産株式会社へリサイクルセンターを設立しました。2002年9月には産業廃棄物処分業許可を取得し、2003年度から業務を開始しています。2005年度からは使用済み製品のリユースを推進しました。廃棄物の分別を徹底し、リサイクルセンターから排出される廃棄物は、100%リサイクルされました。

また、デモンストレーションに使用した機器などの中から選りすぐったものを再生させたリファービッシュ計測器の販売を行っています。「再生」といっても「生みの親」アンリツ（株）のもとで修理・校正を行った信頼性の高い製品であり、納入後1年間の保証が付きまます。リファービッシュ計測器は、日本国内の大学・教育機関を対象とし、グループ会社のアンリツ興産（株）を販売代理店として販売を行っており、製品の長寿命化に貢献しています。

リサイクルシステム



[▲ページ先頭へ戻る](#)

サプライチェーンマネジメントの推進

[エコマネジメント、エコイン
ド](#)

[エコオフィス、エコファクト
リー](#)

[エコプロダクト開発](#)

[サプライチェーンマネジメント
の推進](#)

[アンリツグループ環境負荷マス
バランス](#)

[サイト別環境データ集](#)

[環境会計](#)

[環境管理活動の歴史](#)

サプライチェーンマネジメントの推進



環境に配慮した製品を提供するためには、製品を構成する部品や材料などの環境負荷が低減されていることが不可欠です。アンリツでは「グリーン調達ガイドライン」を定め、環境に配慮された部品や材料を優先的に調達するグリーン調達を全社的に取り組んでいます。

グリーン調達

アンリツでは環境に配慮した製品づくりを取引先さまとともに推進するために、1999年6月に「グリーン調達ガイドライン」を定め、グリーン調達を実施しています。

2001年度からは環境パートナー認定制度を設け、取引先さまの環境マネジメントシステム（EMS）の構築や製品アセスメントの実施状況について評価し、環境に積極的な取引先さまから環境に配慮した製品を優先的に調達するとともに、取引先さまの環境取り組みの推進を図っています。

2009年度からは、製品含有化学物質管理体制の構築状況の評価を取り込み、取引先さま評価の強化と効率化を図っています。2011年度は、生物多様性の保全の考え方を取り入れ、取引先さまに生物多様性保全の考え方をご理解いただくよう取り組みを始めました。

製品含有化学物質の管理

有害物質を製品から排除するには、取引先さまと、さらにそこに連なる企業が、製品に含まれる化学物質管理体制を適切かつ継続的に実施していることが必要です。そこで、アンリツグループでは2006年度から国内、海外の取引先さまへ訪問し、製品含有化学物質管理体制の確認を行ってきました。

2011年度は、REACH規則をはじめ、日本や世界で要求される化学物質規制に対応するため、新たなデータベース構築を行うとともに、取引先さまへ有害物質の含有事例を紹介し、サプライチェーン全体で製品に含まれる有害物質を削減するよう取り組みました。



取引先さまへの説明

[▲ページ先頭へ戻る](#)

アンリツグループ環境負荷マスマランス

- エコマネジメント、エコマイ
ンド
- エコオフィス、エコファクト
リー
- エコプロダクツ開発
- サプライチェーンマネジメント
の推進
- アンリツグループ環境負荷マ
スマランス
- サイト別環境データ集
- 環境会計
- 環境管理活動の歴史



アンリツグループ環境負荷マスマランス（2011年度）

アンリツでは事業活動に伴う環境負荷や環境保全活動を物量単位で数値化し、環境保全活動のさらなる効率化を図っています。また、それらを積極的に情報開示することで、環境に対する取り組みへの理解を深めていただけるよう努力しています。

環境負荷マスマランス

国内サイト別データ

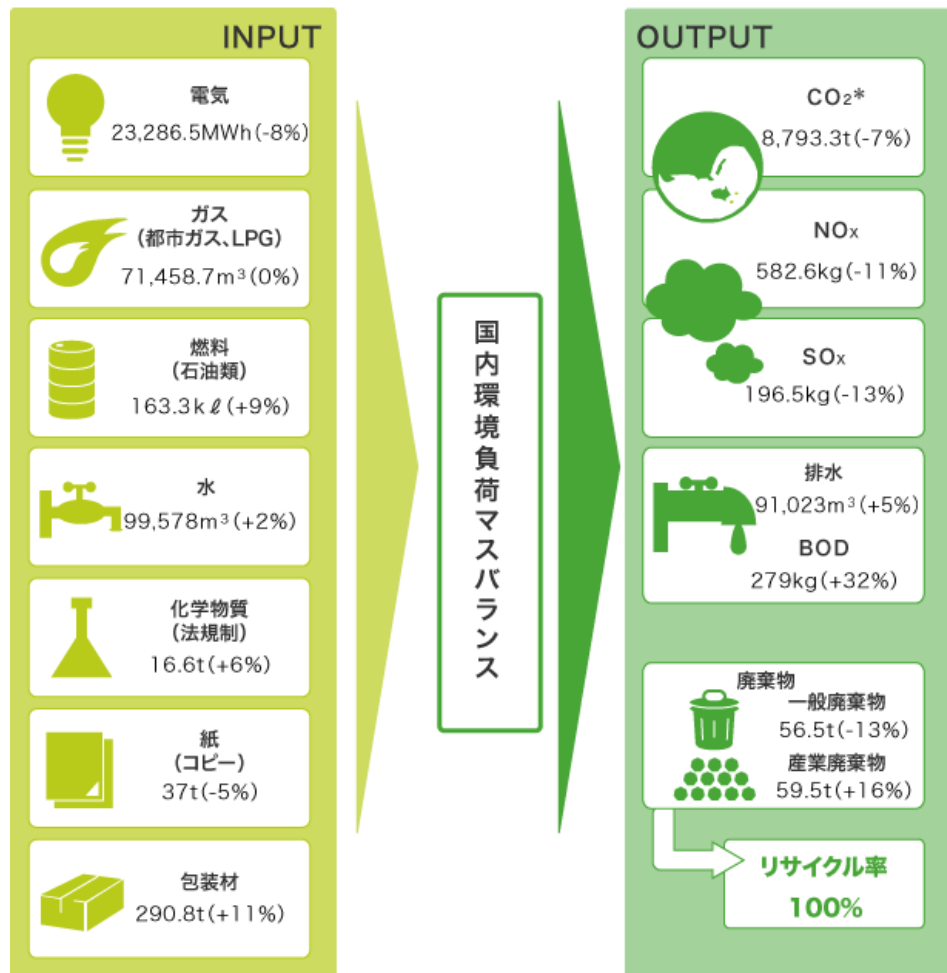
海外サイト別データ

国内アンリツグループ（厚木地区+栃沢地区+東北地区）の事業活動による環境負荷マスマランスを示します。（ ）内は2010年度比です。

環境負荷マスマランス：

事業活動と環境負荷の関連性をより明確に示すために、外部から企業内に持ち込まれる物質を物質名と物量で把握・表記し、企業から外部へ排出された物質と物量を把握・表記する対照表により、環境負荷を表したもの。

（端数調整のため、「国内サイト別データ」の合計とは必ずしも一致しません）



*CO₂排出量は、国内外のサイトいずれも「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令（2006.3.29改正公布）の排出係数を用いて算定しました。ただし、電力使用によるCO₂排出量は、電気事業連合会公表の排出係数（2010年度実績値：0.350）を使用して算定。

INPUT

電気	工場・オフィスなどで使用する電力会社からの購入電力
ガス	エネルギーとして使用する都市ガス
燃料	エネルギーとして使用する重油、軽油
水	水道水、地下水（再利用水を除く）
化学物質	法規制を受ける化学物質（毒物、劇物、危険物、有機溶剤、特定化学物質）
紙	工場・オフィスで使用するコピー紙
包装材	製品の包装・梱包材および物流時の梱包材

OUTPUT

CO ₂	電気、ガス、燃料の使用に伴って発生するCO ₂ （電気の使用に伴って発生するCO ₂ の排出係数は、電気事業連合会公表値（2010年度実績値）を使用しました）
NO _x	ガス、燃料の使用に伴って発生する窒素酸化物
SO _x	ガス、燃料の使用に伴って発生する硫黄酸化物
排水	工場・オフィスの工程系排水および生活系排水
BOD	生物化学的酸素要求量
一般廃棄物	事業活動に伴って生じた産業廃棄物以外の廃棄物（厨芥物、紙くず、木くずなど）
産業廃棄物	事業活動に伴って生じた廃棄物のうち汚泥、廃プラスチック類、廃酸、廃アルカリなど 「廃棄物の処理および清掃に関する法律」に定められた廃棄物
リサイクル	廃棄物を熱回収（サーマルリサイクル）、再生利用（マテリアルリサイクル）により、資材、原料または資源として用いること

[▲ページ先頭へ戻る](#)

アニリツグループ環境負荷マスバランス

エコマネジメント、エコマインド
 エコオフィス、エコファクトリー
 エコプロダクト開発
 サプライチェーンマネジメント
 の推進

アニリツグループ環境負荷マス
 バランス

サイト別環境データ集

環境会計

環境管理活動の歴史



アニリツグループ環境負荷マスバランス(2011年度)

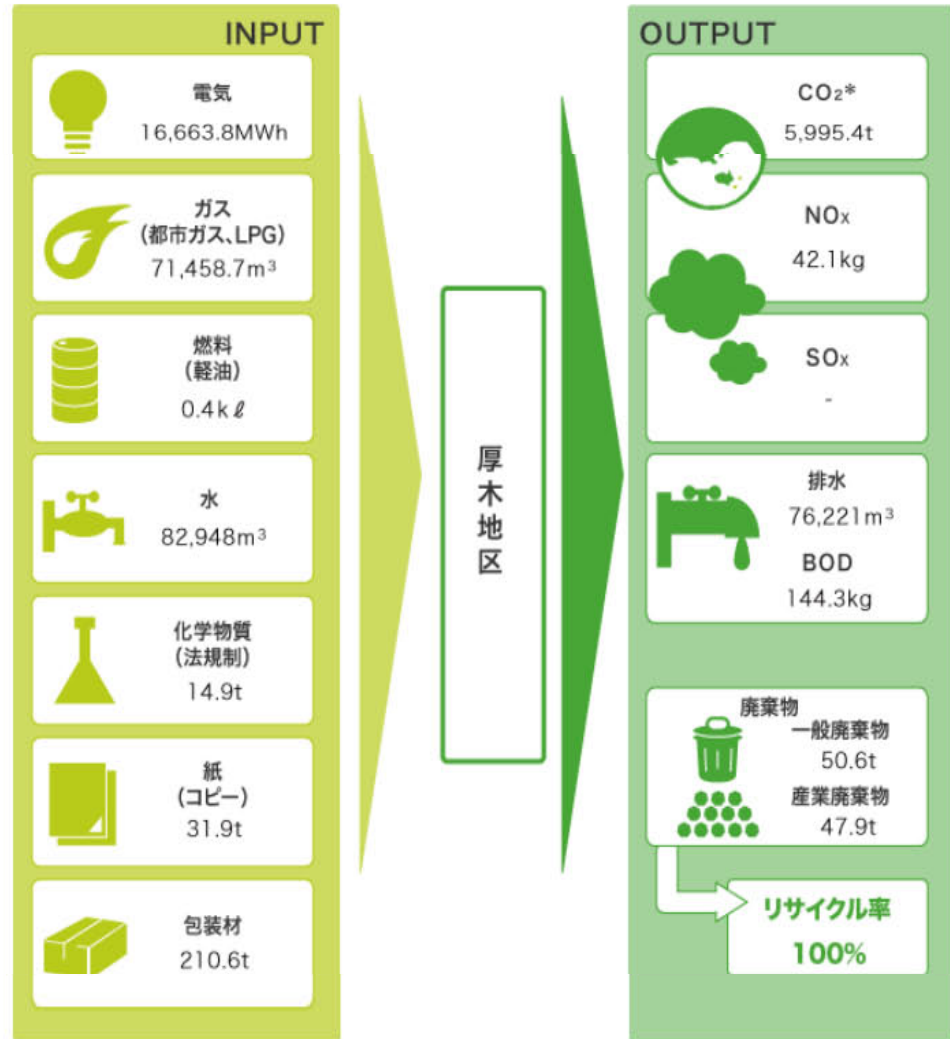
アニリツでは事業活動に伴う環境負荷や環境保全活動を物量単位で数値化し、環境保全活動のさらなる効率化を図っています。また、それらを積極的に情報開示することで、環境に対する取り組みへの理解を深めていただけるよう努力しています。

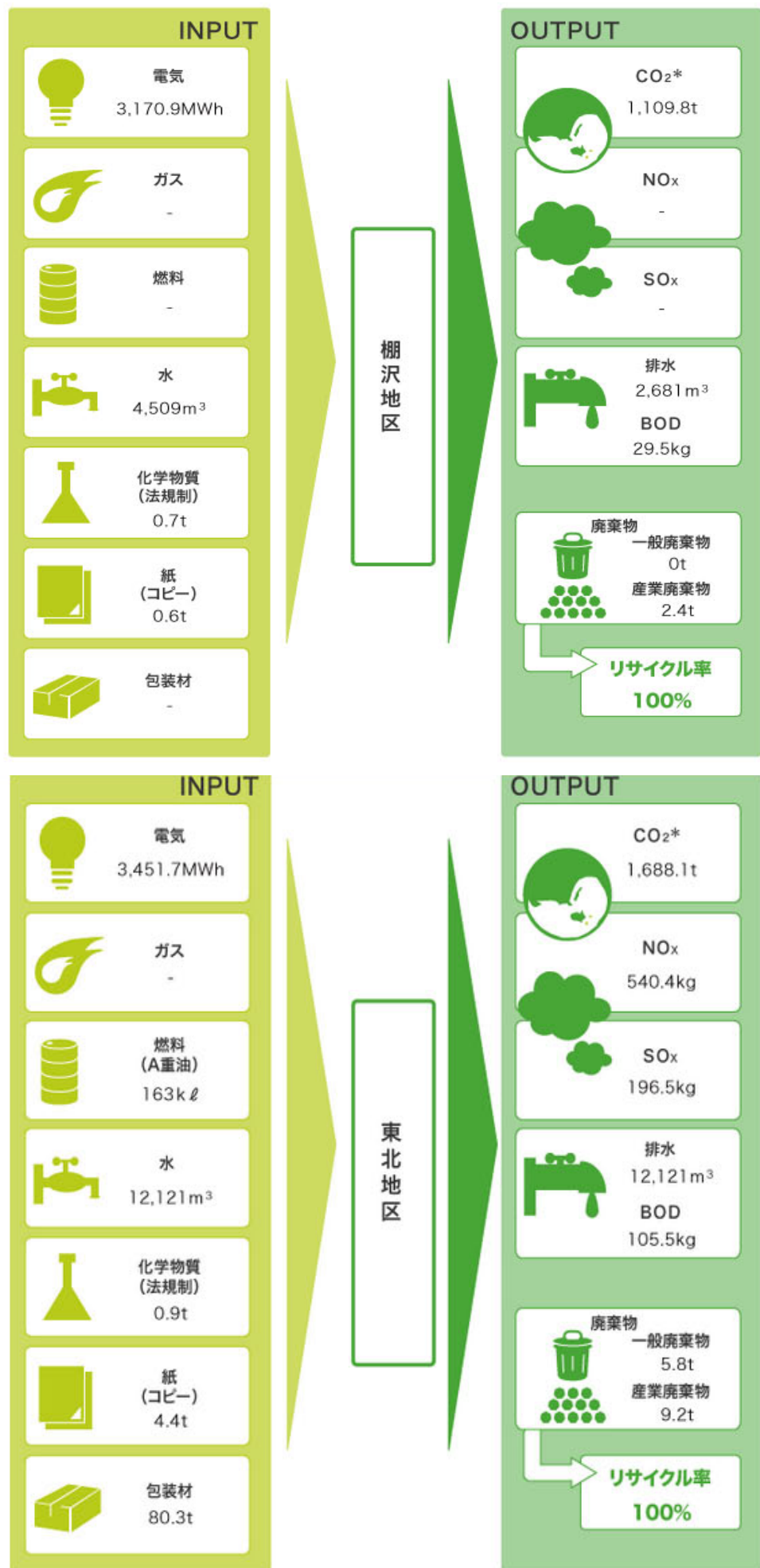
環境負荷マスバランス

国内サイト別データ

海外サイト別データ

国内アニリツグループ(厚木地区、裾沢地区、東北地区)の事業活動によるサイト別環境負荷マスバランスを示します。





*CO₂排出量は、国内外のサイトいずれも「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令(2006.3.29改正公布)の排出係数を用いて算定しました。ただし、電気の使用によるCO₂排出量は、電気事業連合会公表の排出係数(2010年度実績値:0.350)を使用して算定しました。

▲ページ先頭へ戻る

アンリツグループ環境負荷マシバランス

- エコマネジメント、エコマインド
- エコオフィス、エコファクトリー
- エコプロダクト開発
- サプライチェーンマネジメントの推進
- アンリツグループ環境負荷マシバランス**
- サイト別環境データ集
- 環境会計
- 環境管理活動の歴史

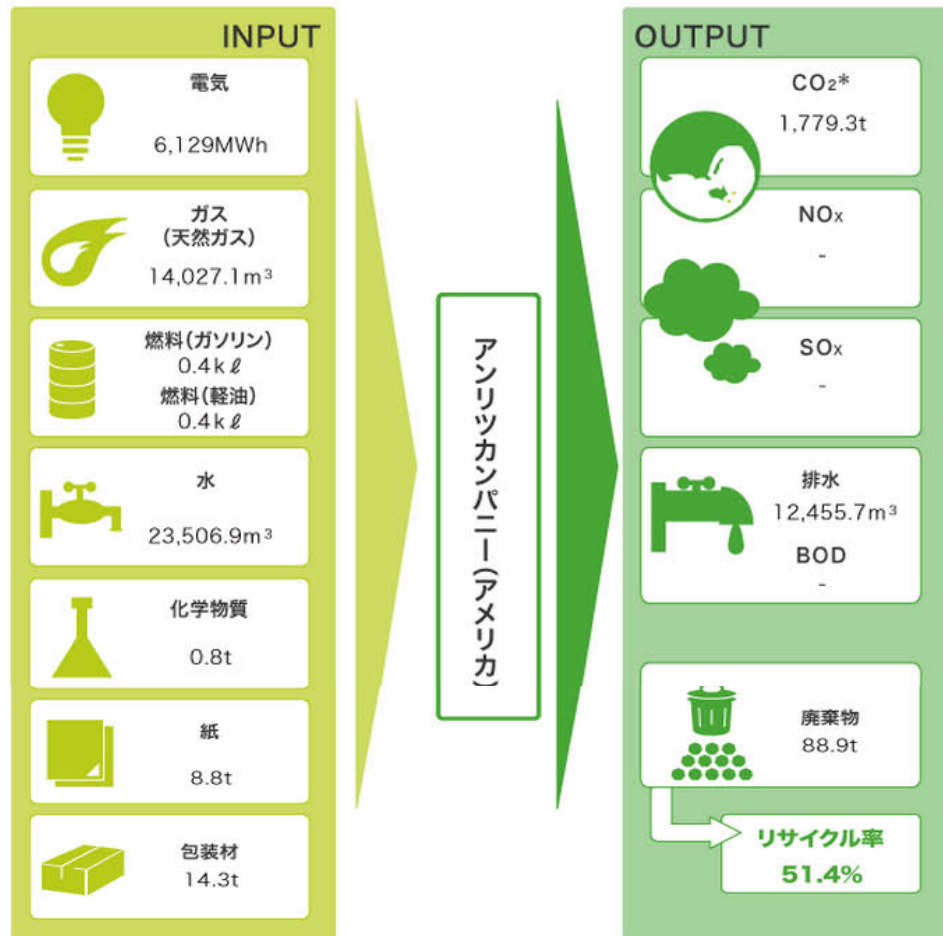


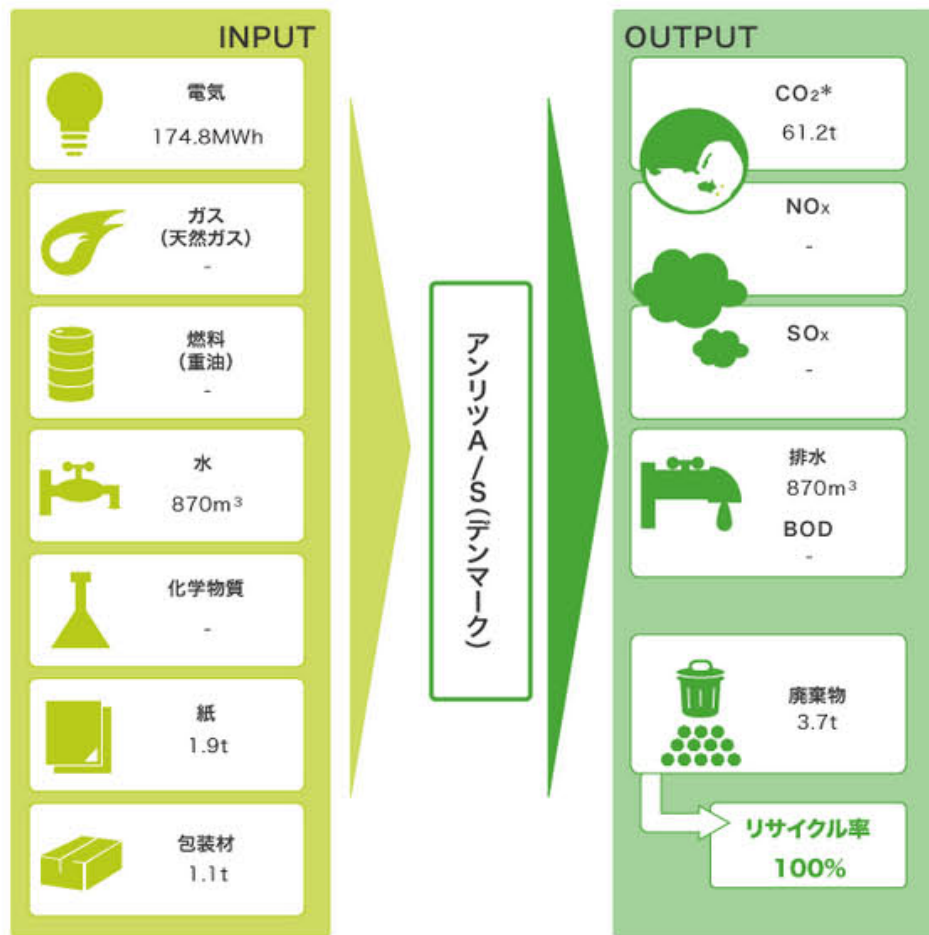
アンリツグループ環境負荷マシバランス(2011年度)

アンリツでは事業活動に伴う環境負荷や環境保全活動を物量単位で数値化し、環境保全活動のさらなる効率化を図っています。また、それらを積極的に情報開示することで、環境に対する取り組みへの理解を深めていただけるよう努力しています。

- 環境負荷マシバランス
- 国内サイト別データ
- 海外サイト別データ

海外アンリツグループ(アンリツカンパニー、アンリツA/S)の事業活動によるサイト別環境負荷マシバランスを示します。





*CO₂排出量は、国内外のサイトいずれも「地球温暖化対策の推進に関する法律」施行令(2006.3.29改正公布)の排出係数を用いて算定しました。ただし、電気の使用によるCO₂排出量は、電気事業連合会公表の排出係数(2010年度実績値:0.350)を使用して算定しました。

[▲ページ先頭へ戻る](#)

サイト別環境データ集

- エコマネジメント、エコマイ
ンド
- エコオフィス、エコファクト
リー
- エコプロダクツ開発
- サプライチェーンマネジメント
の推進
- アンリツグループ環境負荷マス
バランス
- サイト別環境データ集
- 環境会計
- 環境管理活動の歴史



サイト別環境データ集（2011年度）

サイト別11年度環境データは下記のとおりとなっております。

厚木地区

棚沢地区

東北地区

水質（公共下水道排出基準：法・厚木市条例）

項目*1	排出基準（mg/l）		実測値（mg/l）		
	規制値	自主管理基準	平均	最小	最大
pH	5-9	5.7-8.7	7.2	6.9	7.8
SS	600	300	10.5	2	24
BOD	600	300	9.4	1	23
ノルマルヘキサン 抽出物質	鉍物油	3	1	1	1
	動植物油	18	1	1	1
よう素消費量	220	90	1.8	1	3.5
ふっ素化合物	8	4.8	0.25	0.1	0.4
シアン化合物	1	0.4	0.01	0.01	0.01
全窒素	380	125	1.34	0.4	3.1
ほう素	10	4	0.5	0.5	0.5
溶解性鉄	10	4	0.17	0.05	0.27
銅	3	1.2	0.052	0.05	0.06
亜鉛	2	1.2	0.11	0.08	0.16
ニッケル含有物	1	0.6	0.05	0.05	0.05
鉛	0.1	0.06	0.014	0.01	0.03

*1.上記以外の公共下水道排出基準にかかわる項目は、原材料として使用していないため、測定していません

騒音（神奈川県条例）

測定箇所	規制値 (dB)	自主管理基準 (dB)	実測値 (dB)
東側敷地境界線	70 (昼間)	68 (昼間)	62.8
西側敷地境界線			49.4
南側敷地境界線			53.6
北側敷地境界線			60.5

地下水

項目	環境基準値 (mg/l)	実測値 (mg/l)
トリクロロエチレン	0.03	0.011
テトラクロロエチレン*2	0.01	0.087
1,1,1-トリクロロエタン	1	0.0005未満
1,1-ジクロロエチレン	0.02	0.002未満
シス-1,2-ジクロロエチレン	0.04	0.022

*2. テトラクロロエチレンは基準値を超過していますが、厚木地区における使用実績はありません

[▲ページ先頭へ戻る](#)

サイト別環境データ集

- エコマネジメント、エコマインド
- エコオフィス、エコファクトリー
- エコプロダクツ開発
- サプライチェーンマネジメントの推進
- アンリツグループ環境負荷マスマランス
- サイト別環境データ集**
- 環境会計
- 環境管理活動の歴史



サイト別環境データ集(2011年度)

サイト別11年度環境データは下記のとおりとなっております。

厚木地区

横浜地区

東北地区

水質(公共下水道排出基準:法・厚木市条例)

項目*1	排出基準(mg/l)		実測値(mg/l)		
	規制値	自主管理基準	平均	最小	最大
pH	5-9	5.7-8.7	7.5	7.2	8
SS	600	300	1.1	< 1	1.3
BOD	600	300	40.3	< 0.5	120
ノルマルヘキサン抽出物質	鉱物油	5	3	< 0.5	< 0.5
	動植物油	30	18	*2	
よう素消費量	220	90	2.7	< 0.5	5.7
ふっ素化合物	8	4.8	0.6	0.28	0.93
シアン化合物	1	0.4	< 0.01	< 0.01	< 0.01
全窒素	380	125	3.9	7.7	1.8
ほう素	10	4	< 0.1	< 0.1	< 0.1
全クロム	2	0.8	< 0.05	< 0.05	< 0.05
溶解性鉄	10	4	0.08	< 0.05	0.13
銅	3	1.2	< 0.05	< 0.05	< 0.05
亜鉛	2	1.2	0.03	0.02	0.02
溶解性マンガン	1	0.4	0.02	< 0.02	0.02
ニッケル含有物	1	0.6	< 0.05	< 0.05	< 0.05
鉛	0.1	0.06	< 0.01	< 0.01	< 0.01

*1. 上記以外の公共下水道排出基準にかかわる項目は、原材料として使用していないため、測定していません

*2. 鉱物油が自主基準値を超過したときに測定

騒音(神奈川県条例)

測定箇所	規制値(dB)	自主管理基準(dB)	実測値(dB)
東側敷地境界線	70 (昼間)	68 (昼間)	57.7
西側敷地境界線			50
南側敷地境界線			47.7
北側敷地境界線			57.5

▲ページ先頭へ戻る

サイト別環境データ集

- エコマネジメント、エコマイルド
- エコオフィス、エコファクトリー
- エコプロダクツ開発
- サプライチェーンマネジメントの推進
- アンリツグループ環境負荷マスマランス
- サイト別環境データ集**
- 環境会計
- 環境管理活動の歴史



サイト別環境データ集(2011年度)

サイト別11年度環境データは下記のとおりとなっております。

厚木地区

番沢地区

東北地区

水質(水質汚濁防止法排出基準:法・福島県条例)

項目*1	排出基準(mg/l)		実測値(mg/l)		
	規制値	自主管理基準	平均	最小	最大
pH	5.8-8.6	6.0-8.4	7.275	6.7	7.8
SS	70	30	4.825	2	7.1
BOD	40	20	8.775	2.4	18
溶解性鉄*2	10	4	0.16	-	-
銅*2	2	0.8	0.05	-	-
亜鉛*2	2	1.2	0.1	-	-
ニッケル化合物*2	2	0.8	定量下限値 (0.01mg/l)未済	-	-
鉛*2	0	0.08	定量下限値 (0.05mg/l)未済	-	-
大腸菌群数 (個/m ³)	3000	2400	0.58	0	3

*1. 上記以外の排出基準にかかわる項目は、原材料として使用していないため、測定していません

*2. 測定頻度が1回/年のため、最小、最大値は記載していません

騒音(福島県条例)

測定箇所	規制値(dB)	自主管理基準(dB)	実測値(dB)
東側敷地境界線	75 (昼間)	74 (昼間)	59.5
西側敷地境界線			53
南側敷地境界線			45
北側敷地境界線			51.5

大気(大気汚染防止法、福島県条例)

項目	排出基準		実測値
	規制値	自主管理基準	
ばいじん (g/m ³ N)	0	0	定量下限値(0.005mg/l)未済
硫酸化合物 (m ³ N/h)	4	3	0.08
窒素化合物 (ppm)	180	170	79.5

▲ページ先頭へ戻る

環境会計

- [エコマネジメント、エコマイナド](#)
- [エコオフィス、エコファクトリー](#)
- [エコプロダクト開発](#)
- [サプライチェーンマネジメントの推進](#)
- [アンリツグループ環境負荷マスマバランス](#)
- [サイト別環境データ集](#)

- [環境会計](#)
- [環境管理活動の歴史](#)



2011年度の費用額は、土壌汚染に関連した分析コストおよび人件費の増加により、対前年度比14.1%増となりました。投資額が大幅に増えたのは、ヒートポンプやターボ冷凍機などの設備機器を高効率なものへ更新したことによるものです。また、経済効果が7.9%増加したのは、東日本大震災に伴う節電の取り組みと、省エネ設備導入による効果です。

- 集計範囲：国内アンリツグループ
- 集計期間：2011年4月1日から2012年3月31日

[] 内の数値は、2010年度実績

環境保全コスト				効果		
大分類	中分類		投資額 (百万円)	費用額 (百万円)	経済効果 (百万円)	物量削減効果
事業エリア内コスト	公害防止コスト（リスク対策含む）		1.8 [0]	23.2 [17.3]	146.1 [146.1]	
	地球環境保全コスト	温暖化防止	19.4 [5.8]	7.6 [6.0]	98.0 [76.8]	1,891（トン-CO ₂ ） [1,460（トン-CO ₂ ）]
	資源循環コスト	資源循環／活用活動		95.4 [91.8]	0.0 [0.1]	有価物販売による削減効果 260（トン）
		廃棄物処理費		29.5 [24.6]	9.1 [13.7]	
上下流コスト	グリーン購入／調達コスト			23.0 [23.3]	31.2 [34.9] *	643（トン-CO ₂ ） [718（トン-CO ₂ ）] *
	環境配慮型製品設計			32.0 [22.1]		
	製品・容器包装などリサイクル、回収、処理			0.5 [0.0]		
管理活動コスト	環境教育／人材育成			19.5 [18.7]	0	
	EMS運用・維持、内部監査			45.8 [58.9]	0	
	環境負荷の監視測定コスト			32.8 [3.6]	0	
	環境保全対策組織の人件費			5.2 [9.2]	0	
	緑化整備・維持			10.5 [9.0]	0	
社会活動コスト	地域・環境保全団体などへの支援			1.3 [1.2]	0	
	情報公開			7.9 [6.6]	2.4 [0.2]	
研究開発コスト	環境負荷低減のための研究開発			2.0 [2.1]	0	
環境損傷対応コスト	環境損傷対応のためのコスト			0.0 [0.0]	0	
合計			21.2 [5.8]	336.0 [294.4]	286.7 [271.8]	
上下流コストを除いた合計					255.5 [236.9]	
前年度比			265.7%	14.1%	7.9%	

*製品使用時における環境負荷抑制効果（みなし効果）削減電力：1837 MWh [2052.4 MWh]

アンリツグループでは、温室効果ガス削減の取り組みの一環として、省エネタイプの設備への交換を順次行っています。2011年度は、高効率ヒートポンプチャラーに更新したことにより、4台から3台に台数を減らすことができました。また、変圧器を高効率のアモルファス変圧器へ更新しています。

これからも、省エネ施策を拡大し、さらなる温室効果ガス削減に努めます。

- 省エネ設備投資額：6,471（万円）
- CO₂削減効果：60.64（t）



アモルファス変圧器



高効率ヒートポンプチャラー

[▲ページ先頭へ戻る](#)

アンリツ環境管理活動の歴史

- エコマネジメント、エコマインド
- エコオフィス、エコファクトリー
- エコプロダクツ開発
- サプライチェーンマネジメントの推進
- アンリツグループ環境負荷マスマバランス
- サイト別環境データ集
- 環境会計
- 環境管理活動の歴史



アンリツ環境管理活動の歴史

- | | |
|-------|---|
| 2011年 | 福島県郡山市におけるPTA向け「放射能に関する勉強会」などの地域貢献推進 |
| 2010年 | 神奈川県知事より「神奈川県環境整備功労者表彰」(循環型社会形成の推進)を企業として受賞 |
| 2009年 | 日本経団連生物多様性宣言推進パートナーズへの参加 |
| 2008年 | ISO14001の認証取得範囲をアンリツ(株)営業拠点に拡大 |
| 2007年 | 「平成19年度かながわ地球環境賞」を受賞(厚木地区)
Anritsu Company(アメリカ)でISO14001認証取得 |
| 2006年 | アンリツ・カンパニー(USA)がカルフォルニア州モーガンヒル市から2006 Excellence Awardを受賞
厚木地区廃棄物対策協議会会長賞受賞 |
| 2005年 | 東北アンリツ(株)が福島県主催のゼロエミッション活動提案コンクールの事業部門において優秀賞を受賞
第1回グローバル環境管理会議をアンリツ・リミテッド(イギリス)で開催 |
| 2004年 | 『アンリツグループグリーン調達ガイドライン』に改訂
国内アンリツグループの全開発・製造拠点でゼロエミッション達成 |
| 2003年 | ISO14001の登録範囲を統合し、棚沢地区、厚木地区のグループ会社および東北アンリツ(株)を含める |
| 2002年 | 社内の環境関連部門(環境管理部、環境技術部)を統合し、環境推進センターを設置
ISO14001の登録範囲を拡大し、棚沢地区および厚木地区のグループ会社を含める
リサイクルセンター産業廃棄物処分の免許取得 |
| 2000年 | アンリツ・リミテッド(イギリス)でISO14001認証取得
アンリツエコ製品制度の制定
リサイクルセンター設立 |
| 1999年 | 『アンリツグリーン調達ガイドライン-製品開発用-』制定
東北アンリツ(株)でISO14001認証取得 |
| 1998年 | 厚木事業所でISO14001認証取得
関東通商産業局長から緑化優良工場として表彰
技術本部に環境技術グループ設置
鉛フリーはんだ委員会発足 |
| 1997年 | 環境方針制定 |
| 1996年 | グリーン購入ネットワークに加入
アンリツ環境マニュアル制定
厚木事業所で大防法対象特定施設(灯油ボイラー)廃止 |
| 1995年 | 厚木地区廃棄物対策協議会会長賞受賞 |
| 1994年 | 厚木ZP委員会を厚木環境管理委員会に改組
製品アセスメント委員会発足 |
| 1993年 | オゾン層破壊物質全廃(除く冷媒、消火器)
環境管理委員会発足
ニカド電池規制対応
環境理念および環境管理システム規程の制定
臭素系難燃剤の調査と対応
エネルギー対策専門委員会発足 |

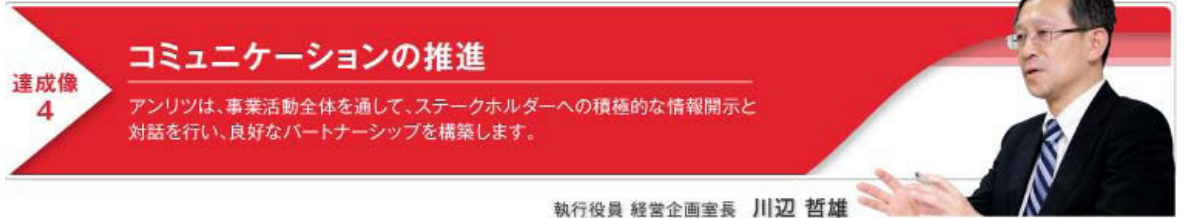
- 1992年 環境保全設計調査WG発足
- 1991年 (財)日本緑化センター会長賞受賞
- 1990年 化学物質の購入・給配の一元化開始
厚木事業所総務部に環境管理課設置
- 1987年 厚木事業所で工程系配管の架空配管整備
- 1981年 神奈川県県央地区行政センターから環境保全功労表彰を受ける
- 1980年 神奈川県緑化モデル工場として表彰される
- 1979年 神奈川県環境保全協議会から環境保全優良工場として表彰される
- 1978年 雨水以外の排水を公共下水道に接続 (厚木事業所)
- 1974年 厨房排水処理施設として活性汚泥処理方式施設導入
- 1970年 ZP (Zero Pollution) 委員会発足
- 1962年 化工工場開設に伴い排水処理施設設置 (厚木事業所)

[▲ページ先頭へ戻る](#)

達成像4 コミュニケーションの推進

CSR ニュース

- 事業概要
- トップコミットメント
- アンリツの成長とGLP2014
- アンリツのCSR達成像
- CSRマネジメント
- ステークホルダーダイアログ
- 達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献
- 達成像2 グローバル経済社会との調和
- 達成像3 地球環境保護の推進
- 達成像4 コミュニケーションの推進**
- 2011年度の実績、2012年度の目標
- 第三者意見・第三者意見を受けて
- CSRライブラリ
- 編集方針



アンリツはグローバルにステークホルダーの皆さまとのコミュニケーションを推進することを、重要課題の一つとして掲げています。2012年度は4月に発表したGLP2014のスタートの年になります。私たちはCSR活動に関する中期経営計画を検討して、2020年のビジョンを「ステークホルダーから信頼され続けるアンリツグループである」と描きました。

ステークホルダー、すなわちお客さま、株主・投資家の皆さま、取引先さま、各地域の皆さま、そして社員とのかかわりの中で、皆さまの声を聞き、お役にたてるよう活動し続けます。

今後もアンリツは社会の発展への貢献、環境への配慮、そして責任ある行動を取ることで皆さまから信頼される企業として、価値を生み続けていくことを目指します。

ステークホルダーとのコミュニケーション

アンリツグループはさまざまな機会を通して、多くのステークホルダーとコミュニケーションを図っています。

ステークホルダーとのコミュニケーション

ステークホルダーとのコミュニケーション



ステークホルダーとのコミュニケーション

アンリツは事業活動全体を通じて、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、良好なパートナーシップを構築します。

お客さま

株主・投資家

取引先さま

社員

アンリツは、お客さまに対するテクニカルサポートやクレームなどへの迅速な対応を重視しています。お客さまに安全と安心を提供できるよう、将来を見据えた戦略的なサポート体制およびグローバルな情報共有体制の構築を推進しています。

■ パキスタン、タイ、台湾でのセミナーを通じたお客さまとの交流

イスラマバードで1月11日に行われたセミナーでは、3G/LTEの計測技術にフォーカスし、通信業界から130名のお客さまにお越しいただきました。アンリツ・シンガポール拠点の社員が現地代理店をサポートし、サイトマスタ・OTDRなどの実機を使って、具体的な計測方法などをご紹介します。

また、タイのセミナーは1月18日にバンコク近郊で開催され、70名のお客さまに出席いただきました。3G/LTEに関する計測技術や製品ラインアップ、FTTxのテストソリューションを含むアンリツの豊富な計測ソリューションを紹介し、アンリツの高い技術を身近に感じていただきました。

台湾ではミリ波RF高周波技術アプリケーションセミナーと新製品広帯域ベクトルネットワークアナライザなどのセミナーを開催し、実際にお客さまに製品に触れていただきました。

このようなセミナーの機会を通じて、各国のお客さまと実機を使った交流を深めています。



パキスタンでのセミナー



タイでのセミナー

■ Mobile World Congress 2012

バルセロナで開催された、世界のモバイル関連企業が一同に会するMobile World Congress 2012では、第4世代の通信サービスLTE-AdvancedやVoLTE（LTE上で音声通話を実現する技術）をキーワードに、スマートフォンのR&Dや製造を対象とした機器や、基地局の製造・保守設備、ネットワークなどインフラの構築機器、通信負荷状態などをリアルタイムにモニタリングしたソリューションを紹介しました。

“World First”と銘打ったLTE-Advancedのコーナーでは、シグナリングテストによる高速ダウンロードをデモンストレーションし、お客さまにLTEにおけるアンリツのブランドを大きく印象付けるものとなりました。また、VoLTEについて、シグナリングテストや、ラピッドテストデザイナー（RTD）それぞれのソリューションでスマートフォンを用いたデモンストレーションを実施し、来場者の高い関心呼びました。



LTE-Advancedのデモンストレーション



来場者でにぎわうアンリツブース



<関連ページ>
[お客さまへのサービス](#)

▲ページ先頭へ戻る

ステークホルダーとのコミュニケーション

ステークホルダーとのコミュニケーション



ステークホルダーとのコミュニケーション

アンリツは事業活動全体を通じて、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、良好なパートナーシップを構築します。

お客さま

株主・投資家

取引先さま

社員

株主・投資家の皆さまのニーズを的確に応えるとともに、いただいたご意見を事業活動やIR活動の改善に役立てるために、双方向のコミュニケーションに努めながら積極的な情報開示を行っています。

■ ディスクロージャーポリシー (情報開示方針)

アンリツは、すべてのステークホルダーに対して、正しい情報を、その内容や開示環境の良し悪しにかかわらず、関連法規に従い、誠意ある対応をもって公正かつ積極的に開示します。

- ディスクロージャーポリシー

< 行動指針 >

1. 正しい情報を、
 - ・明確でわかりやすく発信する。
 - ・積極的に適時かつすみやかに発信する。
 - ・広く平等に伝わるように発信する。
2. 情報管理を徹底し、インサイダー取引の未然防止に努める。

■ IR (投資家向け広報) 活動の体制

アンリツは株主・投資家とのコミュニケーションを通じて、企業価値を適正に株価や株主還元へ反映させ、高い株主満足度の実現を目指しています。そのため、コーポレートコミュニケーション部IR推進チームが主体となり、IR活動を実施しています。株主・投資家の声は、経営層が参加する情報開示委員会や、IR活動に関連する経営企画、経理、法務の各部門担当者が参加するIR推進会議にフィードバックするとともに、情報開示の改善や事業活動の改善に繋げています。

- [投資家の皆さまへ](#)

■ 2011年度から2012年度第1四半期末までの活動

アンリツは、一般消費者とは直接の接点が少ない事業をグローバルに展開しているため、事業構造や収益を創造するしくみ、業績に影響を与える要因を株主・投資家の皆さまに正しくご理解いただくことを意識しながら、IR活動を実施しています。継続的な活動として、国内外機関投資家への四半期毎の事業説明活動や株主総会における株主懇談会の開催、アニュアルレポートや事業報告書等の発行、ホームページを通じた情報開示や株主・投資家さま向けアンケート、外部ファイナンス情報サイトへのIR情報の掲載などを実施しています。

2011年度から2012年5月までに、四半期毎の決算開示や新中期経営計画の説明に加え、ユーロ円建て新株予約権付転換社債100億円の株式への転換状況や、株式売出しに関する情報開示を行ない、株主・投資家からのお問合せ等に対応いたしました。また、海外IR活動、個人投資家向けの説明会の実施やIRフォーラムへの資料展示など、株主層の拡大に向け、幅広い投資家との積極的なコミュニケーションを行っています。



機関投資家向け決算説明会



株主総会後の株主懇談会
(アンリツギャラリーにて)



アニュアルレポート

■ 株主の構成 (2012年3月31日現在)

- [株式・社債・格付情報](#)

■ 外部評価

アンリツ(株)は、モーニングスター株式会社によるMS-SRI「モーニングスター社会的責任投資株価値指数」の構成銘柄に選定されている他、さまざまなSRIファンドに組み込まれています。また、投資家向けインターネットサイトの優秀企業賞として、大和インベスター・リレーションズ、Gomez、日興アイ・アールから連続して表彰されています。

[▲ ページ先頭へ戻る](#)

ステークホルダーとのコミュニケーション

ステークホルダーとのコミュニケーション



ステークホルダーとのコミュニケーション

アンリツは事業活動全体を通じて、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、良好なパートナーシップを構築します。

お客さま

株主・投資家

取引先さま

社員

取引先さまとの信頼関係を強化し、相互の成長につなげていくことが重要と考えています。取引先さまの参画により強固なパートナーシップを構築していくこと、さらにサプライチェーン全体で社会の期待・要請に応えていくことを重視しています。

- [コラム:ベストソリューションパートナーとして](#)

ステークホルダーとのコミュニケーション

ステークホルダーとのコミュニケーション



ステークホルダーとのコミュニケーション

Anritsuは事業活動全体を通じて、ステークホルダーへの積極的な情報開示と対話を行い、良好なパートナーシップを構築します。

[お客さま](#)

[株主・投資家](#)

[取引先さま](#)

[社員](#)

グローバルな事業展開および働き方の多様化に伴い、人権の尊重と多様性の推進はますます重要になっています。人財の採用や、組織内のコミュニケーション活性化の観点からも、多様な人財が働きやすい制度・職場環境の整備を重視しています。

<関連ページ>

[人権の尊重と多様性の推進、人財育成](#)

2011年度の実績、2012年度の目標

CSR ニュース

事業概要

トップコミットメント

アンリツの成長とGLP2014

アンリツのCSR達成像

CSRマネジメント

ステークホルダーダイアログ

達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2 グローバル経済社会との調和

達成像3 地球環境保護の推進

達成像4 コミュニケーションの推進

2011年度の実績、2012年度の目標

第三者意見・第三者意見を受け

CSRライブラリ

編集方針

2011年度の実績、2012年度の目標

2011年目標・レビュー、2012年度目標

※記載のある場合を除いて、対象はアンリツの海外および国内グループ会社です。

達成像	達成項目	2011年度実績	レビュー(2011年度実績)	達成度	2012年度目標
【達成像1】 安全・安心で快適な社会構築への貢献	お客様へのサービス	①グローバルにCS推進活動の開始(アジア地域) ②個別に3国語のグループウェア提供と社員のCS推進活動の推進 ③アンリツグループ全体へのCS教育の実施	①中国におけるCS推進活動の拡大(アジア、および中国向けマーケティングパートナーへのCS推進活動の実施) ②各営業所のCS推進、および中国向けサービスの提供(サポート)に関する改善(満足度調査の実施) ③各営業所向けCS推進研修、新任マーケティング向けCS教育の実施、社内報によるCS推進の促進	○	①CS推進活動の共有 ②社内情報網によるCS教育の推進 ③社内報・社内情報に活用
	企業ブランドの確立 社会貢献への積極的対応	WVの活用と適切なコミュニケーション戦略 社会的課題への社会的貢献活動の推進	WVのCSコミュニケーションによる業務改善 中国経済活動に際してはCS推進の検討と実施	○	①CSコミュニケーションの活用をグローバルに展開 ②中国経済活動に際してはCS推進の検討と実施
	コンプライアンスの定着	①グローバルにコンプライアンス推進の体制の確立と実施 ②社内規程(就業規則)の改定とグローバル展開 ③社内グループ会社へのコンプライアンス教育の実施 ④USと中国の法律の徹底 ⑤セキスイハイム教育の徹底 ⑥ISMS(環境セキュリティマネジメントシステム)の認証取得 ⑦不正取引の改善 ⑧外部協力会社とのセキュリティ確保体制の構築	①中国向け研修の開始、および国内グループ会社従業員へのISMS教育の実施 ②2011年10月にCS推進活動(中国向け)の開始とグローバル展開の開始 ③各グループ会社と中国向けセンターによるCS推進 ④他のグローバル市場への展開 ⑤セキスイハイム教育 ⑥ISMSの認証 ⑦不正取引の改善 ⑧外部協力会社とのセキュリティ確保体制の構築	○	①グローバルにコンプライアンス推進の体制の確立と実施 ②社内規程(就業規則)の改定とグローバル展開 ③社内グループ会社へのコンプライアンス教育の実施 ④USと中国の法律の徹底 ⑤セキスイハイム教育の徹底 ⑥ISMSの認証 ⑦不正取引の改善 ⑧外部協力会社とのセキュリティ確保体制の構築
	リスクマネジメントの推進 (情報セキュリティ)	①リスクマネジメントの推進 ②海外拠点法人の経営管理体制の整備(信託)などを通じたグローバルなリスクマネジメント体制の構築	①リスクマネジメントの推進 ②海外拠点法人の経営管理体制の整備(信託)などを通じたグローバルなリスクマネジメント体制の構築	○	①リスクマネジメントの推進 ②海外拠点法人の経営管理体制の整備(信託)などを通じたグローバルなリスクマネジメント体制の構築
【達成像2】 グローバル経済社会との調和	グローバル経済社会との調和	①グローバルに環境・社会・経済活動の推進 ②定期取引推進の推進 ③CSR推進の推進	①グローバルに環境・社会・経済活動の推進 ②定期取引推進の推進 ③CSR推進の推進 ④主要取引先76社中66社のアンケート実施、CSR推進の促進率を44%から36%に引き上げ推進	○	①グローバルに環境・社会・経済活動の推進 ②定期取引推進の推進 ③CSR推進の推進 ④主要取引先76社中66社のアンケート実施、CSR推進の促進率を44%から36%に引き上げ推進
	人権の尊重と多様な人材の活用	①グローバルに人権尊重の取り組み(人権研修)の推進 ②国内アンリツグループ全体での就業機会の確保 ③海外拠点向けアンリツグループとしての能力開発の推進とSDPの推進	①グローバルに人権尊重の取り組み(人権研修)の推進 ②国内アンリツグループ全体での就業機会の確保 ③海外拠点向けアンリツグループとしての能力開発の推進とSDPの推進	○	①グローバルに人権尊重の取り組み(人権研修)の推進 ②国内アンリツグループ全体での就業機会の確保 ③海外拠点向けアンリツグループとしての能力開発の推進とSDPの推進
	地域社会への貢献	①アンリツ(株)と各地の企業・行政機関との連携 ②メンタールも対策の拡充(中国) ③社員と地域の協力的な連携、社会貢献活動の推進(中国、UK、中国)	①アンリツ(株)と各地の企業・行政機関との連携 ②メンタールも対策の拡充(中国) ③社員と地域の協力的な連携、社会貢献活動の推進(中国、UK、中国)	○	①アンリツ(株)と各地の企業・行政機関との連携 ②メンタールも対策の拡充(中国) ③社員と地域の協力的な連携、社会貢献活動の推進(中国、UK、中国)
	社会貢献活動の推進	①社会貢献活動の推進(中国) ②グローバルに社会貢献活動の推進(中国、UK、中国) ③社員と地域の協力的な連携、社会貢献活動の推進(中国、UK、中国)	①社会貢献活動の推進(中国) ②グローバルに社会貢献活動の推進(中国、UK、中国) ③社員と地域の協力的な連携、社会貢献活動の推進(中国、UK、中国)	○	①社会貢献活動の推進(中国) ②グローバルに社会貢献活動の推進(中国、UK、中国) ③社員と地域の協力的な連携、社会貢献活動の推進(中国、UK、中国)
【達成像3】 地球環境保護の推進	地球環境保護の推進	①環境負荷低減(リサイクル) - 廃棄物(一般廃棄物・産業廃棄物)の発生量を160.4t以下に削減(国内アンリツグループ) - 廃棄物発生量(国内)115.9t(目標:160.4t以下) - 廃棄物発生量(中国)49.9t(目標:2010年度比5%削減(LSA)) ②省エネルギー - エネルギー使用量(製造部門)を2006年度比35%削減(国内アンリツグループ) - エネルギー使用量(製造部門)を2010年度比5%削減(LSA) ③エコプロダクツ(国内アンリツグループ) - 対象製品のすべてが環境配慮製品とする - 対象製品のすべてが省電力10%以上削減にする - 対象製品のすべてが省電力消費率30%以上の製品とする	①環境負荷低減(リサイクル) - 廃棄物発生量(国内)115.9t(目標:160.4t以下) - 廃棄物発生量(中国)49.9t(目標:2010年度比5%削減(LSA)) ②省エネルギー - エネルギー使用量(製造部門)を2006年度比35%削減(国内アンリツグループ) (目標:35%削減) - エネルギー使用量(製造部門)を2010年度比5%削減(LSA) (目標:5%削減) ③エコプロダクツ(国内アンリツグループ) - 対象製品のすべてが環境配慮製品として開発完了 - 対象製品のすべてが省電力10%以上削減にする - 対象製品のすべてが省電力消費率30%以上の製品とする	○	①環境負荷低減(リサイクル) - 廃棄物発生量(国内)115.9t(目標:160.4t以下) - 廃棄物発生量(中国)49.9t(目標:2010年度比5%削減(LSA)) ②省エネルギー - エネルギー使用量(製造部門)を2006年度比35%削減(国内アンリツグループ) (目標:35%削減) - エネルギー使用量(製造部門)を2010年度比5%削減(LSA) (目標:5%削減) ③エコプロダクツ(国内アンリツグループ) - 対象製品のすべてが環境配慮製品として開発完了 - 対象製品のすべてが省電力10%以上削減にする - 対象製品のすべてが省電力消費率30%以上の製品とする
	環境負荷低減(リサイクル)	①環境負荷低減(リサイクル) - 廃棄物(一般廃棄物・産業廃棄物)の発生量を160.4t以下に削減(国内アンリツグループ) - 廃棄物発生量(国内)115.9t(目標:160.4t以下) - 廃棄物発生量(中国)49.9t(目標:2010年度比5%削減(LSA))	①環境負荷低減(リサイクル) - 廃棄物発生量(国内)115.9t(目標:160.4t以下) - 廃棄物発生量(中国)49.9t(目標:2010年度比5%削減(LSA))	○	①環境負荷低減(リサイクル) - 廃棄物発生量(国内)115.9t(目標:160.4t以下) - 廃棄物発生量(中国)49.9t(目標:2010年度比5%削減(LSA))
	省エネルギー	②省エネルギー - エネルギー使用量(製造部門)を2006年度比35%削減(国内アンリツグループ) - エネルギー使用量(製造部門)を2010年度比5%削減(LSA)	②省エネルギー - エネルギー使用量(製造部門)を2006年度比35%削減(国内アンリツグループ) (目標:35%削減) - エネルギー使用量(製造部門)を2010年度比5%削減(LSA) (目標:5%削減)	○	②省エネルギー - エネルギー使用量(製造部門)を2006年度比35%削減(国内アンリツグループ) (目標:35%削減) - エネルギー使用量(製造部門)を2010年度比5%削減(LSA) (目標:5%削減)
	エコプロダクツ(国内アンリツグループ)	③エコプロダクツ(国内アンリツグループ) - 対象製品のすべてが環境配慮製品とする - 対象製品のすべてが省電力10%以上削減にする - 対象製品のすべてが省電力消費率30%以上の製品とする	③エコプロダクツ(国内アンリツグループ) - 対象製品のすべてが環境配慮製品として開発完了 - 対象製品のすべてが省電力10%以上削減にする - 対象製品のすべてが省電力消費率30%以上の製品とする	○	③エコプロダクツ(国内アンリツグループ) - 対象製品のすべてが環境配慮製品として開発完了 - 対象製品のすべてが省電力10%以上削減にする - 対象製品のすべてが省電力消費率30%以上の製品とする
【達成像4】 コミュニケーションの推進	ステークホルダーとのコミュニケーション	WVの活用と適切なコミュニケーション戦略	WVの活用と適切なコミュニケーション戦略	○	①ステークホルダーダイアログによるコミュニケーションの推進 ②グローバルに適切なコミュニケーション戦略の推進
	ステークホルダーとのコミュニケーション	WVの活用と適切なコミュニケーション戦略	WVの活用と適切なコミュニケーション戦略	○	①ステークホルダーダイアログによるコミュニケーションの推進 ②グローバルに適切なコミュニケーション戦略の推進

*LSAとはAnritsu Company(アンリツ)を指します。

詳細をご覧になる場合はこちらを開いてください。(PDF)

第三者意見・第三者意見を受けて

CSR ニュース

事業概要

トップコミットメント

アンリツの成長とGLP2014

アンリツのCSR達成像

CSRマネジメント

ステークホルダーダイアログ

達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献

達成像2 グローバル経済社会との調和

達成像3 地球環境保護の推進

達成像4 コミュニケーションの推進

2011年度の実績、2012年度の目標

第三者意見・第三者意見を受けて

CSRライブラリ

編集方針

第三者意見

社長さまはじめ従業員の皆さまからアンリツのCSRについて説明を受けた際、印象に残った一言があります。「アンリツはグローバル市場でビジネス展開している企業であるから、CSRにおいてもグローバルに通用する内容でなければならない。」このような意識を明確にもたれているからこそ、国連グローバル・コンパクトに2006年の時点で参加するとともに自らの将来のあるべき姿を4つの達成像として設定、ベクトルを定めながら経営理念、経営ビジョン、経営方針で構成される基本原則を着実に実践するという、体系立てられたCSR実践を可能としているように思います。

そしてアンリツの、いわば生命の源泉はなんといってもイノベーションであり、今回発表されたGLP2014でもふれられている事業創発にあるのではないのでしょうか。それらの源泉とCSR行動がどのように絡みあってより高みへと向かっていくのか、楽しみにしています。飛躍的なデータ通信量増大を現実のものとしながらも安定した信頼性の高い通信網の構築、デジタルデバイドの解消、サプライチェーンのさまざまな場面で関所として機能する測る技術提供など、アンリツの事業領域は近年において重要性を増している社会的課題の側面に直結しているものであり、否応なく外部からの期待値はさらに大きなものになってくるように思います。

本年度は初めてダイアログを開催されました。今後のCSR中期経営計画の策定にあたり、ステークホルダーのさまざまな期待を経営に生かしていただければと願います。



株式会社サステナビリティ会計事務所
代表取締役 福島 隆史



第三者意見を受けて

2011年度のCSR活動および事業活動とCSRの関連を記述した報告に対して評価をいただき、誠にありがとうございました。ご指摘いただいた社会の要請に応える事業活動をイノベーションを通して実現するとともに、CSR行動を絡ませ推進していきます。

今回の報告では、中期経営計画および2020年の経営ビジョンで示された事業活動と連動したCSR活動の推進をご紹介します。また、有識者によるダイアログを開催し、社会からの要請と当社が目指すCSR経営に関するアドバイスをいただきました。これからもアンリツが目指すCSR、本業を通して社会の要請に応えていく活動に生かします。

今後もステークホルダーの皆さまからのご意見などを真摯に受けとめ、CSR活動を推進していきます。

アンリツ株式会社
コーポレートコミュニケーション部 CSR推進チーム

CSR 情報

[会社紹介](#)[投資家のみなさまへ](#)[採用情報](#)[CSR 情報](#)[環境への取り組み](#)[研究開発活動](#)[資材調達基本方針](#)

CSR 報告2012



CSR 報告2012 ダイジェスト版 (PDF)

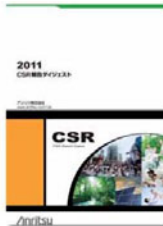
- [日本語 \(12.3MB\)](#)
- [英語 \(12.2MB\)](#)
- [中国語 \(12.7MB\)](#)

CSR 報告2012 詳細版 (PDF)

- [日本語 \(7.5MB\) ※](#)

※こちらのPDFは「CSR 報告2012」WEBサイトを一括して印刷する為のデータとして掲載しています。

CSR 報告2011



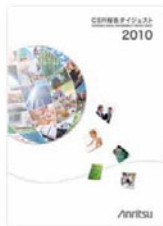
CSR 報告2011 ダイジェスト版 (PDF)

- [日本語 \(4.3MB\)](#)
- [英語 \(3.6MB\)](#)
- [中国語 \(3.6MB\)](#)

CSR 報告2011 詳細版 (PDF)

- [日本語 \(20.5MB\)](#)
- [英語 \(3.6MB\)](#)

CSR 報告2010



CSR 報告2010 ダイジェスト版 (PDF)

- [日本語 \(3.2MB\)](#)
- [英語 \(5.6MB\)](#)

CSR 報告2010 詳細版 (PDF)

- [日本語 \(13.8MB\)](#)
- [英語 \(19.3MB\)](#)

CSR 報告2009



CSR 報告2009 ダイジェスト版 (PDF)

- [日本語 \(4.2MB\)](#)
- [英語 \(3.8MB\)](#)

CSR 報告2009 詳細版 (PDF)

- [日本語 \(19.5MB\)](#)
- [英語 \(28.6MB\)](#)

CSR 報告 (2008以前)

- [CSR 報告2008 \(PDF:4.4MB\)](#)
- [CSR 報告2007 \(PDF:3.8MB\)](#)
- [CSR 報告2006 \(PDF:1.3MB\)](#)
- [CSR 報告2005 \(PDF:1.2MB\)](#)

環境報告 (2004以前)

- [環境報告2004 \(PDF:1.4MB\)](#)
- [環境報告2003 \(PDF:701KB\)](#)
- [環境報告2002 \(PDF:633KB\)](#)
- [環境報告2001 \(PDF:534KB\)](#)
- [環境報告2000 \(PDF:642KB\)](#)

[▲ ページ先頭へ戻る](#)

編集方針

CSR ニュース

[事業概要](#)[トップコミットメント](#)[アンリツの成長とGLP2014](#)[アンリツのCSR達成像](#)[CSRマネジメント](#)[ステークホルダーダイアログ](#)[達成像1 安全・安心で快適な社会構築への貢献](#)[達成像2 グローバル経済社会との調和](#)[達成像3 地球環境保護の推進](#)[達成像4 コミュニケーションの推進](#)[2011年度の実績、2012年度の目標](#)[第三者意見・第三者意見を受けて](#)[CSRライブラリ](#)[編集方針](#)

編集方針

2012年度の活動は「CSR報告2012」としてWebサイトで詳細を掲載し、ダイジェスト版として冊子を発行し報告しています。ダイジェスト版では、『アンリツCSR活動のあるべき姿(達成像)』ごとに、特にお伝えしたい活動についてわかりやすく報告することを基本としました。Webサイトでは重要性測定により導き出された12の重要課題を達成像ごとに整理し、それぞれの具体的な活動状況を掲載することで、より多くのステークホルダーの皆さまにお伝えすることに努めました。

参考としたガイドラインなど

- ISO26000：2010

活動報告対象期間

2011年4月1日～2012年3月31日
(一部には、対象期間前後の活動内容も含まれます)

活動報告対象組織

報告内容については、項目によりアンリツ(株)のみの場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。以下のルールで区別しています。

- 「アンリツ」または「アンリツグループ」
記事内容がアンリツ(株)およびグループ会社全体の場合
- 「アンリツ(株)」
記事内容がアンリツ(株)単体の場合
- 「グループ会社」
記事内容がグループ会社またはその一部の場合

公開日

2012年8月1日